

門真市第5次総合計画策定にかかる

# 市民意識調査 報告書

平成21年3月

門真市

# 目 次

第1章 調査の概要	1
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査の方法と回収結果	1
1-3. 調査項目及び分析方針	1
第2章 回答者の属性	3
2-1. 性別及び年齢	3
2-2. 居住地	3
2-3. 就業者・通学者の通勤・通学先	4
2-4. 家族構成	5
2-5. 居住する住宅形式及び所有形態	6
第3章 回答者の定住意向	9
3-1. 居住歴	9
3-2. 現居住地への居住理由	12
3-3. 定住・移住意向とその理由	16
3-4. 定住意向者の定住理由	18
3-5. 移住意向者の移住理由	21
3-6. 移住意向者の移住希望先	25
第4章 行政の分野別施策の評価と重要度	27
4-1. 全分野の施策の評価と重要度	27
4-2. 都市基盤整備に関すること	29
4-3. 教育・文化等に関すること	32
4-4. 保健・医療・福祉に関すること	35
4-5. 市民生活に関すること	38
4-6. 産業に関すること	41
4-7. 行政に関すること	44
第5章 魅力ある門真市を創るための主要な分野別施策	47
5-1. 市街地整備	47
5-2. 道路整備	50
5-3. うるおいの創出	53
5-4. 子育て支援	56

第6章 市民と行政の協働のまちづくりに向けて	59
6-1. 市民活動への参加状況	59
6-2. 市民ができること、市民が行うべきこと	61
6-3. 行政が行うべきこと	63
6-4. 門真市における協働の取り組みの状況	65
6-5. 市民と行政の協働の取り組みに向けて必要なこと	66
第7章 門真市のイメージについて	68
7-1. 門真市の現在のイメージ	68
7-2. 門真市のシンボルや誇り	71
7-3. 将来に望む門真市のイメージ	73
7-4. まちづくりに活用すべき資源	75
7-5. 今後の門真市を表す言葉（キーワード）	77
第8章 自由意見のまとめ	80
第9章 まとめ	81
付表 門真市第5次総合計画策定にかかる市民意識調査 調査票	84

## 第1章 調査の概要

### 1-1. 調査の目的

本調査は、市の施策満足度やまちづくりへの意識を調査し、平成20年度～21年度に策定する門真市第5次総合計画に市民の意見を反映させることを目的に実施した。

### 1-2. 調査の方法と回収結果

◇調査対象者：門真市内に在住する20歳以上の市民から2,500人を無作為に抽出

◇調査期間：平成21年1月26日～平成21年2月10日

◇調査方法：郵送による配布、郵送回収により実施した。

### 回収結果

調査対象者	調査対象者数（配布数）	有効回収数	有効回収率
20歳以上市民	2,500件	1,156件	46.2%

（参考）平成10年に実施した第4次総合計画策定に際する調査の有効回収率は45.1%であった。

### 1-3. 調査項目及び分析方針

#### (1) 調査内容

今回の市民意識調査では、次の7つの部門について設問を行った。

#### I. 回答者の属性

（居住地、性別、年齢、従業地・通学地、世帯構成）

#### II. 居住実態

（居住歴、来住時期、来住理由、住宅所有形態・形式、現居住地での定住意向・移住以降及び理由、移住意向者の移住希望先）

#### III. 行政の各分野別施策の満足度や重要度について

（都市基盤整備、教育・文化、保健・医療・福祉、市民生活、産業、行財政運営）

#### IV. 今後のまちづくりに重要と思われる施策展開について

（市街地整備、子育て環境 等）

#### V. 行政と市民の協働のまちづくりについて

（地域活動・市民活動への参加経験、施策別の市民と行政の役割、協働推進に必要な環境）

#### VI. 門真市のイメージについて

（他地域からみた本市のイメージ、本市のシンボル、本市の将来に望むイメージ、まちづくりに活用すべきこと、本市にふさわしいキーワード）

#### VII. まちづくりに関する自由意見

#### (2) 分析方針

本調査の分析については、分野（項目）ごとに単純集計し、必要に応じて男女別・年代別、地域・地区別集計を中心に分析を行った。

年代別については、基本的には10歳代毎に集計を行い、項目により適宜年代層を集約・区分し

ている。地域及び地区区分については、鉄軌道や幹線道路、主要河川などの物理的要素と市街地形態の類似性、広がりなどの定性的要素により、次図に示す「北部地域の A・B・C・D 地区、南部地域の E・F・G 地区」の 2 地域 7 地区に区分した。

また、項目によっては、これまでの総合計画策定時に実施された市民意識調査結果との対比を行った。

なお、グラフ・表等の表記については、数字の単位未満は四捨五入を原則とした。従って、総数と内訳の合計は一致しないことがある。

表 各地区該当町・大字一覧表

地区	該当町・大字	
北部地域	A 地区	朝日町、泉町、石原町、大倉町、垣内町、幸福町、常称寺町、月出町、中町、浜町、松葉町、御堂町、宮野町、向島町
	B 地区	栄町、小路町、堂山町、殿島町、本町、元町、門真
	C 地区	寿町、新橋町、末広町、速見町、古川町、柳町
	D 地区	大池町、大橋町、上野口町、上島町、北巢本町、下島町、城垣町、常盤町、野里町、宮前町
南部地域	E 地区	一番町、桑才、桑才新町、葎島、東田町、深田町、松生町、柳田町
	F 地区	打越町、沖町、北島、北島町、五月田町、舟田町、南野口町、三ツ島
	G 地区	江端町、上馬伏、島頭 1～4 丁目、北岸和田 1～3 丁目、岸和田 1～4 丁目、下馬伏、巢本町、千石東町、千石西町、東江端町、脇田町

図 集計地区区分図



## 第2章 回答者の属性

### 2-1. 性別及び年齢

本調査回答者の性別割合をみると、男性 44.9%、女性 54.4%（性別不明 0.7%）となっており、女性の回答者が約 10%と多くなっている。

なお、現状（平成 21 年 3 月 1 日）の本市人口の性別割合は、男性 49.7%、女性 50.3%となっており、人口の性別割合からみると女性の回答者の割合が現状の性別割合よりも高くなっている。

また、本調査回答者の年代別構成比をみると、20 歳代が 8.0%、30 歳代が 16.3%、40 歳代が 14.6%、50 歳代が 15.3%、60 歳代が 26.1%、70 歳代が 18.9%、不明・無回答が 0.8%となっている。

なお、現状（平成 21 年 3 月 1 日）の本市人口の上記年齢層の年代別割合は、20 歳代が 13.5%、30 歳代が 20.2%、40 歳代が 15.9%、50 歳代が 14.9%、60 歳代が 19.7%、70 歳代が 15.8%となっており、人口の年代別割合からみると 60 歳代以上の年齢層で回答者の割合が現状の年代別割合よりも高くなっている。

図 2-1 回答者及び現状の門真市の男女別構成比

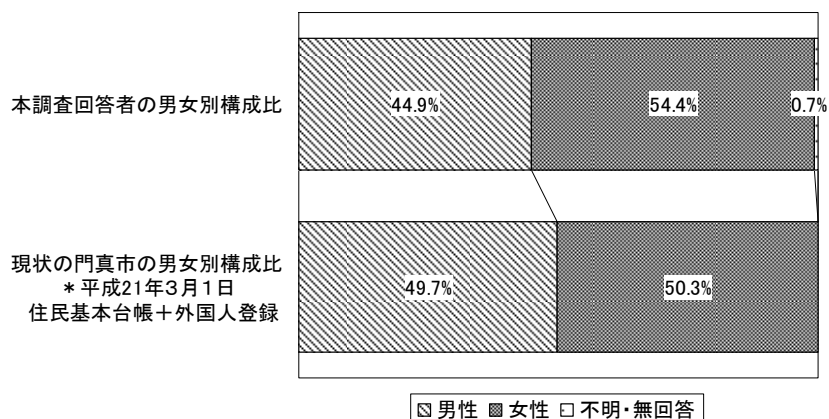
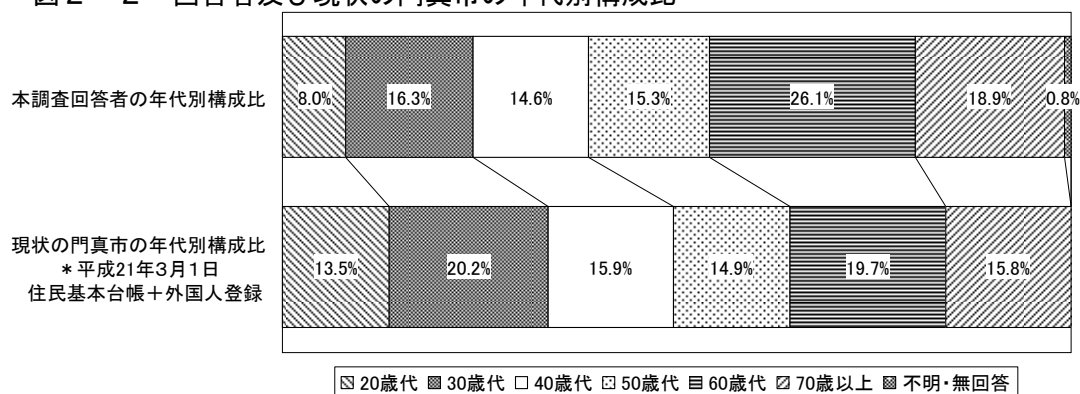


図 2-2 回答者及び現状の門真市の年代別構成比



### 2-2. 居住地

回答者の居住地別分布をみると、国道 163 号以北の“北部地域”と国道 163 号以南の“南部地域”についてみると、それぞれ 54.8%（633 人）、43.6%（504 人）となっている。

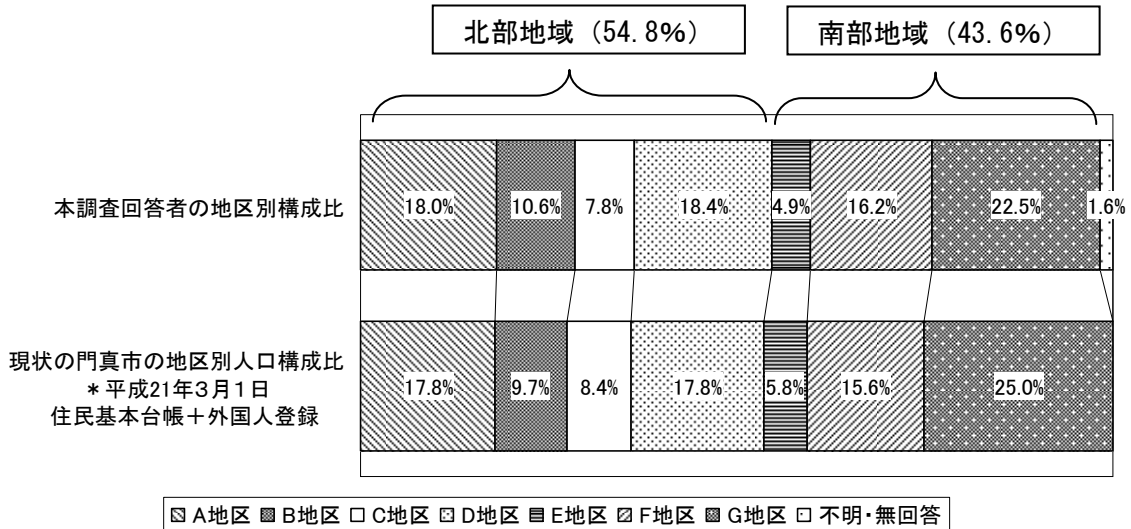
現状（平成 21 年 3 月 1 日）の本市の A 地区～G 地区の人口と回答者の割合をみると、0.75%～0.95%となっており、いずれも 1%弱となっている。

表 2-1 現状の地区別人口に占める回答者の割合

地区名	現況人口 (平成21年3月1日)	本調査の回答数	現況人口に占める割合
A地区	23,523	208	0.88%
B地区	12,786	122	0.95%
C地区	11,088	90	0.81%
D地区	23,495	213	0.91%
E地区	7,638	57	0.75%
F地区	20,607	187	0.91%
G地区	33,057	260	0.79%
合計	132,194	1,137	0.86%

注) 本調査の回答者数合計値には居住地不明者は含まない

図 2-3 回答者及び現状の門真市の居住地別人口割合



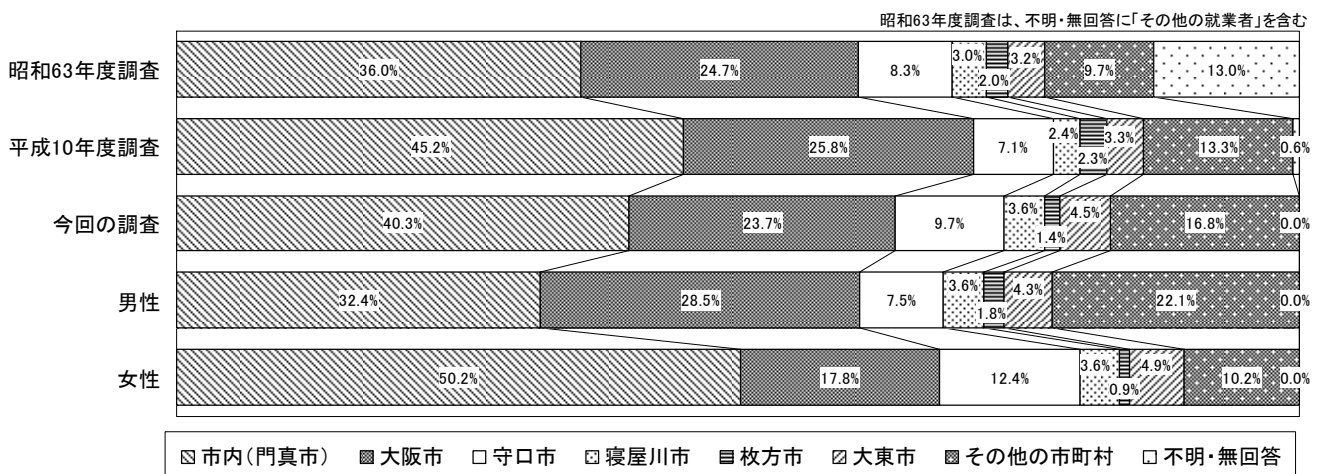
### 2-3. 就業者・通学者の通勤・通学先

就業者や通学者の通勤・通学先では、市内（門真市）が40.3%と最も多く、次いで大阪市の23.7%となっている。

男女別にみると、男性は市内（門真市）が32.4%と最も多く、次いで、大阪市が28.5%となっている。一方、女性の約半数（50.2%）は市内（門真市）が通勤・通学先となっている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、前回（第4次総合計画の策定＜平成10年度調査＞）の調査結果からは、市内（門真市）を通勤・通学先とする割合が約5%減少している。

図 2-4 就業者、通学者の通勤・通学先（含過年度調査結果）



## 2-4. 家族構成

回答者の家族構成タイプの割合をみると、二世代が52.4%と最も多く、次いで一世代の28.0%、単身の10.7%、三世代の6.3%、四世代の0.1%となっている。

家族構成と世帯人員との関係を見ると、一世代2人家族が27.4%と最も多く、次いで二世代3人家族の22.7%、二世代4人家族の16.3%、単身世帯の10.7%となっている。

また、回答者の世帯人員と居住する主要な住宅形式との関係を見ると、

「独立一戸建て住宅」では、“2人家族”の29.7%が最も多く、次いで“3人家族”の24.4%、“4人家族”の22.5%となっている。

「木造アパート・共同住宅（2階建以下）」では、“2人家族”が31.0%と最も多く、次いで“1人（単身）”の23.9%、“3人家族”の19.7%、“4人家族”の14.1%となっている。

「長屋建住宅」では、“2人家族”が46.6%と最も多く、次いで“3人家族”の20.3%、“4人家族”の13.6%となっている。

「中高層共同住宅（3階建て以上）」では、“2人家族”が36.8%と最も多く、次いで“3人家族”の23.8%、“1人（単身）”の15.6%、“4人家族”の13.8%となっている。

図2-5 回答者の家族構成タイプの割合

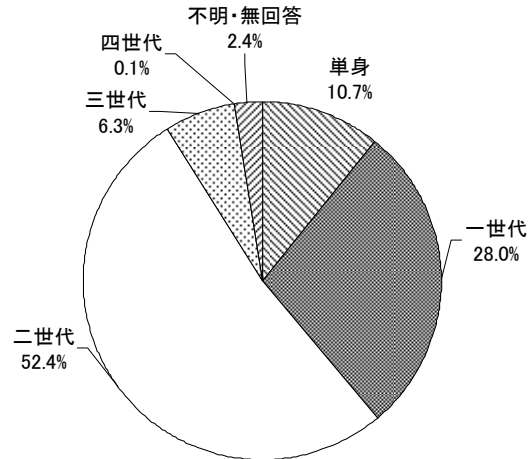
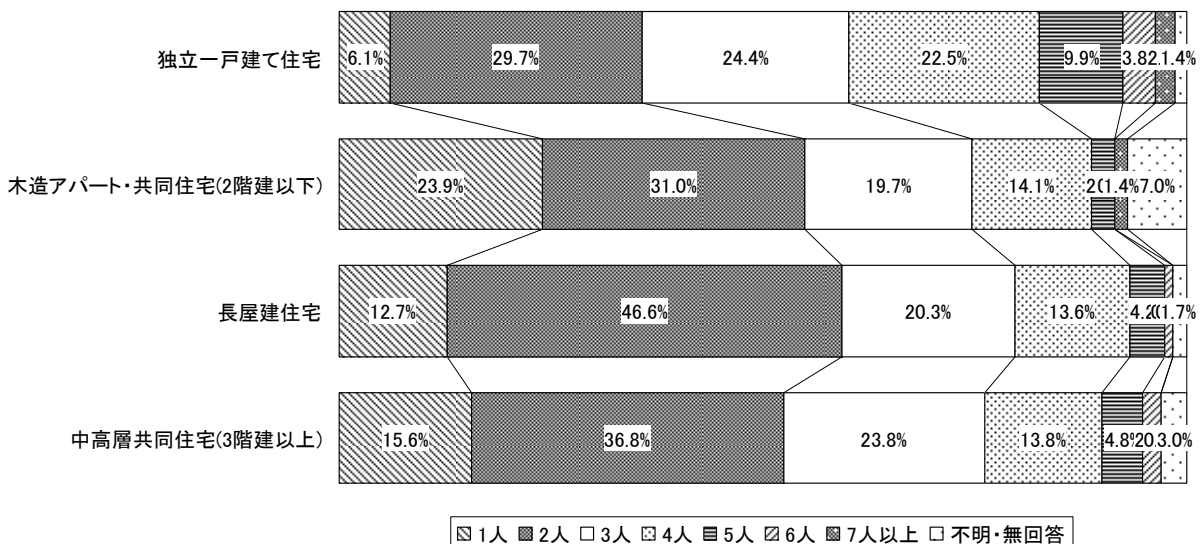


表2-2 回答者の家族構成タイプと世帯人員の割合

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	不明・無回答	合計
単身	124 10.7%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	124 10.7%
一世代	- 0.0%	317 27.4%	2 0.2%	2 0.2%	- 0.0%	2 0.2%	1 0.1%	- 0.0%	324 28.0%
二世代	- 0.0%	77 6.7%	262 22.7%	188 16.3%	53 4.6%	19 1.6%	7 0.6%	- 0.0%	606 52.4%
三世代	- 0.0%	- 0.0%	2 0.2%	21 1.8%	30 2.6%	11 1.0%	9 0.8%	- 0.0%	73 6.3%
四世代	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 0.1%	- 0.0%	1 0.1%
不明・無回答	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	28 2.4%	28 2.4%
全体	124 10.7%	394 34.1%	266 23.0%	211 18.3%	83 7.2%	32 2.8%	18 1.6%	28 2.4%	1,156 100.0%

図2-6 回答者の居住する住宅形式別の世帯人員別家族構成の割合



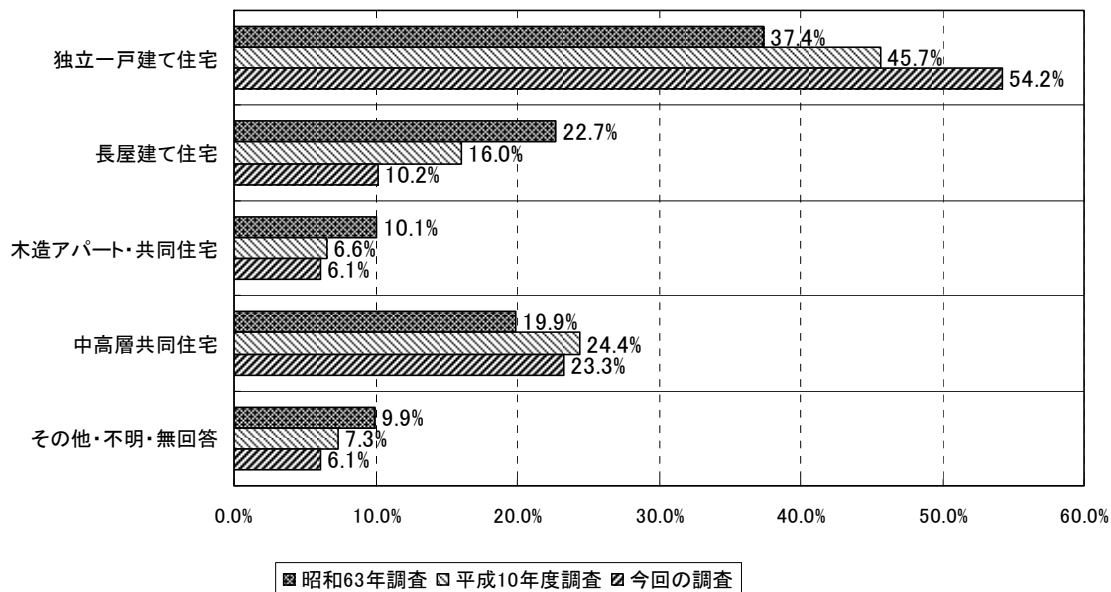


## 2-5. 居住する住宅形式及び所有形態

回答者が居住する住宅形式についてみると、“独立一戸建て住宅”が54.2%と最も多く、次いで“中高層住宅”の23.3%、“長屋建て住宅”の10.2%、“木造アパート・共同住宅（2階建以下）”の6.1%となっている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、前々回（第3次総合計画策定時＜昭和63年度＞）及び前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の調査結果からは、“独立一戸建て住宅”の割合が増加する一方、“長屋建て住宅”や“木造アパート・共同住宅（2階建以下）”の割合が減少している。

図2-7 回答者が居住する住宅形式別の割合（含過年度調査結果）



回答者が居住する住宅の所有形態についてみると、図2-8に示すように“持ち家”が66.8%と最も多く、次いで“間借り”の17.8%、“民営借家”の6.5%、となっている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、前々回（第3次総合計画策定時＜昭和63年度＞）及び前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の調査結果からは、“持家”の割合が徐々に増加する傾向にある。また、“間借り”が過年度調査では1%台であったが、今回の調査の結果では17.8%と大幅に増加している。“民営借家”などの割合は減少する傾向にある。

また、今回の調査の住宅形式別の所有形態についてみると、図2-9に示すように“独立一戸建て住宅”の“持家”が50.6%と最も多く、次いで“中高層共同住宅”の“持家”の7.3%、“中高層共同住宅”の“間借り”の6.7%、“長屋建て住宅”の“持家”の6.1%、“中高層共同住宅”の“民営借家”の5.6%、“木造アパート・共同住宅”の“間借り”の4.2%となっている。

図 2-8 回答者が居住する住宅の所有形態別の割合（含過年度調査結果）

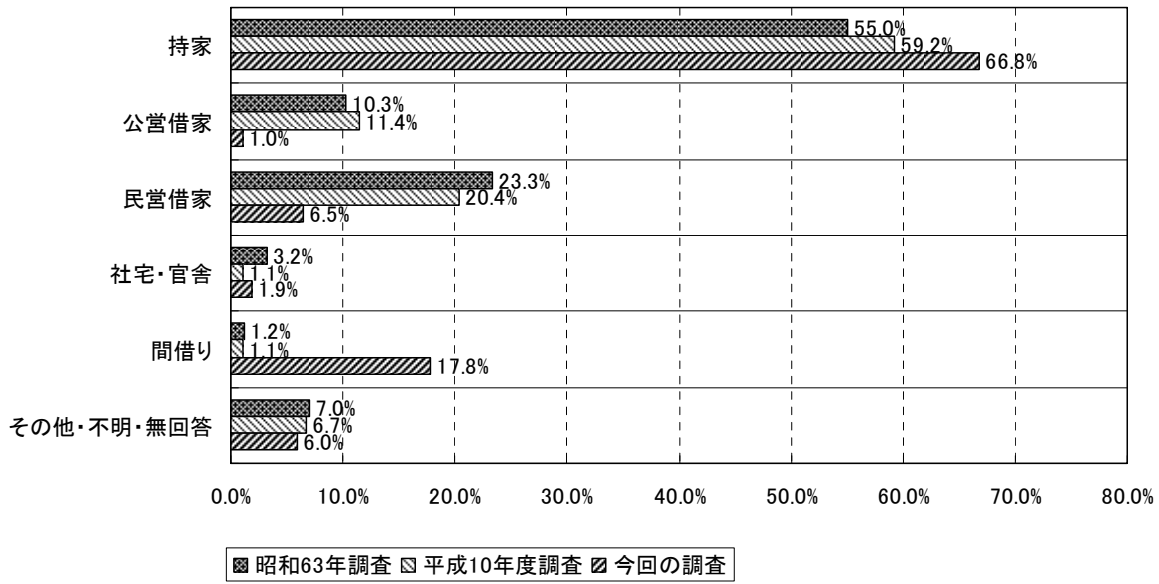
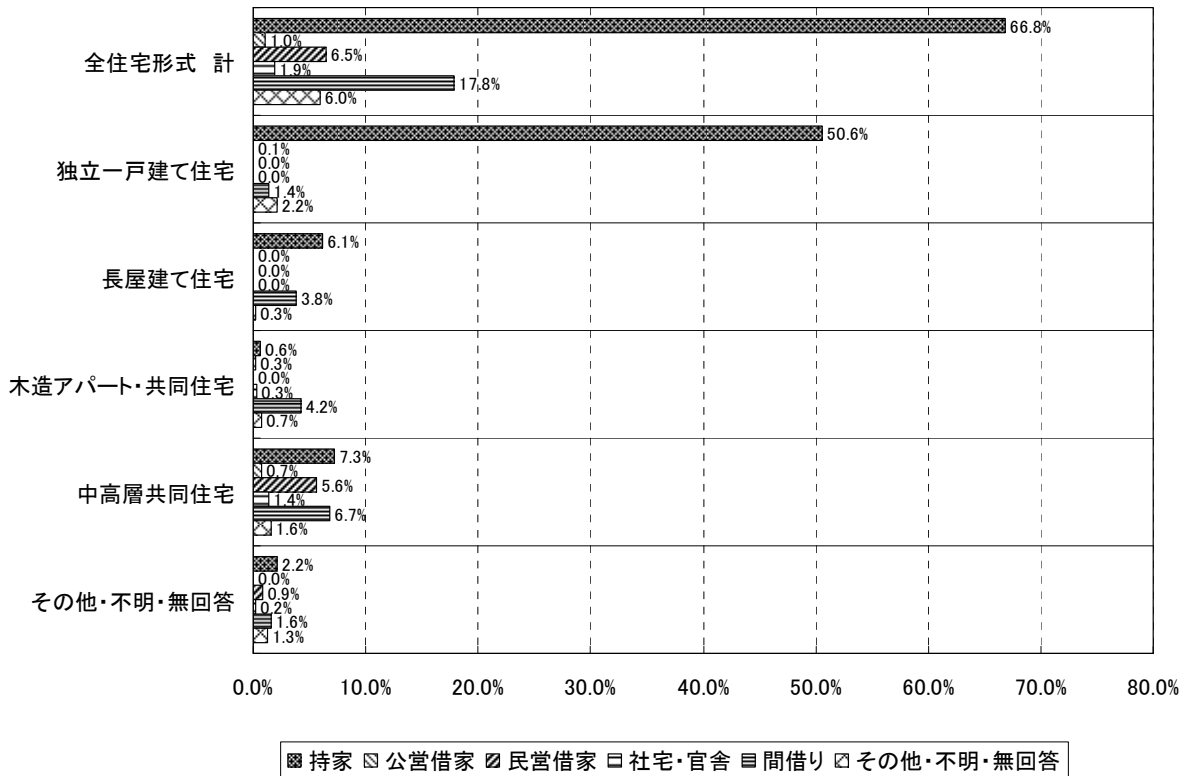


図 2-9 回答者が居住する住宅形式別の所有形態の割合



回答者の家族構成別の住宅形式別についてみると、単身では、“中高層共同住宅”が33.9%と最も多く、次いで“独立一戸建て住宅”の30.6%となっている。

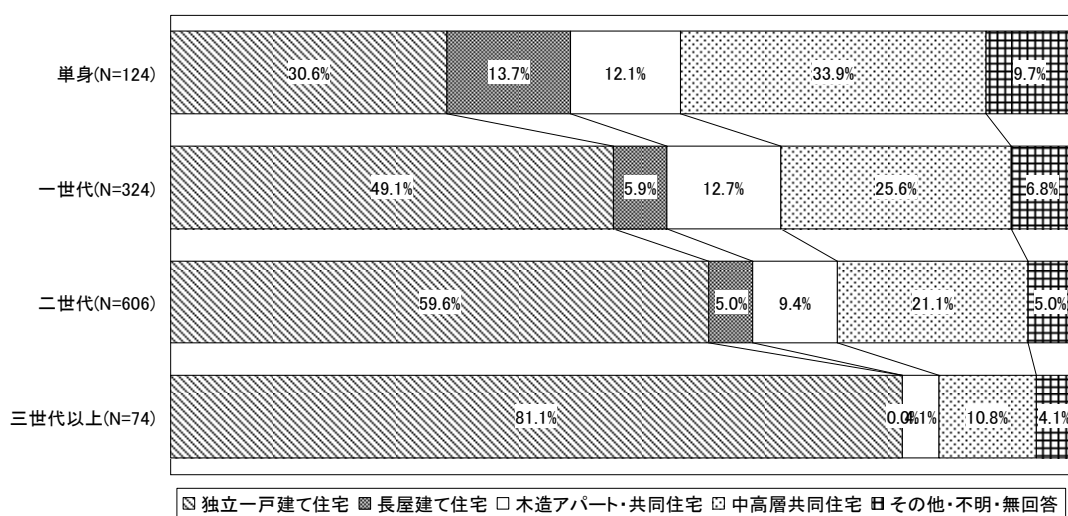
一世代家族では、“独立一戸建て住宅”が49.1%と最も多く、次いで“中高層共同住宅”の25.6%となっている。

二世世代家族では、“独立一戸建て住宅”が59.6%と最も多く、次いで“中高層共同住宅”の21.1%となっている。

三世世代以上の家族では、“独立一戸建て住宅”が81.1%と最も多く、次いで“中高層共同住宅”の10.8%となっている。

居住する世代が多いほど“独立一戸建て住宅”に居住する割合が高くなる傾向となっている。

図2-10 回答者が居住する住宅形式別の所有形態の割合



### 第3章 回答者の定住意向

#### 3-1. 居住歴

現居住地への居住起因は、89.5%が“引っ越し  
て来てから”、9.7%が“生まれたときから”とな  
っている。

回答者本人あるいは本人の家族などが現居住地  
に住むことになった年代について、今回の調査結  
果から多い順にみると、平成10年以降が26.1%  
と最も多く、次いで昭和50年代の19.3%、昭和  
40年代の17.7%、平成元年～9年の14.9%と続  
いている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市  
民意識調査の結果と比較すると、平成10年以降の居住者が26.1%、約1/4が増加しているため  
単純にこれまでの調査と比較できないが、前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）と  
比較して約1/4以上の割合が低下している居住時期をみると、平成元年～9年に居住した回答者  
が前回調査では29.7%を占め、今回の調査ではその割合は14.9%と半減している。

他の居住年代ではそれほど大きな割合の低下はみられず、この結果からは、比較的短期間の居住  
者の入れ替りの多いことがうかがえる。

図3-1 回答者の現居住地への居住起因

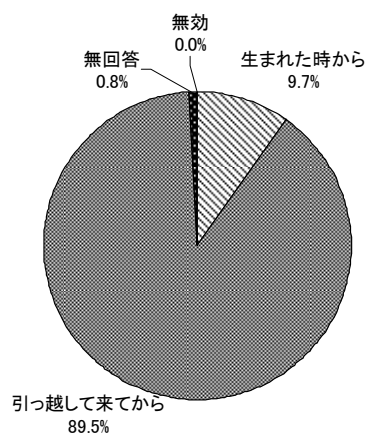
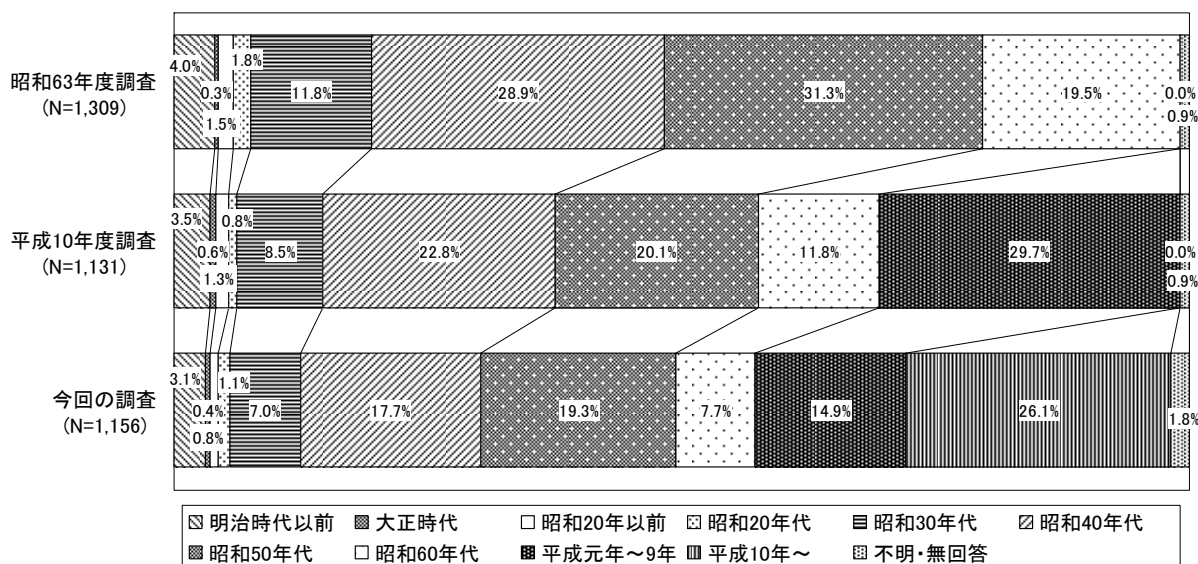
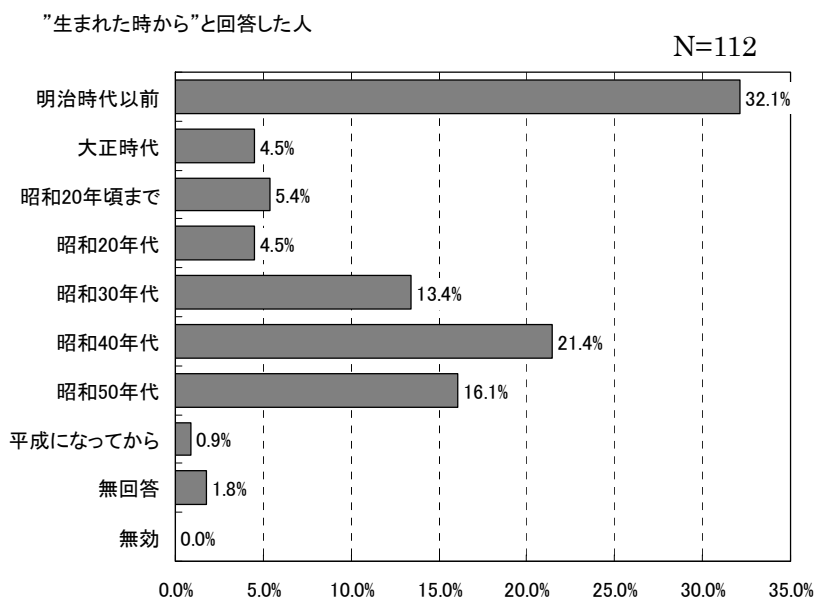


図3-2 回答者あるいは回答者の家族の現居住地への転入時期（含過年度調査結果）



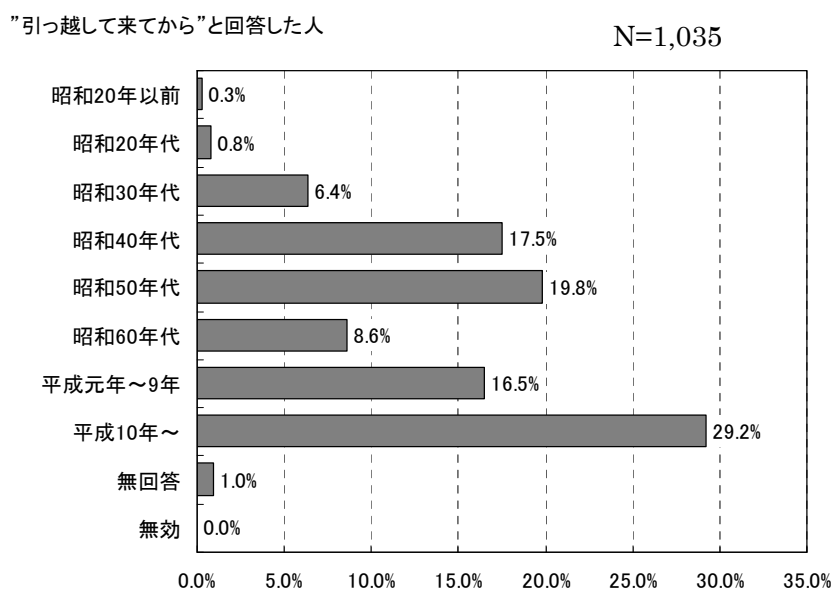
また、“生まれた時から”と回答した者のうち、“明治時代以前”が32.1%と最も多く、次いで、昭和40年代の21.4%、昭和50年代の16.1%、昭和30年代の13.4%となっており、古くからの集落や本市が急激な人口増を示した高度経済成長期に居住した世帯の後継者が多くを占めていると考えられる。

図3-3 “生まれた時から”と回答した者の家族の現居住地への転入時期



一方、“引っ越して来てから”と回答した者のうち、“平成10年～”が29.2%と最も多く、次いで、“昭和50年代”の19.8%、“昭和40年代”の17.5%、“平成元年～9年”の16.5%と続き、昭和40年代～50年代の高度経済成長期の転入者と比較的近年の転入が多くなっている。

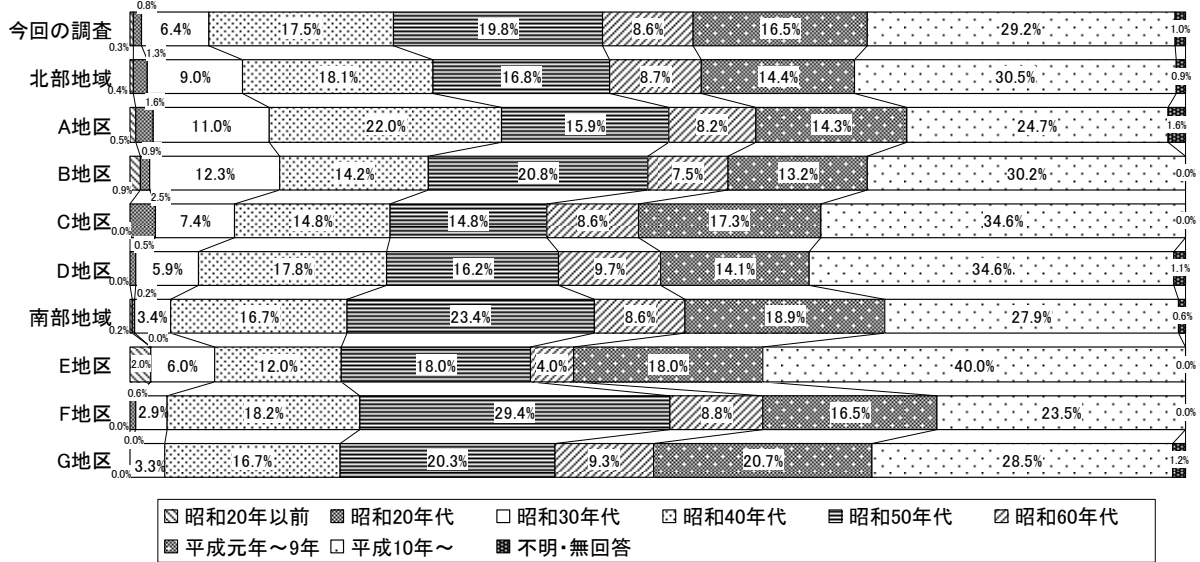
図3-4 “引っ越して来てから”と回答した者の転入時期



なお、“引っ越して来てから”と回答した者の地域・地区別に転入時期の割合をみると、“平成10年～”と回答した者は、“北部地域”が30.5%となっており、“南部地域”の27.9%よりも高くなっている。

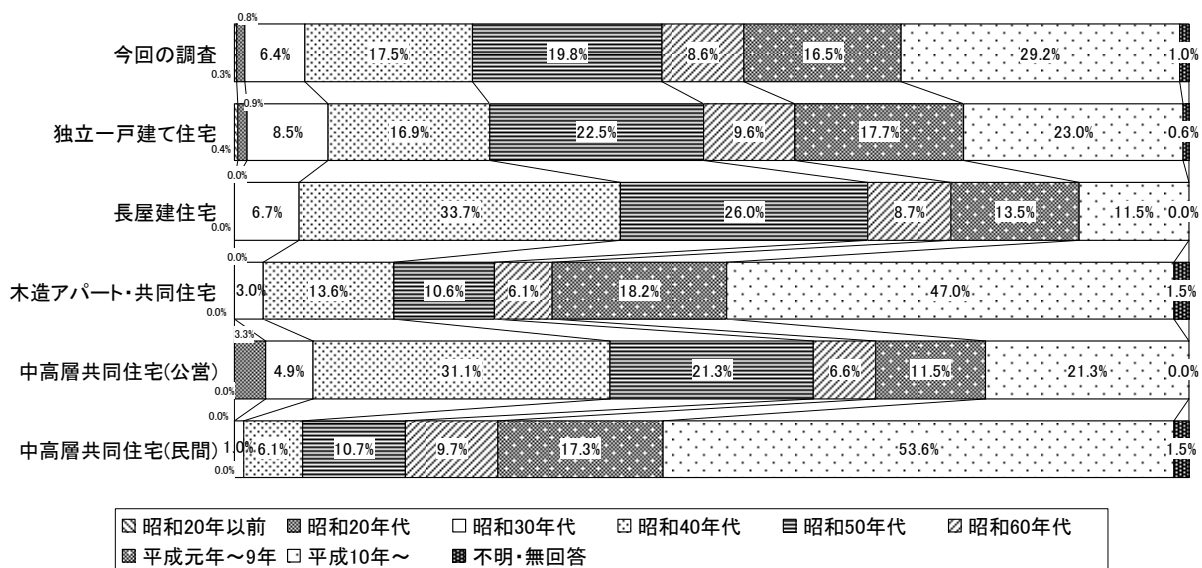
特に、北部地域の“C地区”や“D地区”、南部地域の“E地区”では“平成10年～”と回答した者が4割近くを占めている。

図3-5 “引っ越して来てから”と回答した者の地域・地区別の転入時期



また、“引っ越して来てから”と回答した者の住宅形式別に転入時期の割合をみると、“平成10年～”と回答した者は、“中高層共同住宅（民間）”が53.6%と最も多く、次いで“木造アパート・共同住宅”の47.0%となっており、これらの住宅では居住期間が10年未満の居住者が約半数を占めている。

図3-6 住宅形式別にみた回答者の引っ越してきた時期



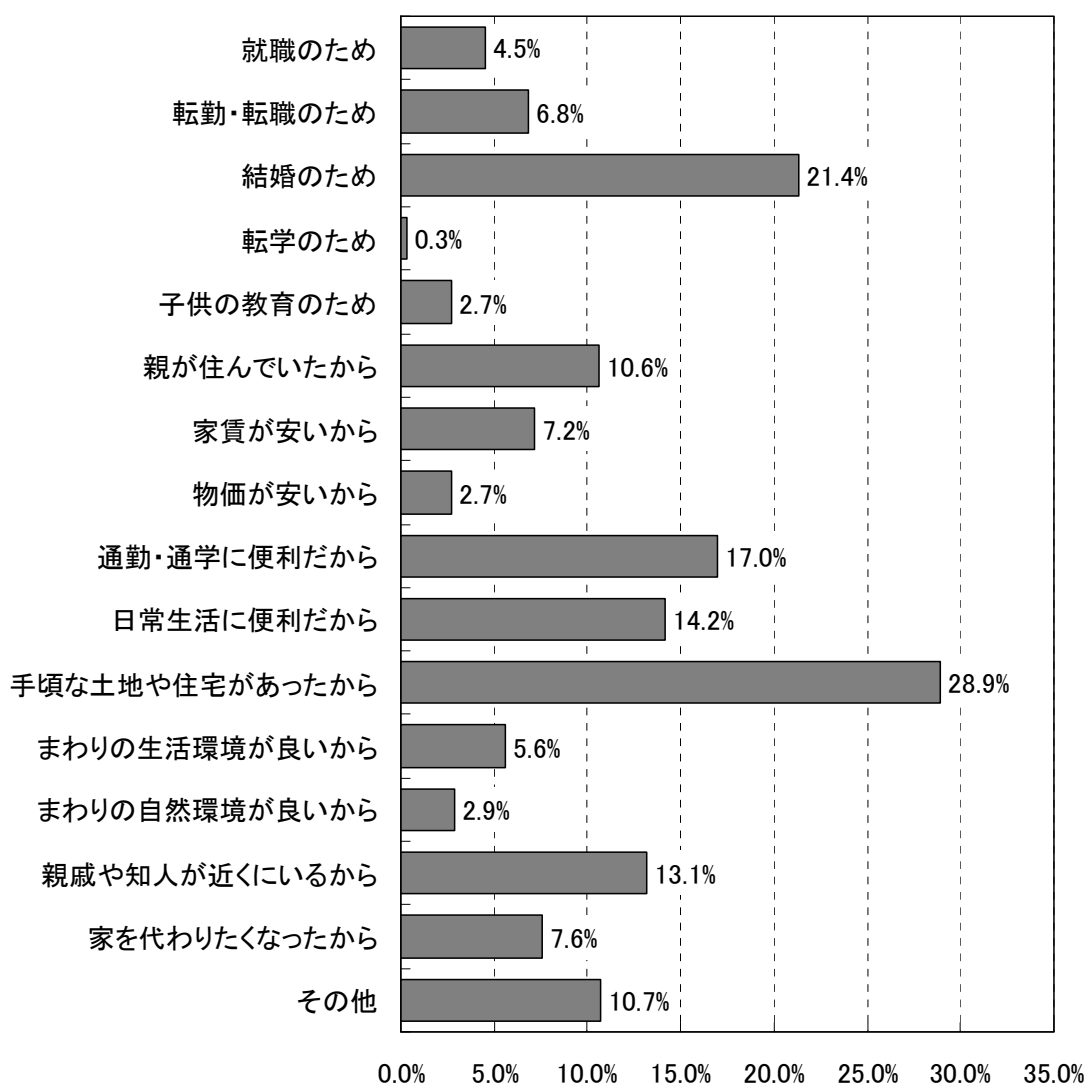
### 3-2. 現居住地への居住理由

回答者の現居住地への居住動機については、3-1.「居住歴」で見たように、引っ越しが大半の回答者の居住起因となっている。

現居住地に居住することとなった理由としては“手頃な土地や住宅があったから”が28.9%と最も多く、次いで“結婚のため”が21.4%、“通勤・通学に便利だから”が17.0%となっている。

一方、“転学のため”、“子供の教育のため”、“物価が安いから”、“まわりの自然環境が良いから”などの理由は5%未満となっている。

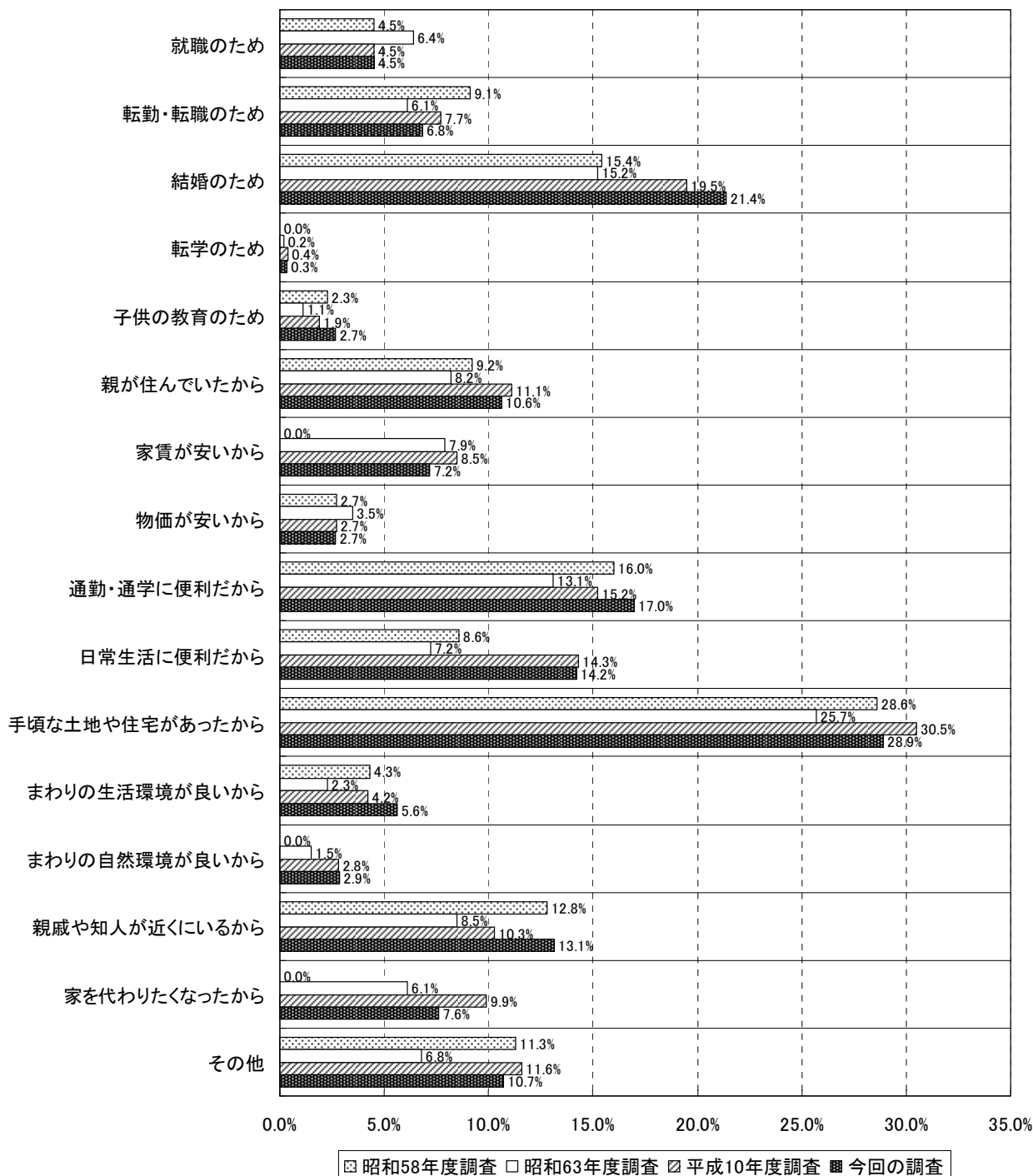
図3-7 現居住地の居住理由



総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、現居住地への居住動機、理由については、上位3位の項目である“手頃な土地や住宅があったから”、“結婚のため”、“通勤・通学に便利だから”と順位は変化しておらず、また、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）とほぼ同じような割合となっている。

この結果から、依然として現居住地への主な居住理由として、結婚に際し、通勤などに便利で手頃な住宅を求め、本市に居住していることがうかがえる。

図3-8 現居住地の居住理由の過年度調査結果との比較





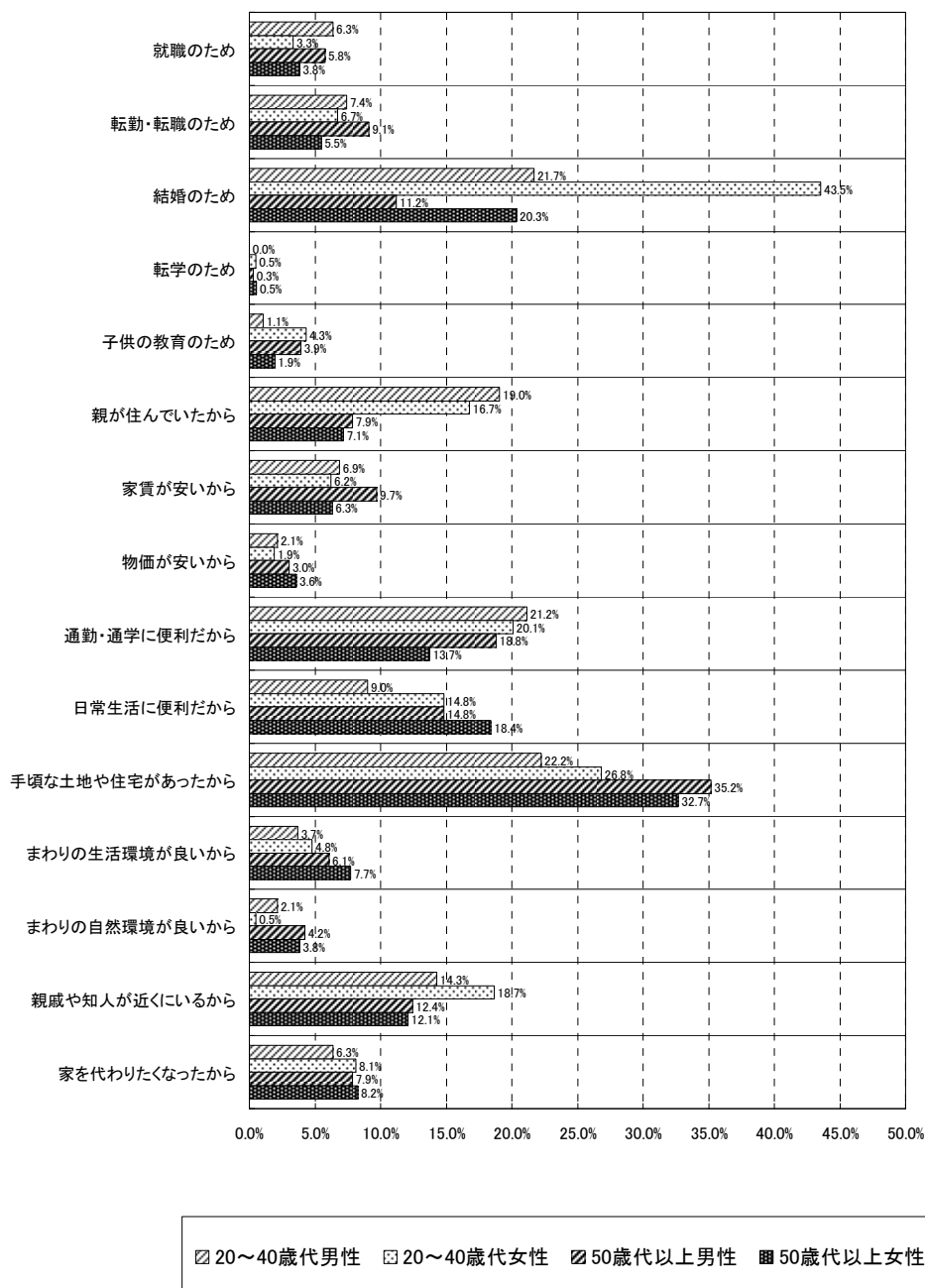
また、男女別・年代別に居住理由をみると、“20～40 歳代男性”では、“手頃な土地や住宅があったから”が 22.2%、“結婚のため”が 21.7%、“通勤・通学に便利だから”が 21.2%、“親が住んでいたから”が 19.0%と、これらの理由がほぼ 20%前後の割合を占めている。

“20～40 歳代女性”では、“結婚のため”が 43.5%と圧倒的な居住理由になっており、次いで“手頃な土地や住宅があったから”が 26.8%、“通勤・通学に便利だから”が 20.1%、“親戚や知人が近くにいるから”が 18.7%と続いている。

“50 歳代以上男性”では、“手頃な土地や住宅があったから”が 35.2%と最も多く、次いで“通勤・通学に便利だから”が 18.8%、“日常生活に便利だから”が 14.8%となっている。

“50 歳代以上女性”では、“手頃な土地や住宅があったから”が 32.7%と最も多く、次いで“結婚のため”が 20.3%、“日常生活に便利だから”が 18.4%となっている。

図 3-9 男女別・年代別にみた現居住地の居住理由

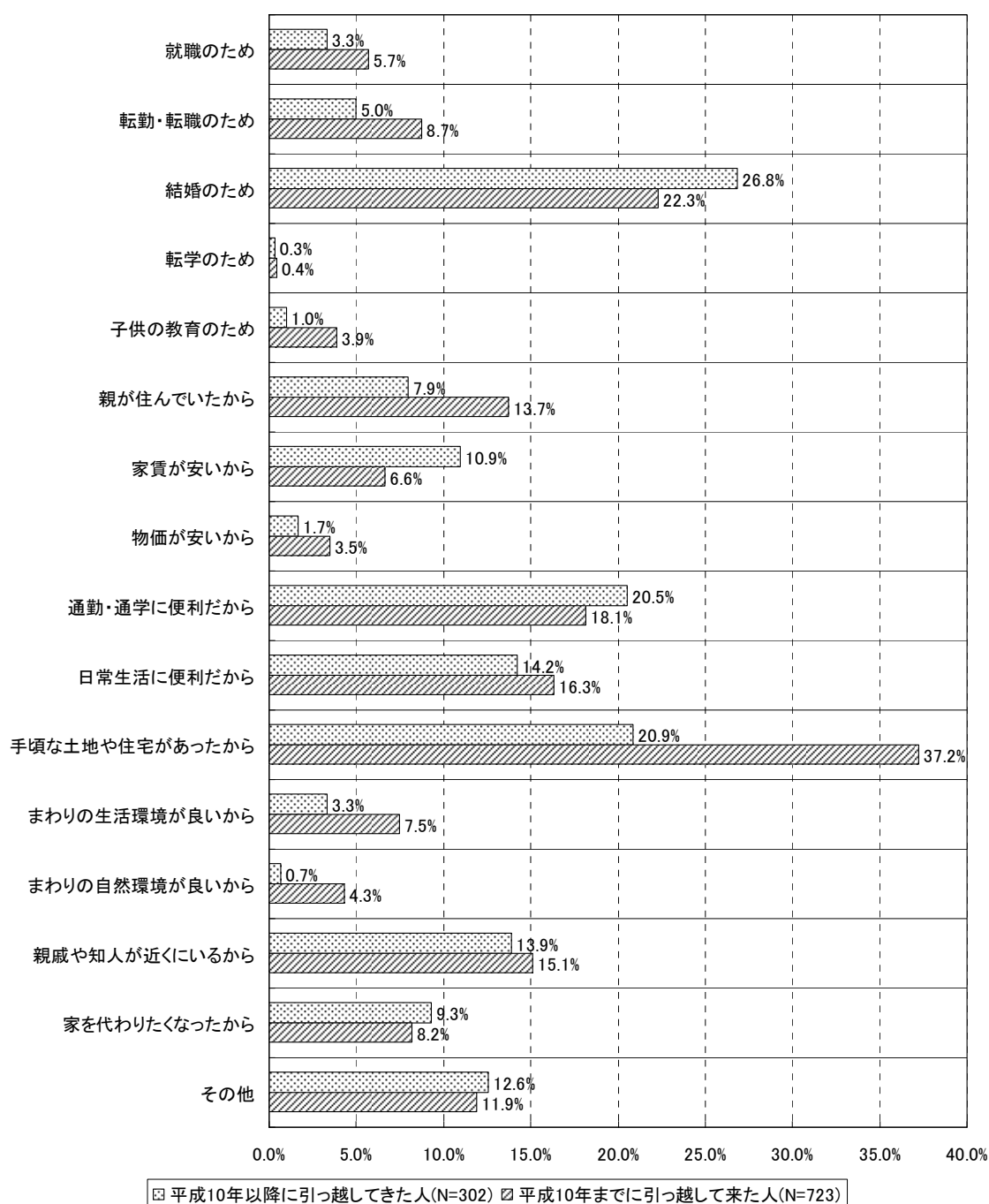


また、“平成10年以降に引っ越して来た人”と“平成10年までに引っ越しして来た人”の居住理由の違いをみると、“平成10年以降に引っ越して来た人”では、“結婚のため”が26.8%と最も多く、次いで“手頃な土地や住宅があったから”が20.9%、“通勤・通学に便利だから”が20.5%となっている。

一方、“平成10年までに引っ越しして来た人”では、“手頃な土地や住宅があったから”が37.2%と圧倒的な理由になっており、次いで“結婚のため”が22.3%、“通勤・通学に便利だから”が18.1%となっている。

従来は、手頃な土地や住宅があったことが本市への主な居住理由であったが、近年もその傾向はうかがえるものの、本市への居住理由が“結婚のため”などに変化してきていることがうかがえる。

図3-10 引っ越しして来た時期別に見た現居住地の居住理由

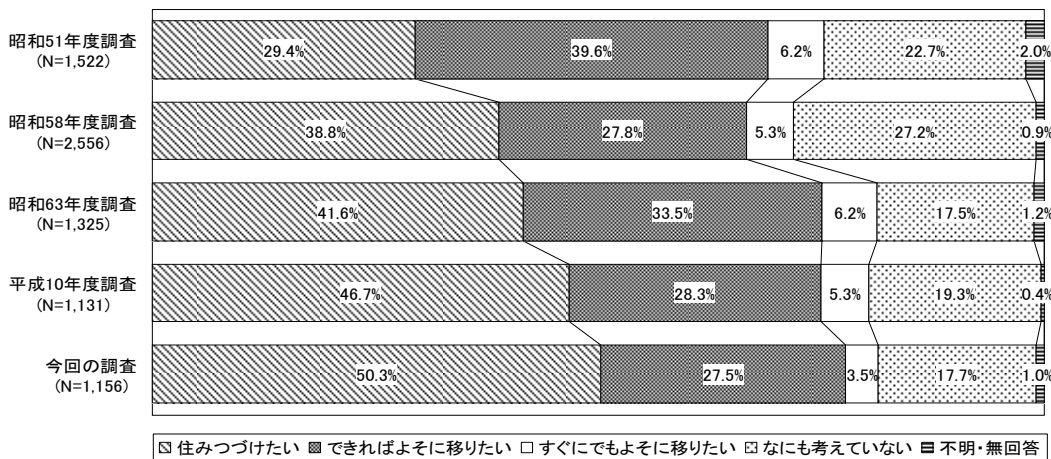


### 3-3. 定住・移住意向とその理由

現在の居住地での定住意向では、“住みつづけたい”とする定住意向者が50.3%を占め、一方、“できればよそに移りたい”、“すぐにでもよそに移りたい”とする移住意向者がそれぞれ27.5%、3.5%、合計31.0%となっており、定住意向者の割合が上回っている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、調査結果が得られた昭和51年度調査以降、各調査において定住意向者の割合は増加し、移住意向者の割合が減少する傾向にある。なお、今回の調査では定住意向者が5割を超える結果となっている。

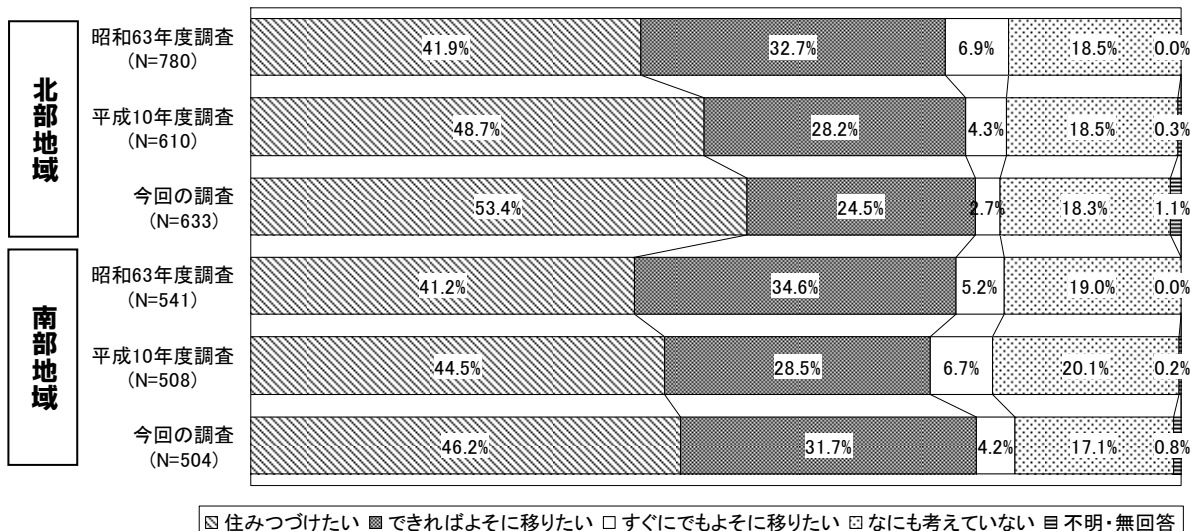
図3-11 定住・移住意向の推移（過年度調査結果との比較）



地域別にみると、“住みつづけたい”と回答した者は、北部地域では前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）の48.7%から今回の53.4%に、南部地域では44.5%から46.2%となっており、いずれの地域も前回に比べ定住意向者は増加している。

一方、“できればよそに移りたい”、“すぐにでもよそに移りたい”と回答した者は、北部地域では前回の32.5%（うち“すぐにでもよそに移りたい”は4.3%）から24.5%と減少しており、南部地域では前回の35.2%（うち“すぐにでもよそに移りたい”は6.7%）から31.7%と若干増加している。

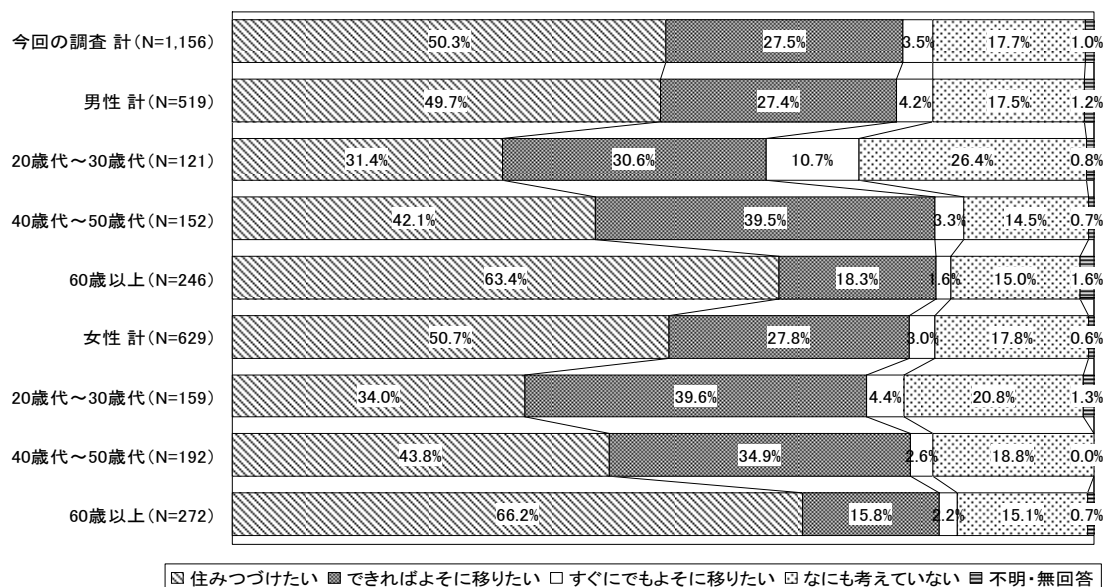
図3-12 地域別の定住・移住意向の推移（過年度調査結果との比較）



男女年代別にみると、男性や女性全体では同じような傾向であるが、“住み続けたい”とする定住意向者の割合は、男女ともに年代が高くなるにしたがい高くなり、男性、女性ともに20歳代～30歳代では30%強、40歳代～50歳代では40%強、60歳代以上では60%～70%となっている。

一方、“できればよそに移りたい”、“すぐにでもよそに移りたい”とする移住意向者の割合は、女性は、年代が高くなるにしたがい低くなる傾向にある。男性は、40歳代～50歳代で42.8%と他の年代よりも高くなっている。

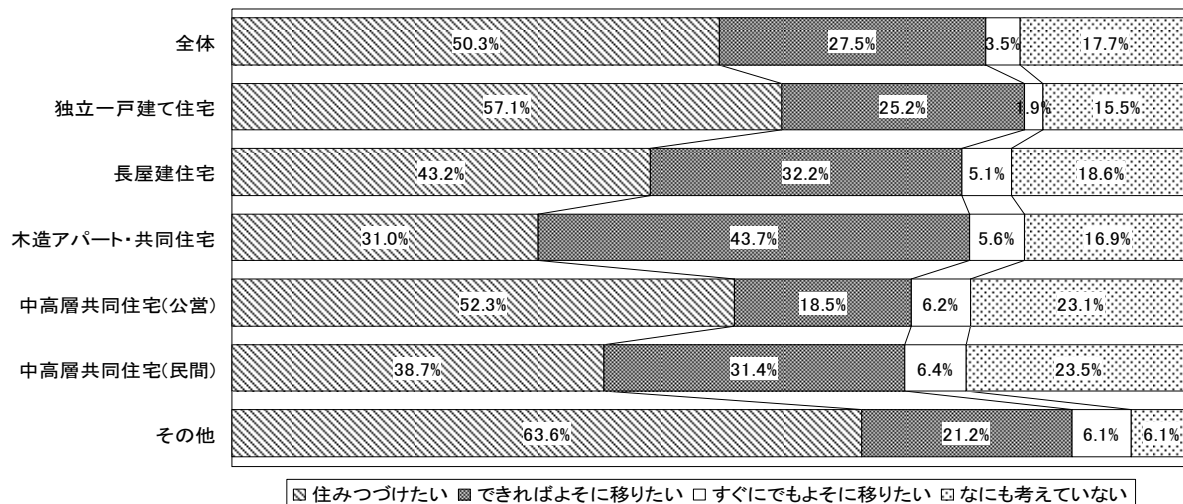
図3-13 年代別の定住・移住意向の推移



居住する住宅タイプ別にみると、“独立一戸建て住宅”や“中高層共同住宅（公営）”では、定住意向者の割合が57.1%、52.3%と比較的定住意向が強い傾向にあることに対し、“木造アパート・共同住宅”の定住意向者の割合は31.0%、“中高層共同住宅（民間）”では38.7%と定住意向者の割合が低くなっている。

特に、“木造アパート・共同住宅”では、移住意向者の割合が49.3%となっており、定住意向者の割合よりも移住意向者の割合の方が高く、移住意向の強いことがうかがえる。

図3-14 居住する住宅形式別の定住・移住意向の推移



### 3-4. 定住意向者の定住理由

“住み続けたい”と回答した定住意向者の定住理由をみると、“日常生活に便利だから”が53.5%と最も多く、次いで、“今住んでいるところに愛着があるから”が40.3%、“近所づきあいがうまくいっているから”が21.9%と続いている。

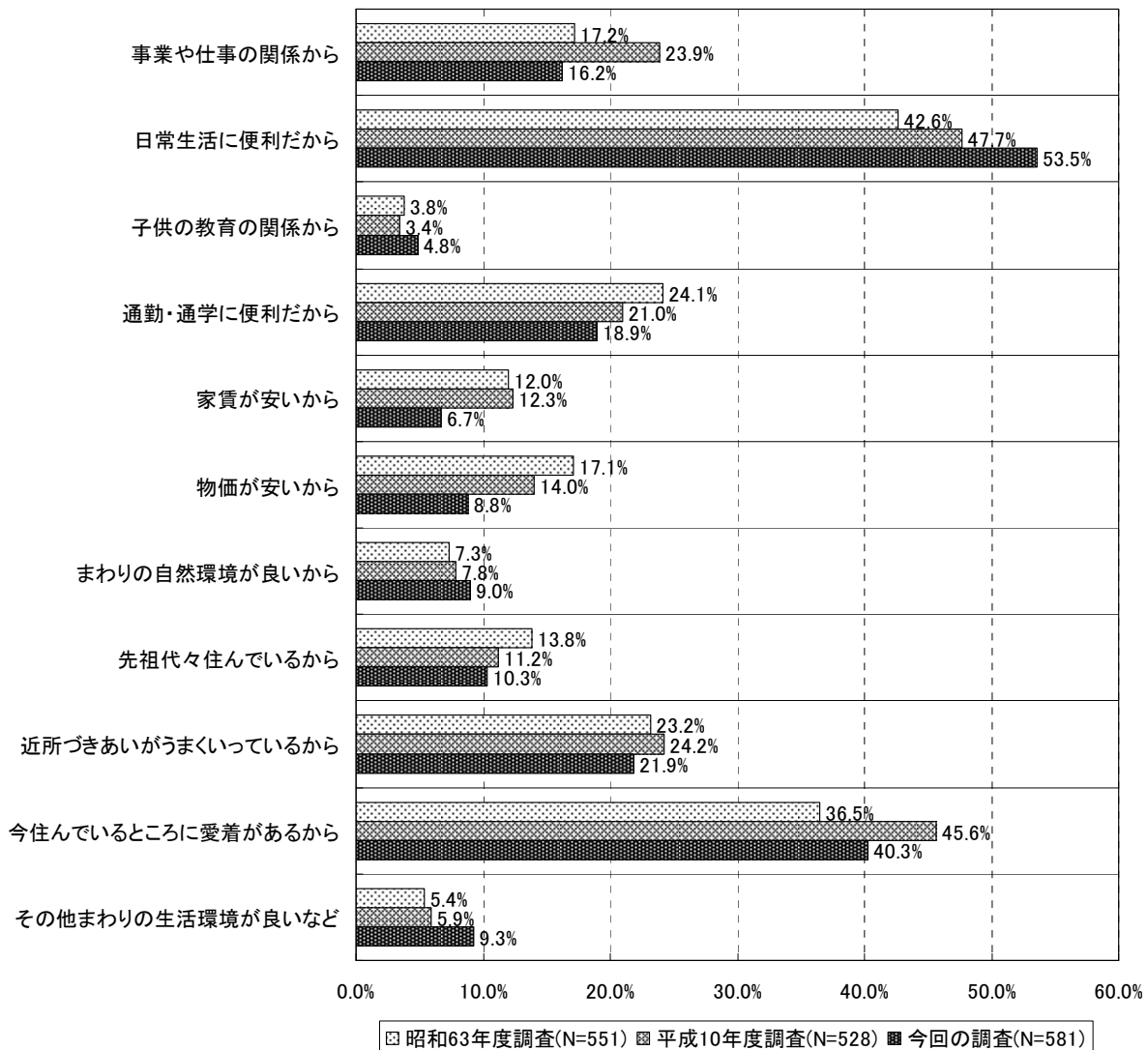
総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、概ね同様の傾向になっている。

特に主要な定住意向理由となっている“日常生活に便利だから”は、前々回（第3次総合計画策定時<昭和63年度調査>）から徐々に割合が増加してきている。

また、“今住んでいるところに愛着があるから”は、前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）の45.6%からは若干減少し40.3%となっている。

“通勤・通学に便利だから”、“物価が安いから”、“先祖代々が住んでいるから”などの定住理由の割合は減少する傾向にある。一方、定住理由とした割合は低いが、“まわりの自然環境が良いから”や“その他まわりの生活環境が良いなど”の理由が徐々に増加する傾向にある。

図3-15 定住意向者の定住理由の推移（過年度調査結果との比較）



年代別にみると、20歳代～30歳代では、“日常生活に便利だから”が51.1%と最も高く、次いで“通勤・通学に便利だから”が38.0%、“今住んでいるところに愛着があるから”が32.6%となっている。

40歳代～50歳代では、“日常生活に便利だから”が60.4%と最も高く、次いで“今住んでいるところに愛着があるから”が45.6%、“通勤・通学に便利だから”が35.6%となっている。

60歳代以上では、“日常生活に便利だから”が50.7%と最も高く、次いで“今住んでいるところに愛着があるから”が40.1%、“近所づきあいがうまくいっているから”が25.5%となっている。

“日常生活に便利だから”という定住意向理由は、回答者の年代に関係なく本市での主要な定住理由となっている。また、“今住んでいるところに愛着があるから”も、20歳代～30歳代で若干低い結果となっているが、共通した本市での定住理由になっている。

図3-16 年代別にみた定住意向者の定住理由

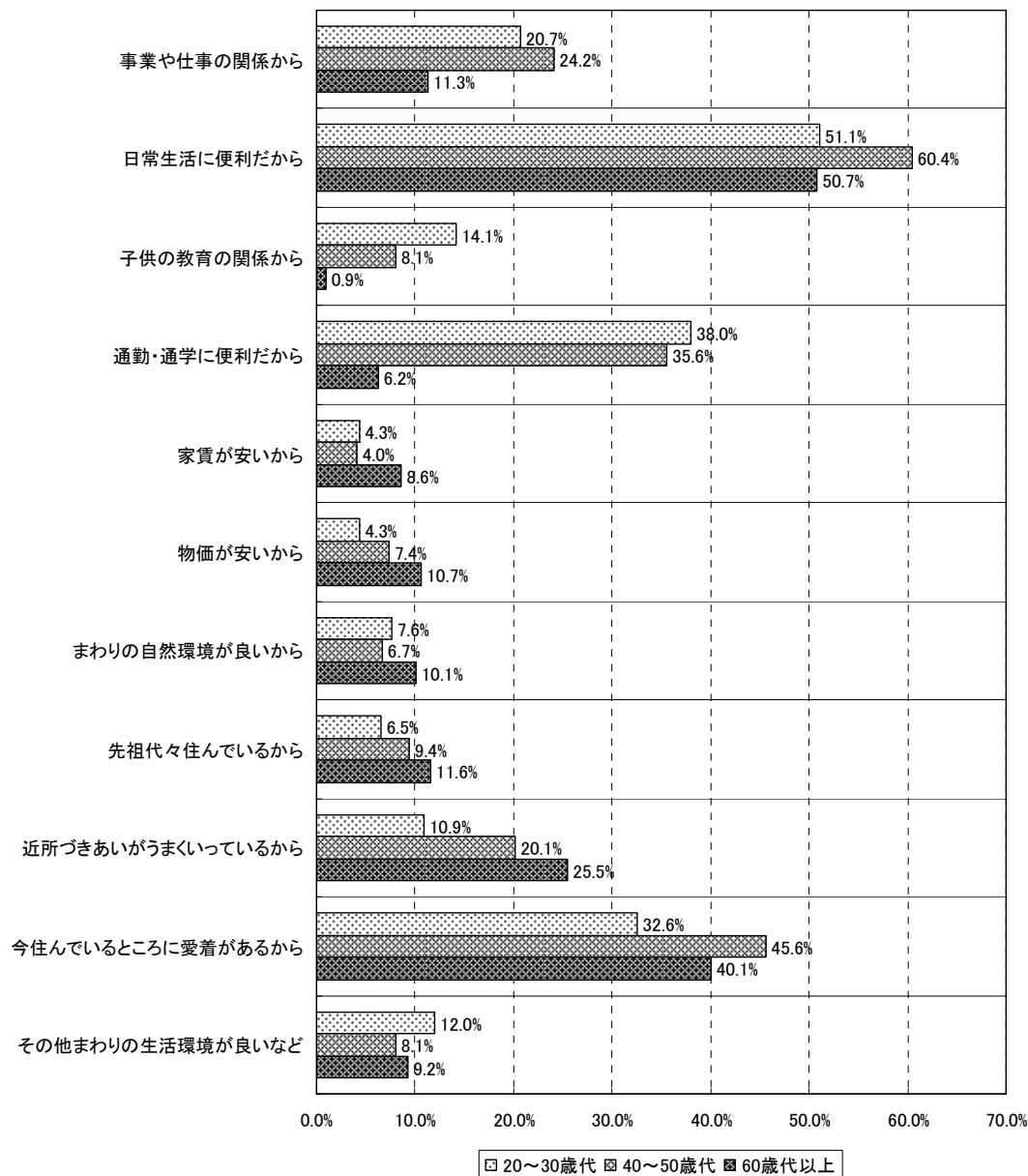
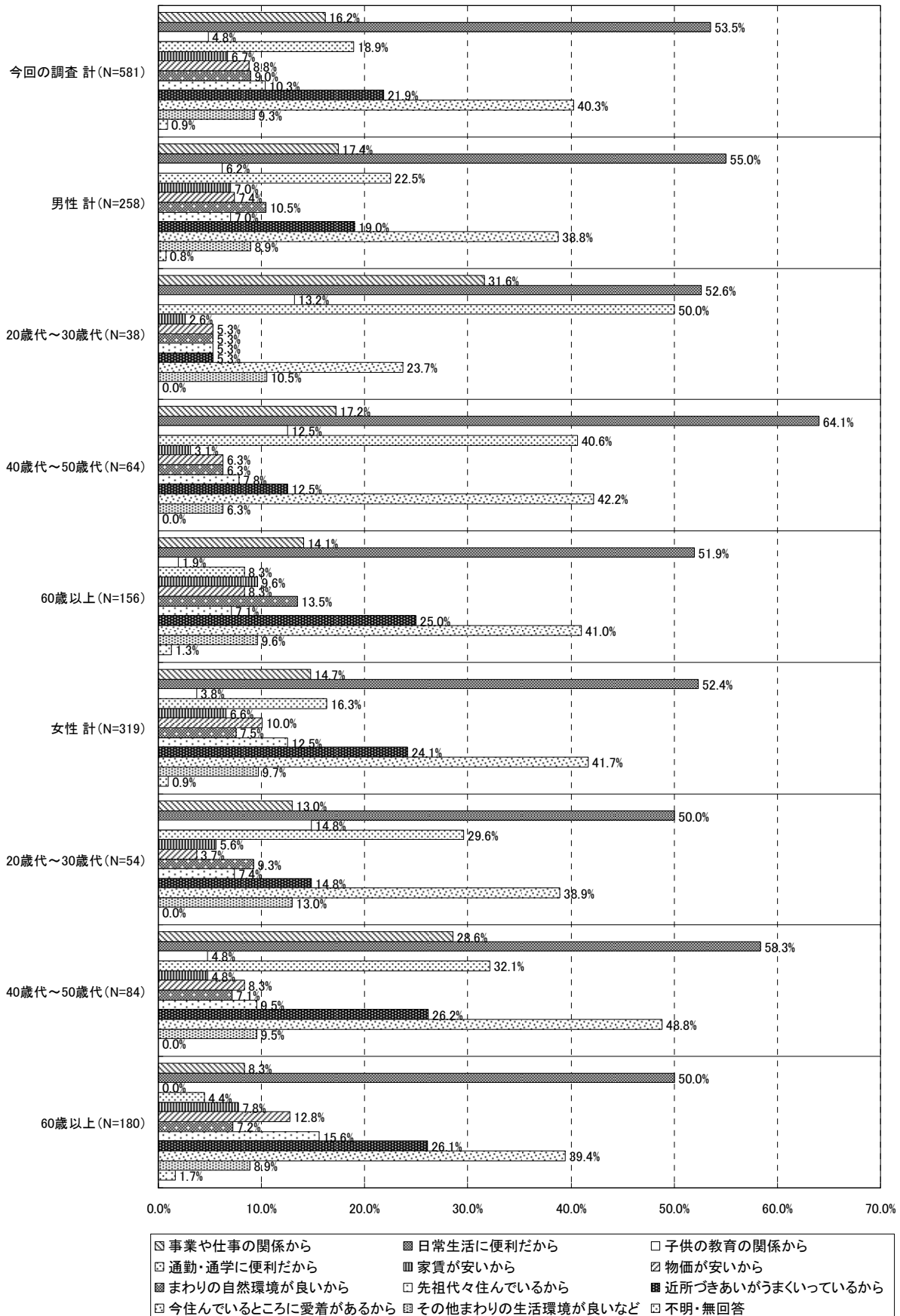


図3-17 男女年代別にみた定住意向者の定住理由



### 3-5. 移住意向者の移住理由

“できればよそに移りたい”あるいは“すぐにでもよそに移りたい”とする移住意向者の移住理由をみると、“その他まわりの生活環境が悪いなど”が43.2%と最も高く、次いで“住宅が古く、老朽したから”が30.6%、“住宅が狭いから”が25.6%と続いている。

総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“その他まわりの生活環境が悪いなど”や“住宅が古く、老朽したから”については徐々に増加する傾向にあるが、“住宅が狭いから”という理由は、前々回（第3次総合計画策定時<昭和63年度調査>）や前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）からは大幅に減少する傾向にある。

また、“家が密集しているから（日当たりが悪いなど）”も若干ではあるが減少する傾向にある。

図3-18 移住意向者の移住理由の推移（過年度調査結果との比較）

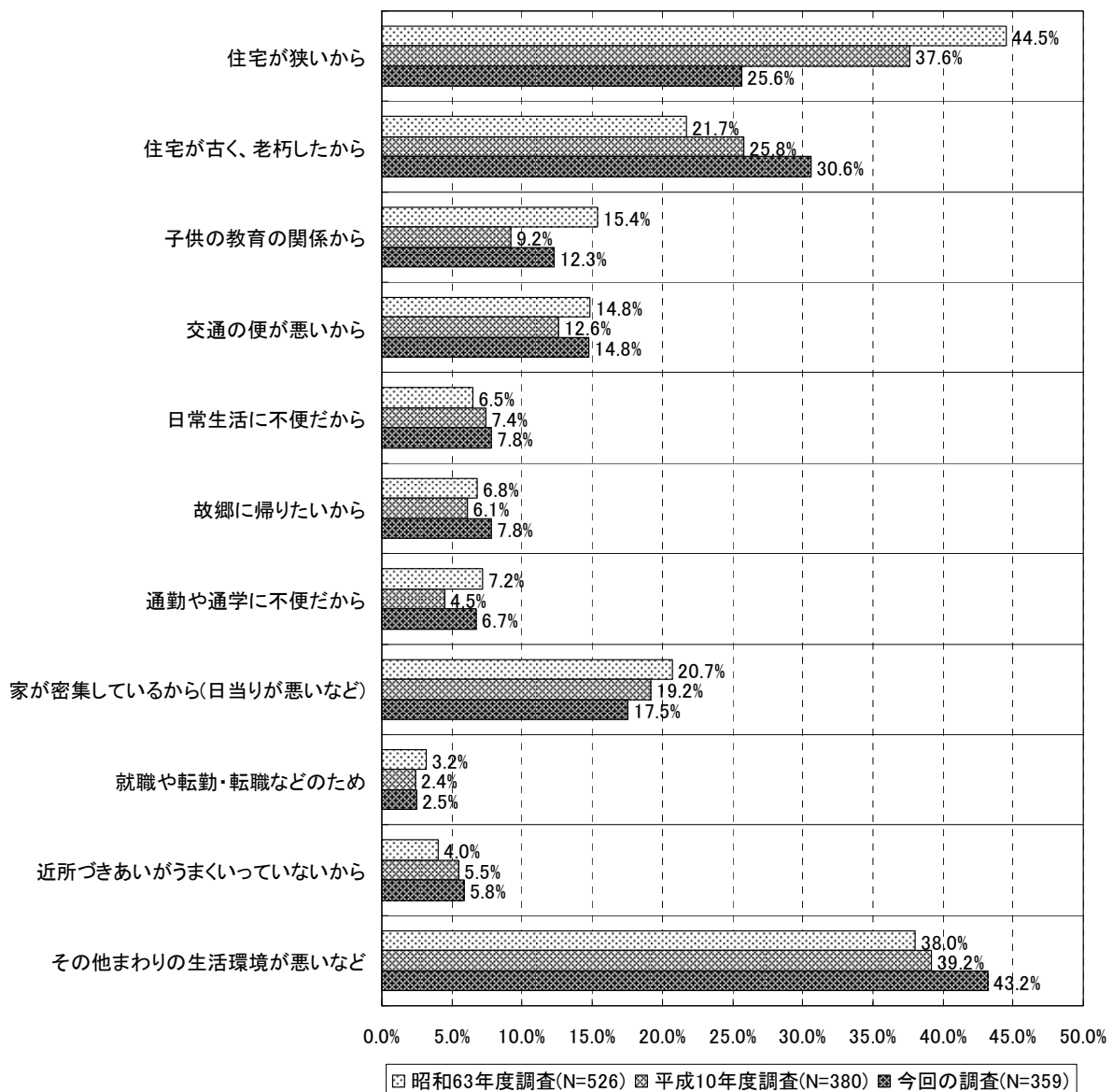
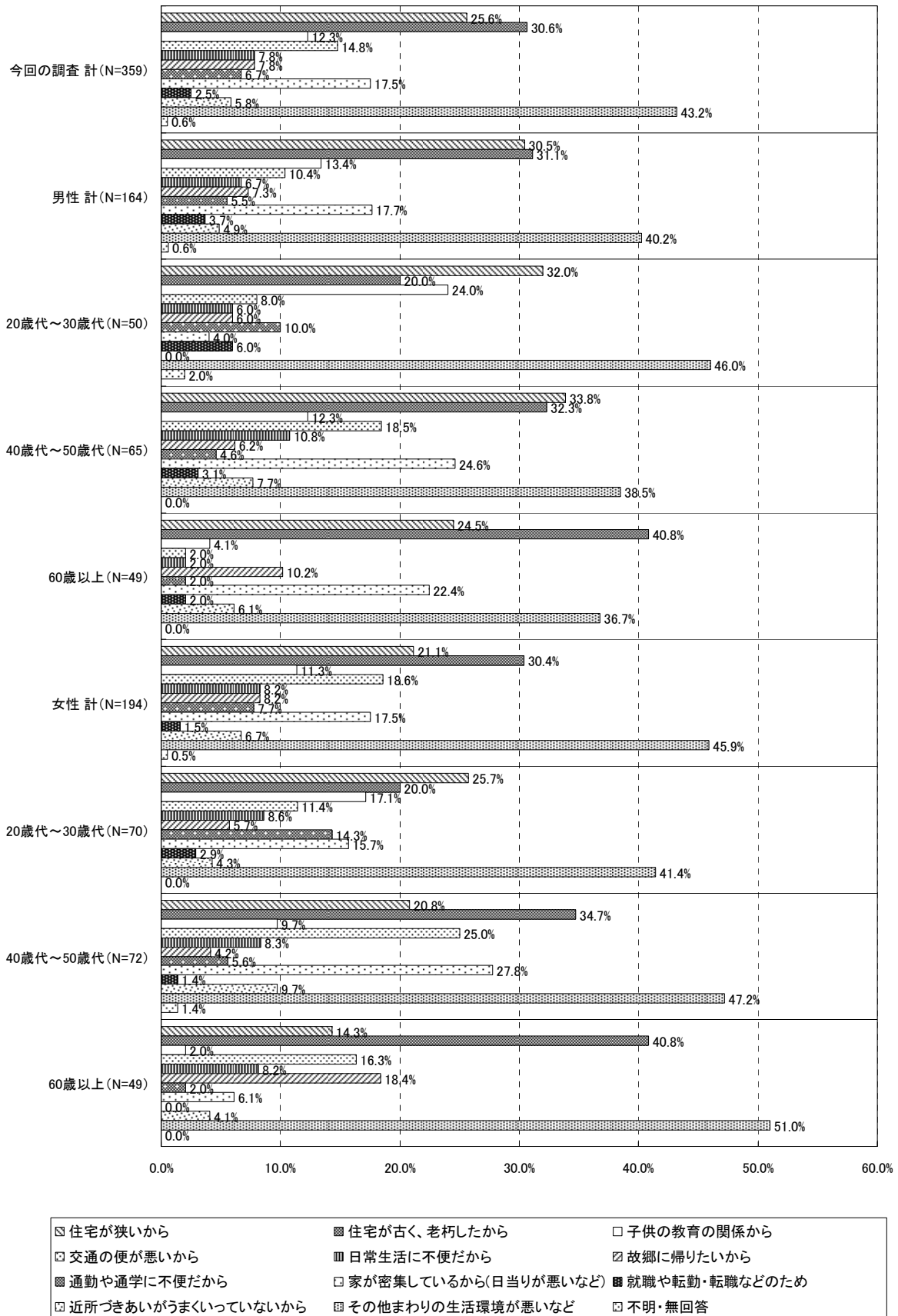




図3-19 男女年代別にみた移住意向者の移住理由

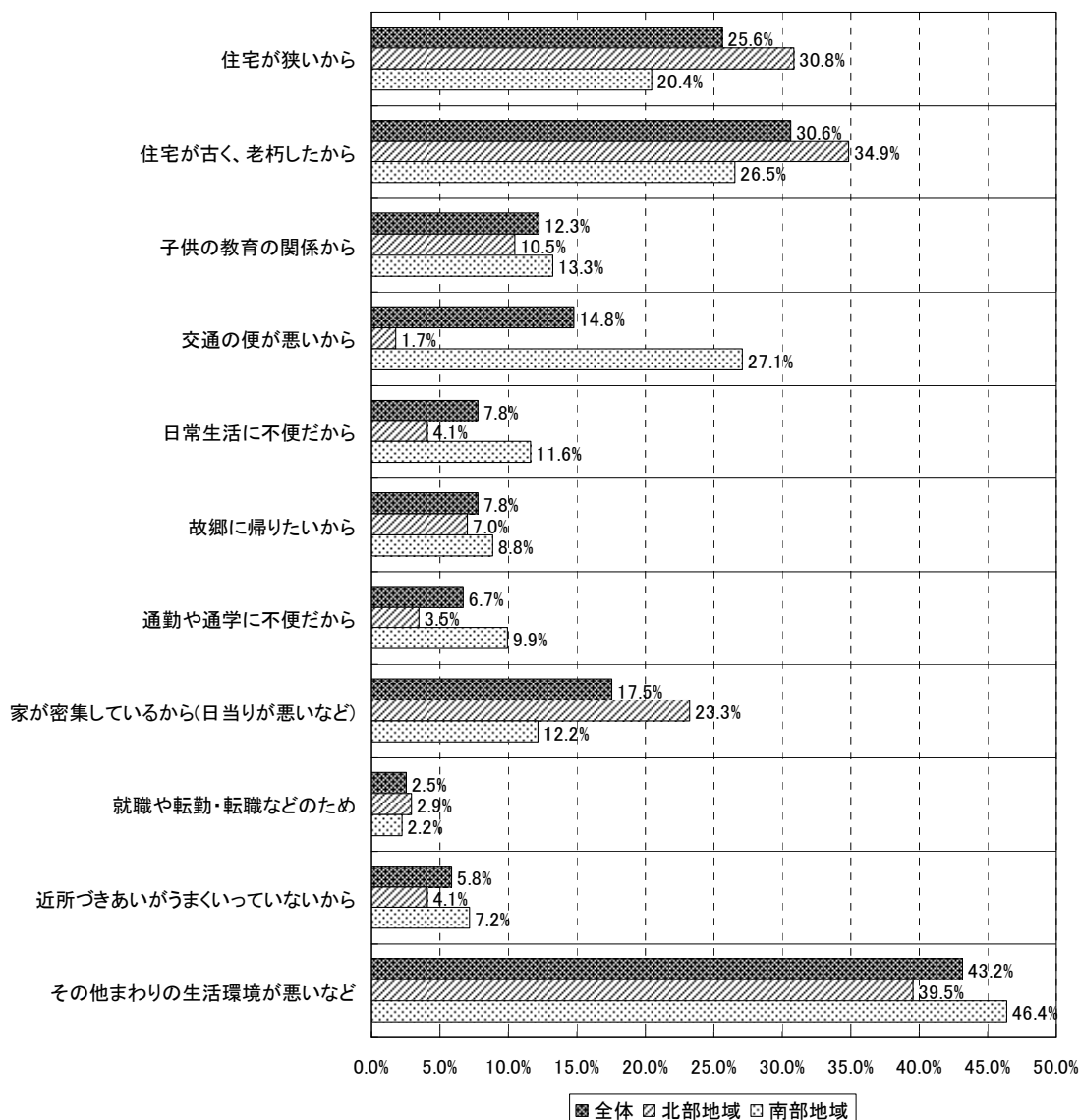


なお、地域別にみると、北部地域、南部地域とも“その他まわりの生活環境が悪いなど”がそれぞれ39.5%、46.4%と最も多い理由となっている。

次いで、北部地域では“住宅が古く、老朽したから”が34.9%、“住宅が狭いから”が30.8%、“住宅が密集しているから（日当たりが悪いなど）”が23.3%と続き、移住意向の理由として、住宅や住環境が大きな理由となっている。

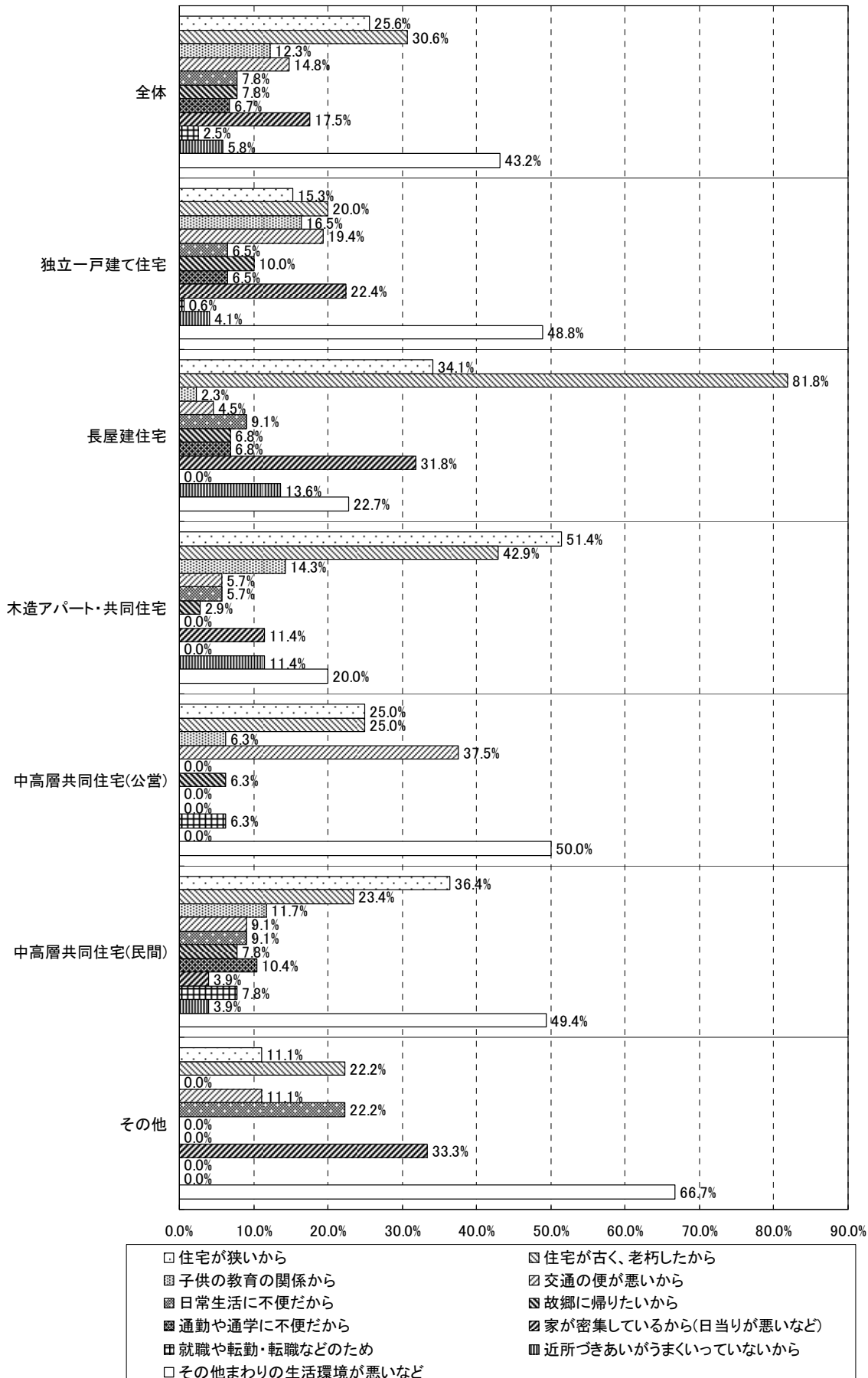
一方、南部地域では“交通の便が悪いから”が27.1%、“住宅が古く、老朽したから”が26.5%、“住宅が狭いから”が20.4%となっており、交通や住宅の老朽化や狭さが移住意向の理由となっている。

図3-20 地域別にみた移住意向者の移住理由



居住している住宅形式別に最も主となる移住意向理由をみると、図3-21に示すように、独立一戸建て住宅では“その他まわりの生活環境が悪いなど”が48.8%、長屋建住宅では“住宅が古く、老朽したから”が81.8%、木造アパート・共同住宅では“住宅が狭いから”が51.4%、中高層共同住宅（公営）では“交通の便が悪いから”が37.5%、中高層共同住宅（民間）では“住宅が狭いから”が3.6.4%となっている。

図3-21 居住している住宅形式別にみた移住意向者の移住理由



### 3-6. 移住意向者の移住希望先

移住意向者の移住希望先で最も多いのは、“門真市内”や“京阪沿線”以外の地域で41.2%となっている。次いで、“京阪沿線”が24.0%、“門真市内”が19.5%となっている。

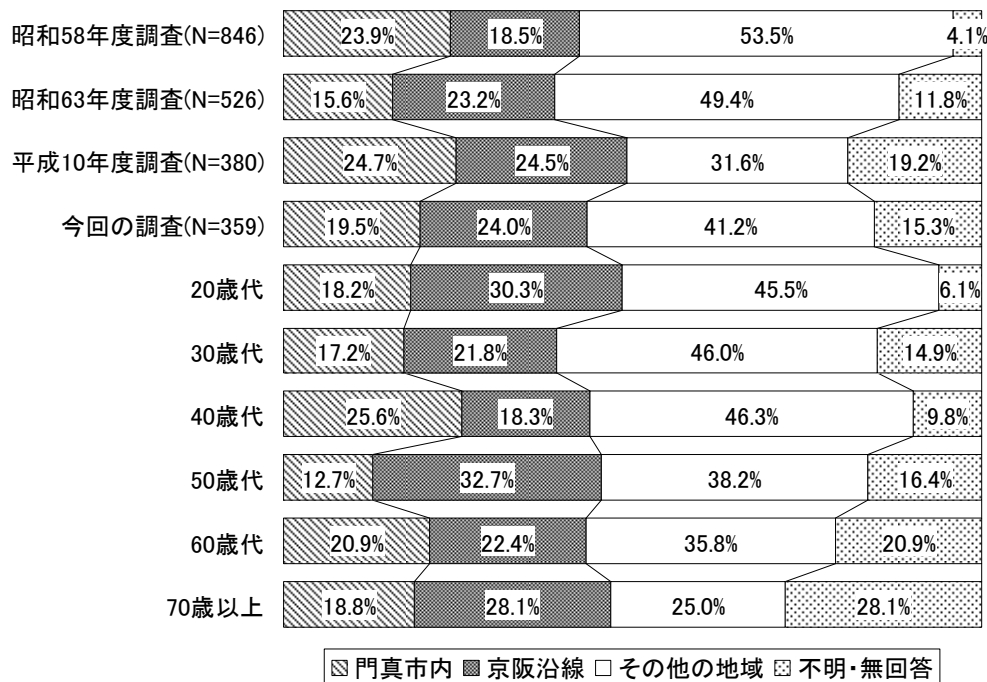
回答者の年代別に移住希望先をみると、具体的な移住先を考えていないと想定される“不明や無回答”は、概ね年齢層が低くなるにしたがい割合が低下し、具体的な移住希望先を考えている傾向がうかがえる。

概ね移住希望先の割合の順位は同じであり、“門真市内”や“京阪沿線”以外の地域が最も高く、次いで、“京阪沿線”、“門真市内”となっている。ただし、40歳代では、“門真市内”が“京阪沿線”よりも高い割合となっている。

また、いずれの年齢層も“門真市内”か“京阪沿線”を移住希望先にする割合は概ね40～50%となっているが、年齢層が高くなるにしたがい“門真市内”や“京阪沿線”以外の地域の割合は低くなり、具体的な移住先を考えていないと想定される“不明や無回答”の割合が増える傾向にある。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“門真市内”や“京阪沿線”以外の地域は、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の31.6%から約10ポイント増加し、“門真市内”は前回の24.7%から約5ポイント低下し、“京阪沿線”は概ね同じ割合となっている。

図3-22 移住希望先の推移と年代別の移住希望先（過年度調査結果との比較）



さらに、回答者の居住する地区別に具体的な移住希望先をみると、“門真市内”を希望先とする場合は、比較的現在の居住地に近い場所を移住希望先としている回答が多い。

また、“京阪沿線”では、近隣の守口市や寝屋川市や枚方市などを移住希望先としている回答が多い。

表3-1 移住希望者の現居住地地区別にみた具体的な移住希望先

	門真市内	京阪沿線		その他の地域	
		市町	駅	市町村	駅
A地区	御堂 幸福(3) 上島 石原(2) 千石東 無記入(5)	寝屋川		堺	
		大阪	京橋	守口	金田町
		枚方(3)	私市	吹田	北千里
		門真(2)	枚方市	大阪	京橋
		無記入(5)	無記入(2)	池田	池田
B地区	小路 新橋 本 無記入(2)	守口(2)	守口	大阪	中之島
		寝屋川	太子橋今市	箕面	箕面
		大阪(2)	香里園	無記入(6)	
		枚方(3)	京橋		
		門真	野江		
C地区	浜 本 末広 門真, 古川橋, 西三荘 無記入	守口(2)	守口市	宇治	小倉
		枚方(3)	無記入	宇都宮	
		無記入(4)	枚方市	京都	
				札幌	
				西宮	夙川
D地区	月出 三ツ島 上野口 城垣 門真市駅 無記入(10)	寝屋川	香里園	茨木	茨木
		大阪	千林	四条畷(2)	四条畷
		枚方(5)	樟葉(2)	守口	寺方方面
		門真(5)	枚方市(2)	神戸	
		無記入(3)	古川橋(3)	大阪(4)	今福鶴見
E地区	柳田 無記入	大阪(2)	中之島	宮城県都域	
		門真(2)	天満橋	三島	島本
			古川橋	吹田	
				大阪(3)	京橋
				八尾	森ノ宮
F地区	沖小の校区内 岸和田 三島 大橋 大阪 島頭 北島 無記入(5)	守口	土居	茨木	阪急茨木
		寝屋川(2)	香里園(2)	九州の田舎	
		大阪(2)	京橋(2)	守口	
		八幡	京阪八幡市	泉大津	泉大津
		枚方(4)	枚方公園	大阪(9)	花博公園
G地区	上島 石原 千石西 千石東 南野口 門真 脇田(2) 無記入(11)	交野	守口	茨木, 吹田, 摂津	
		守口(3)	守口市	京都	出町柳
		寝屋川	大日	高知県伊野町	
		大阪(2)	香里園	四条畷(2)	四条畷
		枚方(5)	野江~千林	守口(2)	大日(2)
		門真(3)	香里園	神戸	
		無記入(4)	無記入(4)	吹田	吹田
			古川橋	西宮	夙川
			大和田, 古川橋	静岡市, 浜松市	
				泉佐野	
				大阪(6)	京橋
					深江橋
					鶴見緑地
					片町
					住道
				東大阪	
				奈良県	
				尼崎	塚口
				福岡県福智町	
				福知山	上川口
				豊中(3)	千里
					千里中央
				門真以外(2)	
				他県	
				日当たりの良い所	
			無記入(15)		

注) 上表は回答で選択された地域に該当するよう希望先を記載

## 第4章 行政の分野別施策の評価と重要度

### 4-1. 全分野の施策の評価と重要度

全分野の各施策の満足度及び重要度について回答者の平均点を算出\*し、各施策の右記クロス領域における位置から重点的に強化の対応を検討すべき課題（重点強化対応検討課題領域）、強化の対応を検討すべき課題（強化対応検討課題領域）、対応を検討すべき課題（検討課題領域）に分類すると次表のような結果となる。

注）同一領域内については、評価指数＝〔（5－満足度点）×重要度点〕の大きい順に列挙

◇重点強化対応検討課題領域 満足度 2.5 以下かつ重要度 4.0 以上
◇強化対応検討課題領域 満足度 2.5 以下かつ重要度 3.5 以上、 満足度 3.0 以下かつ重要度 4.0 以上
◇検討課題領域 満足度 3.0 以下かつ重要度 3.5 以上

次表の結果に示されるように、重点強化対応検討課題としては、次のように安心、安全を求める課題が多くを占めている。

- ① 防犯対策
- ② 行財政の運営
- ③ 交通安全
- ④ 子どもを産み、育てやすいまちづくり

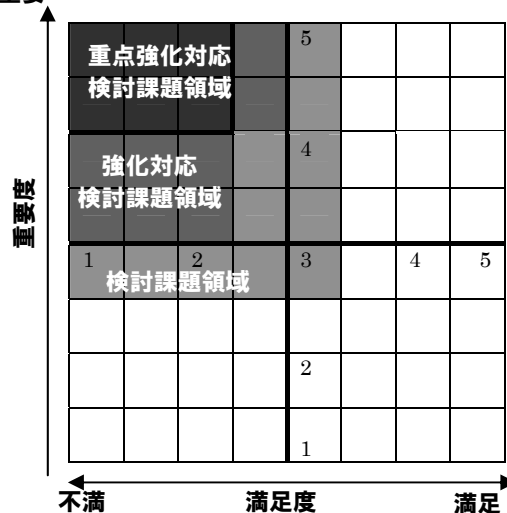
また、強化対応検討課題としては、

- ⑤ 災害の対策や防災体制の整備
- ⑥ 街並み・景観への配慮
- ⑦ 市政への市民意見の反映
- ⑧ 休日、夜間などの救急医療体制
- ⑨ 公園・緑地の整備

など、安心、安全を求める課題とともに、街並み・景観や公園・緑地などのうるおいを求める課題となっている。

一方、満足度が3以上となっているものは、「下水道の整備」、「公共交通機関の充実」、「幹線道路の整備」、「ごみの減量・省エネ、リサイクル対策」となっている。

図4-1 施策の強化等を検討する領域図



\* 配点表

満足度	重要度	配点
満足	非常に重要	5点
やや満足	重要	4点
普通	普通	3点
やや不満	重要でない	2点
不満	全く重要でない	1点

表4-1 全分野各施策の満足度及び重要度と課題検討領域

	分 野		満足度	重要度	評価指数	満足度及び重要度 クロス領域
1	市民生活	防犯対策	2.37	4.16	10.951	重点強化対応検討課題
2	行政	行財政の運営	2.40	4.02	10.470	
3	市民生活	交通安全	2.43	4.01	10.326	
4	保健・医療・福祉	子どもを産み、育てやすいまちづくり	2.50	4.01	10.008	
5	都市基盤	災害の対策や防災体制の整備	2.55	4.04	9.902	強化対応検討課題
6	都市基盤	街並み・景観への配慮	2.37	3.68	9.694	
7	行政	市政への市民意見の反映	2.45	3.79	9.677	
8	保健・医療・福祉	休日・夜間などの救急医療体制	2.69	4.12	9.537	
9	都市基盤	公園・緑地の整備	2.49	3.77	9.444	検討課題
10	保健・医療・福祉	高齢者が暮らしやすいまちづくり	2.56	3.90	9.507	
11	都市基盤	生活道路の整備	2.55	3.86	9.466	
12	保健・医療・福祉	障がい者が暮らしやすいまちづくり	2.54	3.85	9.462	
13	教育・文化等	家庭や地域の教育力の向上	2.53	3.80	9.381	
14	保健・医療・福祉	バリアフリーなどによるまちづくり	2.59	3.79	9.138	
15	保健・医療・福祉	医療サービスの提供体制	2.74	3.98	9.000	
16	産業	企業誘致による雇用の創出	2.53	3.60	8.905	
17	都市基盤	住宅地の整備	2.62	3.74	8.891	
18	教育・文化等	子どもの個性と可能性を伸ばす教育の推進	2.64	3.74	8.826	
19	教育・文化等	学校施設等の充実	2.68	3.78	8.768	
20	行政	行政の積極的な情報公開	2.64	3.69	8.707	
21	行政	市の組織のわかりやすさ	2.59	3.59	8.639	
22	産業	商業の活性化	2.57	3.54	8.602	
23	市民生活	自然環境の保全	2.61	3.60	8.590	
24	保健・医療・福祉	地域福祉の推進	2.69	3.71	8.566	
25	保健・医療・福祉	心身の健康づくりの推進	2.68	3.69	8.557	
26	保健・医療・福祉	福祉施設等の整備	2.67	3.67	8.553	
27	行政	市の窓口の使いやすさ	2.77	3.83	8.519	
28	教育・文化等	保護者、地域、学校の連携による教育の推進	2.74	3.76	8.498	
29	保健・医療・福祉	保健事業の推進	2.92	3.84	7.975	
30	教育・文化等	公民館、図書館、体育館などの整備	2.78	3.50	7.766	
31	行政	市の情報の発信・収集	2.97	3.60	7.323	
32	産業	農業の振興	2.58	3.37	8.139	
33	教育・文化等	ライフスタイルに応じた生涯学習の充実	2.64	3.42	8.045	
34	教育・文化等	スポーツに親しめる環境づくり	2.63	3.36	7.984	
35	都市基盤	市街地の魅力とにぎわい	2.72	3.48	7.938	
36	産業	工業の活性化	2.70	3.35	7.688	
37	教育・文化等	芸術や文化にふれることができる環境づくり	2.64	3.22	7.610	
38	市民生活	ごみの減量、省エネ、リサイクル対策	3.01	3.79	7.553	
39	市民生活	情報ネットワークの整備	2.77	3.36	7.500	
40	都市基盤	下水道の整備	3.12	3.95	7.413	
41	都市基盤	公共交通機関の充実	3.10	3.82	7.265	
42	都市基盤	幹線道路の整備	3.02	3.65	7.219	
43	市民生活	男女共同参画社会づくり	2.81	3.30	7.206	
44	教育・文化等	外国人との共生に向けた取り組み	2.58	2.97	7.184	
45	市民生活	自治会や市民活動の活性化	2.87	3.33	7.093	
46	教育・文化等	国際交流の推進	2.63	2.98	7.046	

## 4-2. 都市基盤整備に関すること

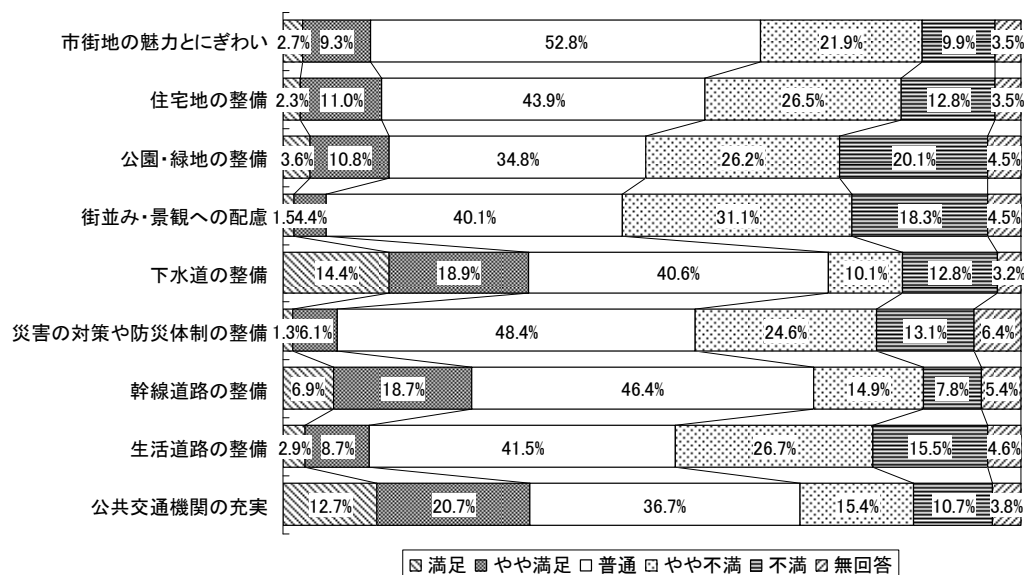
都市基盤整備において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が高い施策は、「公共交通機関の充実」で「満足」及び「やや満足」をあわせて 33.4%となっており、続いて「下水道の整備」が 33.3%となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「街並み・景観への配慮」で「やや不満」及び「不満」をあわせて 49.4%となっており、続いて「公園・緑地の整備」が 46.3%となっている。

また、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目は、「下水道の整備」と「幹線道路の整備」で、それぞれ 10.4 ポイント、2.9 ポイント上回っている。

他は、「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っているが、30 ポイント以上上回っている項目をみると、「街並み・景観への配慮」が 43.5 ポイント、「公園・緑地の整備」が 31.9 ポイント、「生活道路の整備」が 30.6 ポイント、「災害の対策や防災体制の整備」が 30.3 ポイント上回っている。

図 4-2 都市基盤に関する各種施策の満足度

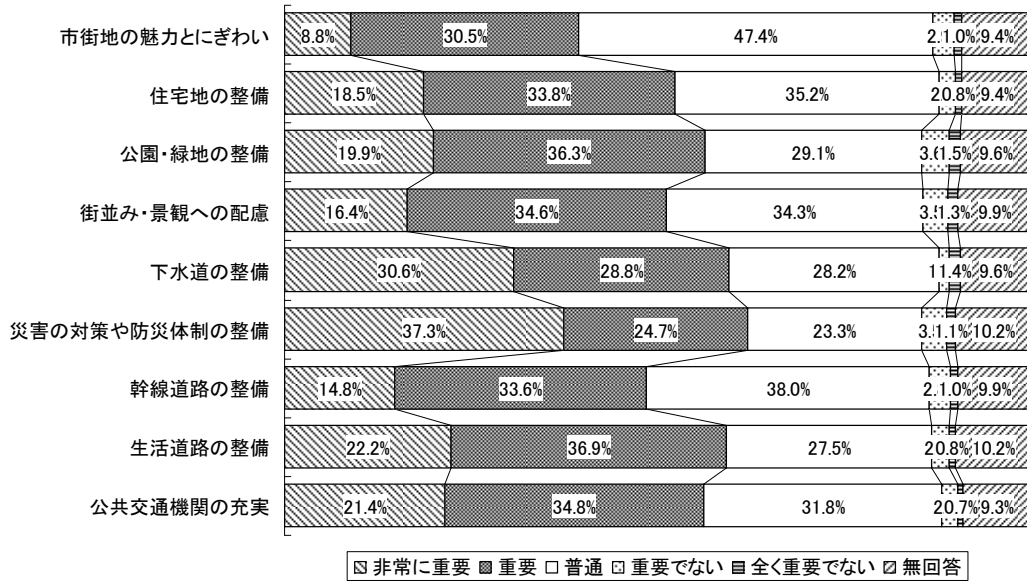


また、都市基盤整備における各種施策の重要度については、図 4-3 に示すように、「災害の対策や防災体制の整備」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて 62.0%と最も高く、次いで「下水道の整備」が 59.4%となっている。

特に、「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を 50 ポイント以上上回っている項目をみると、「災害の対策や防災体制の整備」、「下水道の整備」、「生活道路の整備」、「公共交通機関の充実」、「公園・緑地の整備」となっている。



図 4-3 都市基盤に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「災害の対策や防災体制の整備」や「街並み・景観への配慮」、「公園・緑地の整備」が強化対応検討課題として、また、「生活道路の整備」や「住宅地の整備」が検討課題としてあげられる。

図 4-4 都市基盤に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図

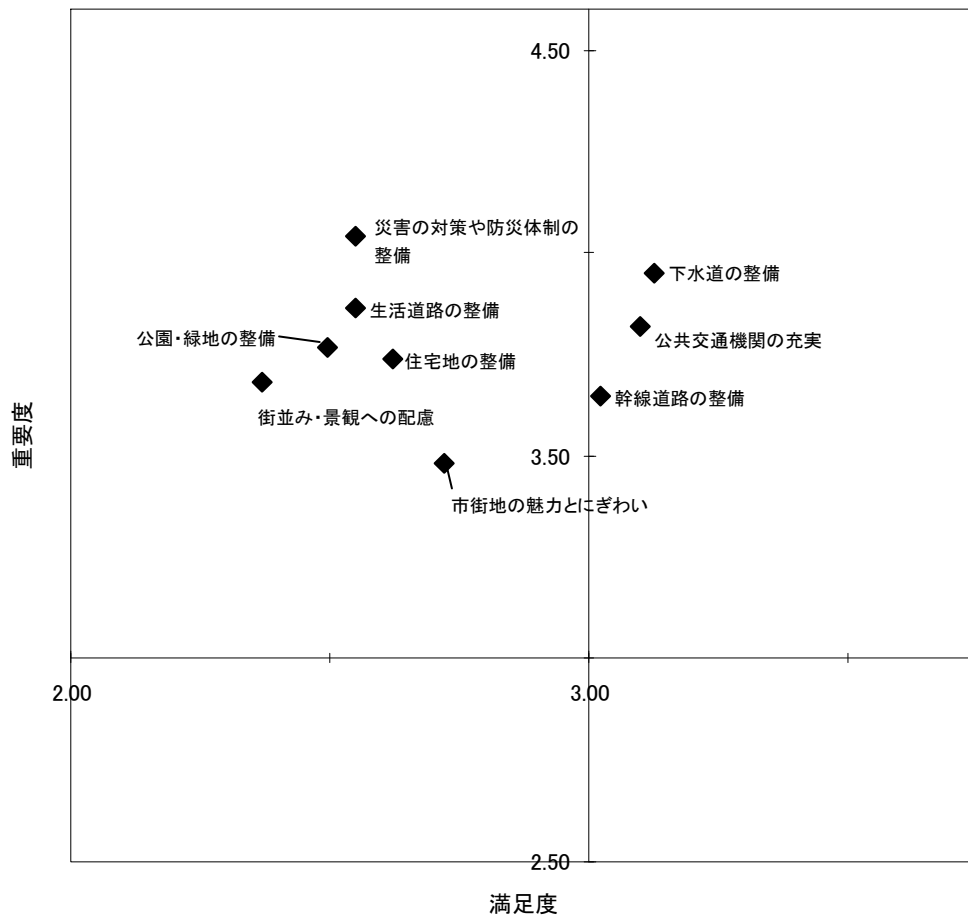
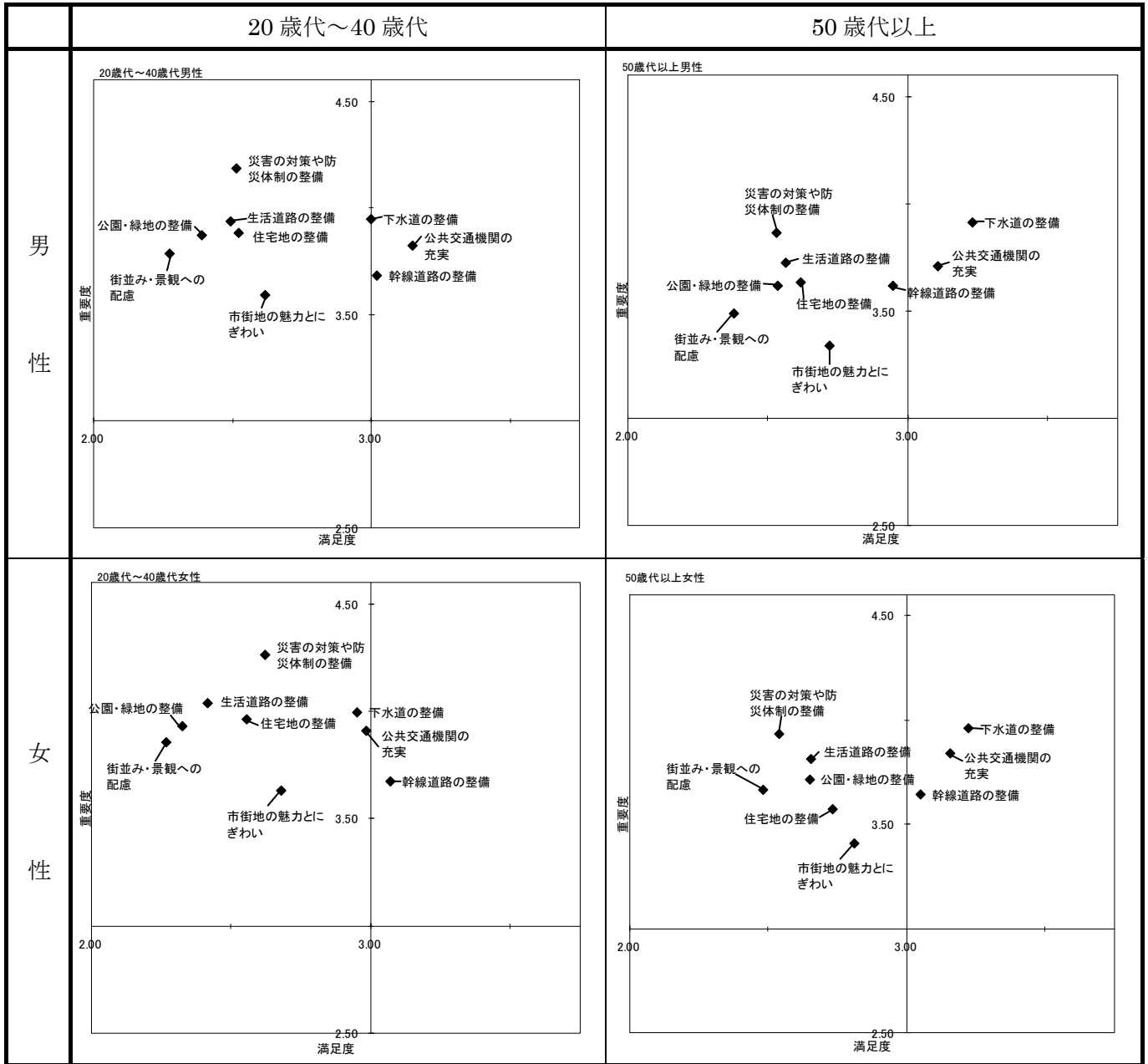


図4-5 男女世代別にみた都市基盤に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図



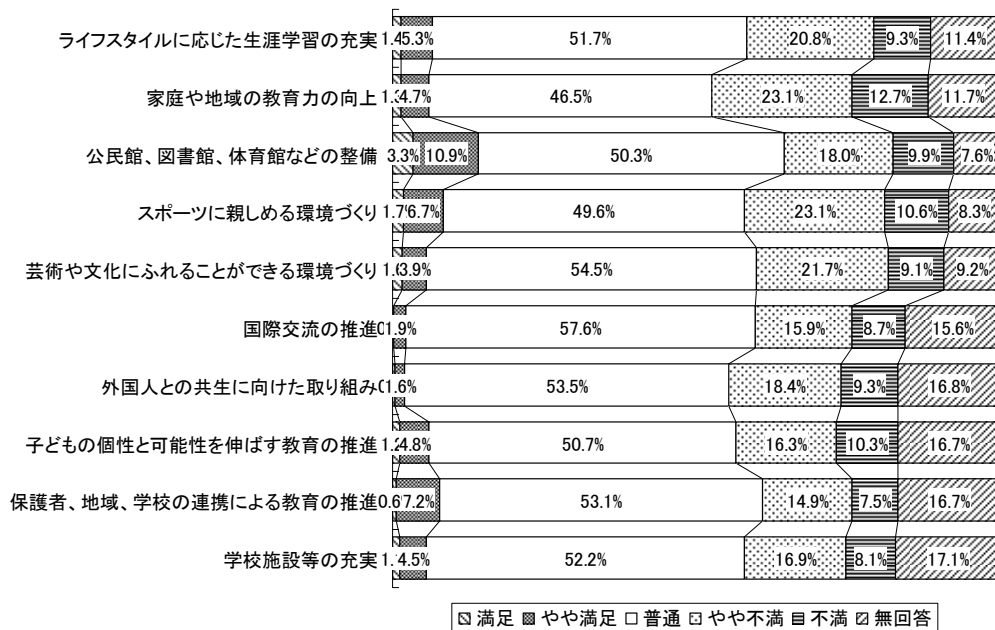
### 4-3. 教育・文化等に関すること

教育文化等において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が高い施策は、「公民館、図書館、体育館などの整備」で「満足」及び「やや満足」をあわせて14.2%となっており、続いて「スポーツに親しめる環境づくり」が8.4%となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「家庭や地域の教育力の向上」で「やや不満」及び「不満」をあわせて35.8%となっており、続いて「スポーツに親しめる環境づくり」が33.7%となっている。

また、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目はなく、全て「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っている。25ポイント以上上回っている項目をみると、「家庭や地域の教育力の向上」が29.8ポイント、「外国人との共生に向けた取り組み」が25.8ポイント、「スポーツに親しめる環境づくり」と「芸術や文化にふれることができる環境づくり」が25.3ポイント上回っている。

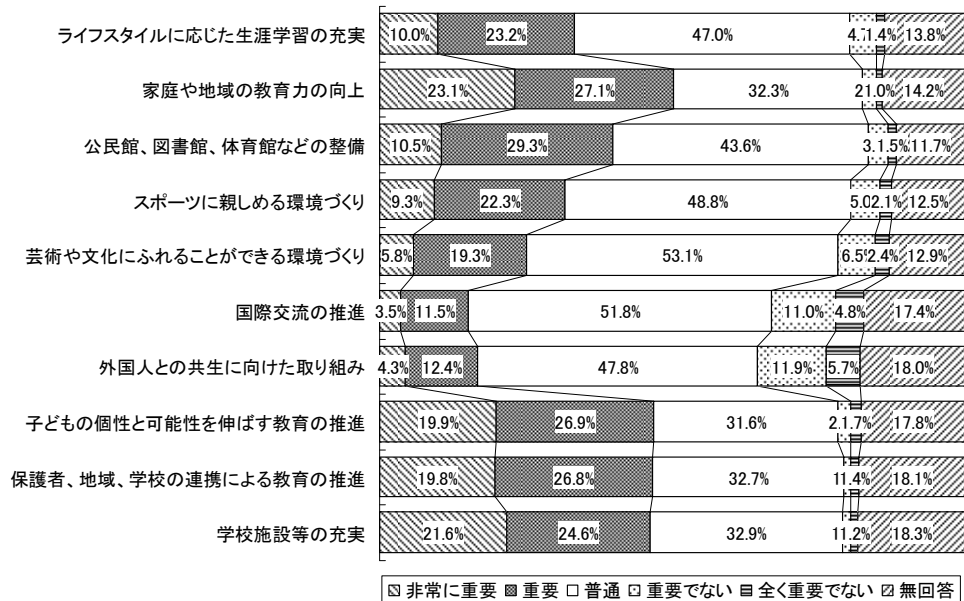
図4-6 教育・文化等に関する各種施策の満足度



また、教育・文化等における各種施策の重要度については、「家庭や地域の教育力の向上」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて50.2%と最も高く、次いで「子どもの個性と可能性を伸ばす教育の推進」が46.8%、「保護者、地域、学校の連携による教育の推進」が46.6%、「学校施設等の充実」が46.2%となっている。

特に、「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を40ポイント以上上回っている項目をみると、上記の重要度が高い「家庭や地域の教育力の向上」、「子どもの個性と可能性を伸ばす教育の推進」、「保護者、地域、学校の連携による教育の推進」、「学校施設等の充実」となっている。

図4-7 教育・文化等に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「家庭や地域の教育力の向上」や「子どもの個性と可能性を伸ばす教育の推進」、「学校施設等の充実」、「保護者、地域、学校の連携による教育の推進」、「公民館、図書館、体育館などの整備」が検討課題としてあげられる。

なお、これらの課題については、若い世代ほど満足度は低く、重要度が高い結果となっている。

図4-8 教育・文化等に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図

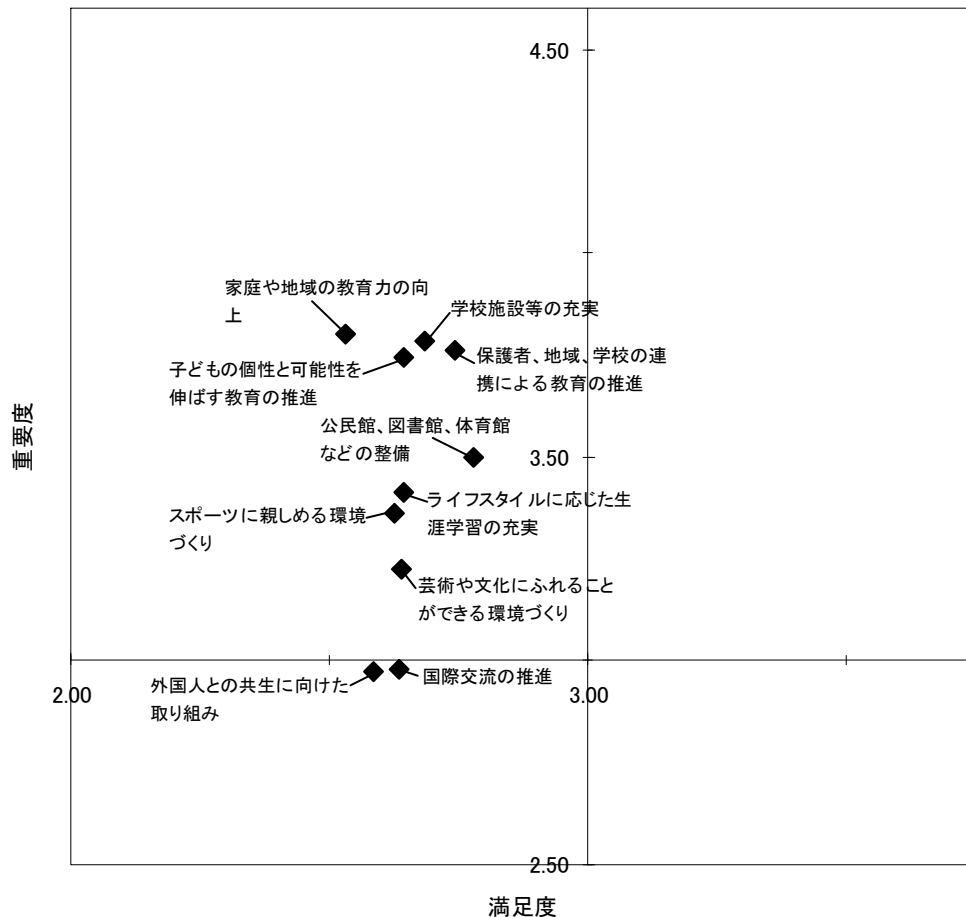
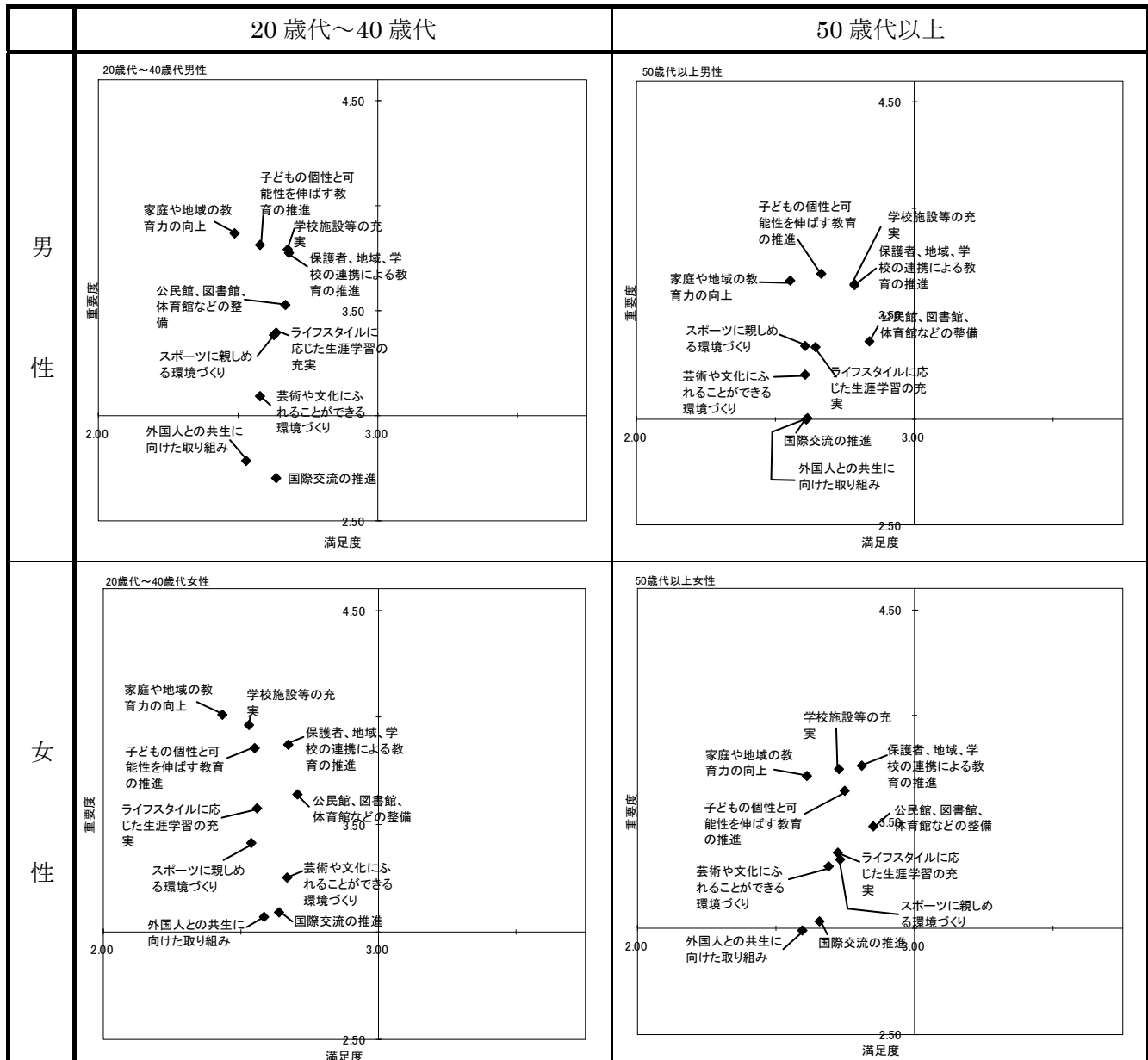


図4-9 男女世代別にみた教育・文化等に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図



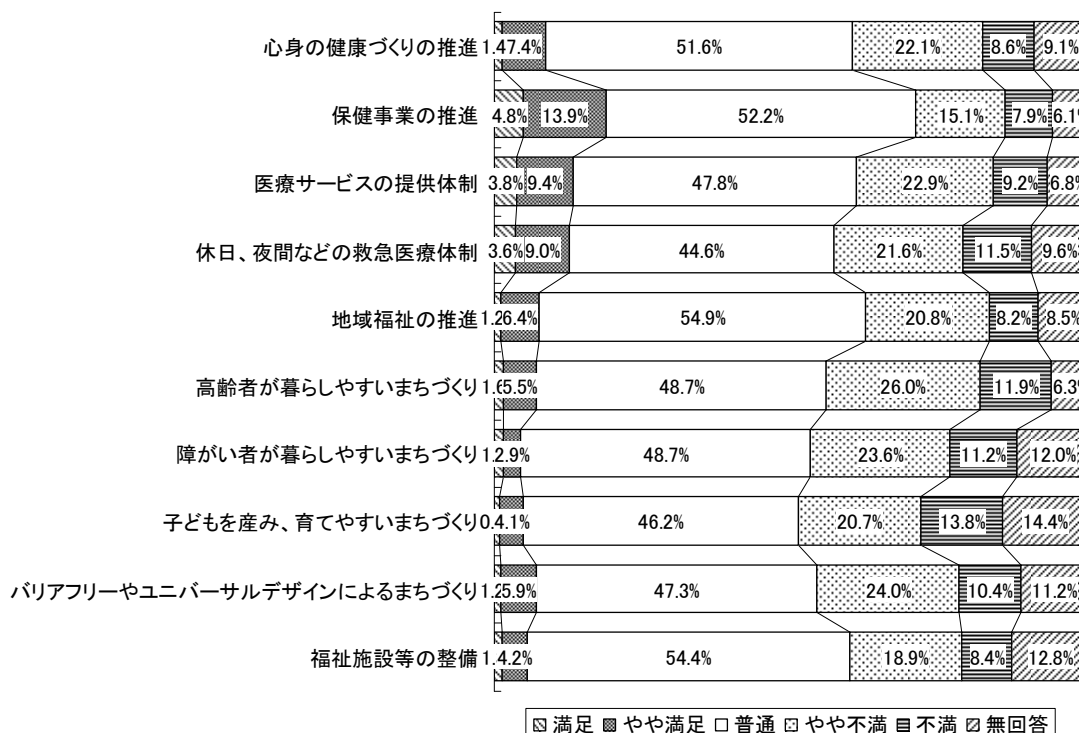
#### 4-4. 保健・医療・福祉に関すること

保健・医療・福祉等において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が高い施策は、「保健事業の推進」で「満足」及び「やや満足」をあわせて18.7%となっており、続いて「医療サービスの提供体制」が13.2%となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」で「やや不満」及び「不満」をあわせて37.9%となっており、続いて「障がい者が暮らしやすいまちづくり」が34.8%となっている。

また、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目はなく、全て「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っている。25ポイント以上上回っている項目をみると、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」が30.8ポイント、「障がい者が暮らしやすいまちづくり」が30.4ポイント、「子どもを産み、育てやすいまちづくり」が29.5ポイント、「バリアフリーやユニバーサルデザインによるまちづくり」が27.3ポイント上回っている。

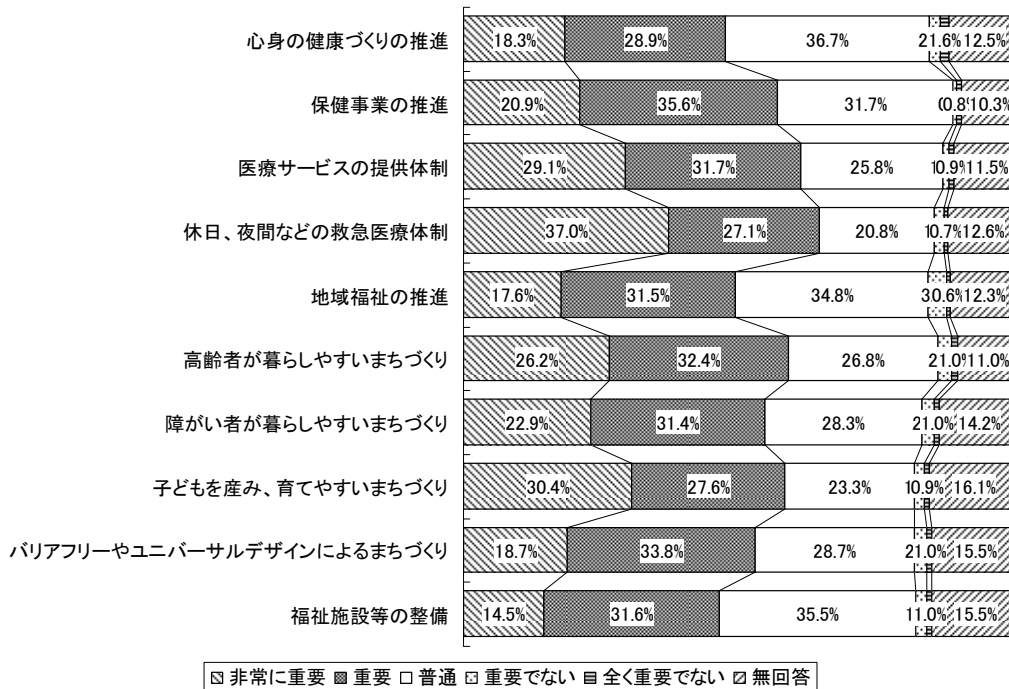
図4-10 保健・医療・福祉等に関する各種施策の満足度



また、保健・医療・福祉等における各種施策の重要度については、「休日、夜間などの救急医療体制」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて64.1%と最も高く、次いで「医療サービスの提供体制」が60.7%、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」が58.6%、「子どもを産み、育てやすいまちづくり」が58.0%となっている。

特に、全項目について「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を40ポイント以上上回っている。

図4-11 保健・医療・福祉等に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「子どもを産み、育てやすいまちづくり」が重点強化対応検討課題として、「休日、夜間などの救急医療体制」が強化対応検討課題として、他の残り全ての項目が検討課題としてあげられる。

なお、これらの課題については、若い世代ほど満足度は低く、重要度が高い結果となっている。

図4-12 保健・医療・福祉等に関する各種施策の満足度及び重要度の課題

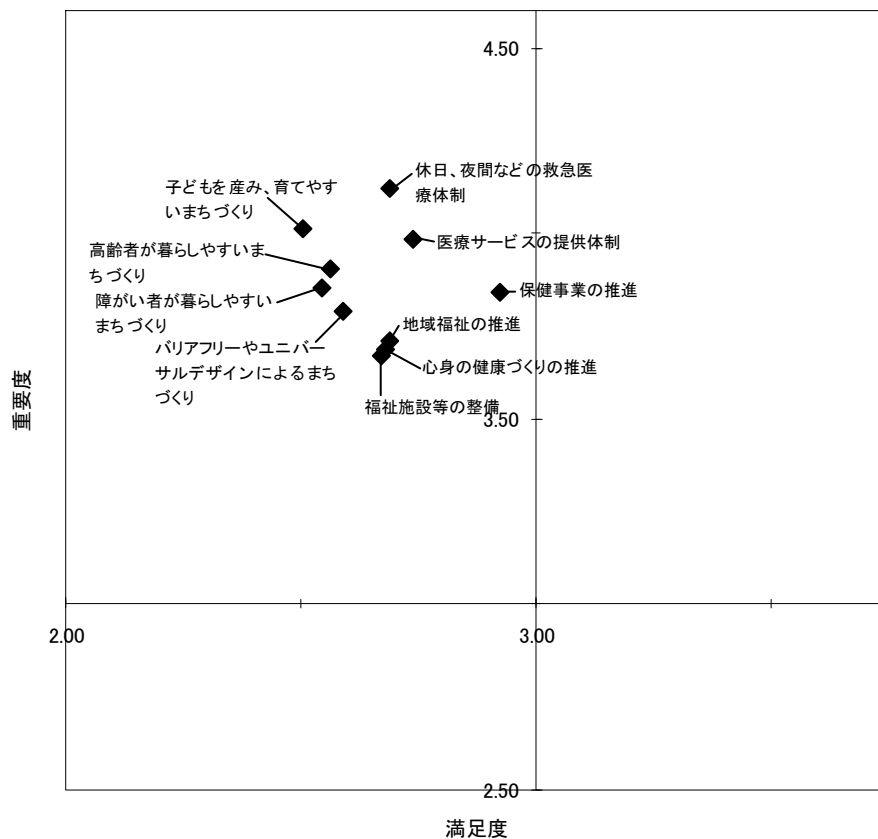
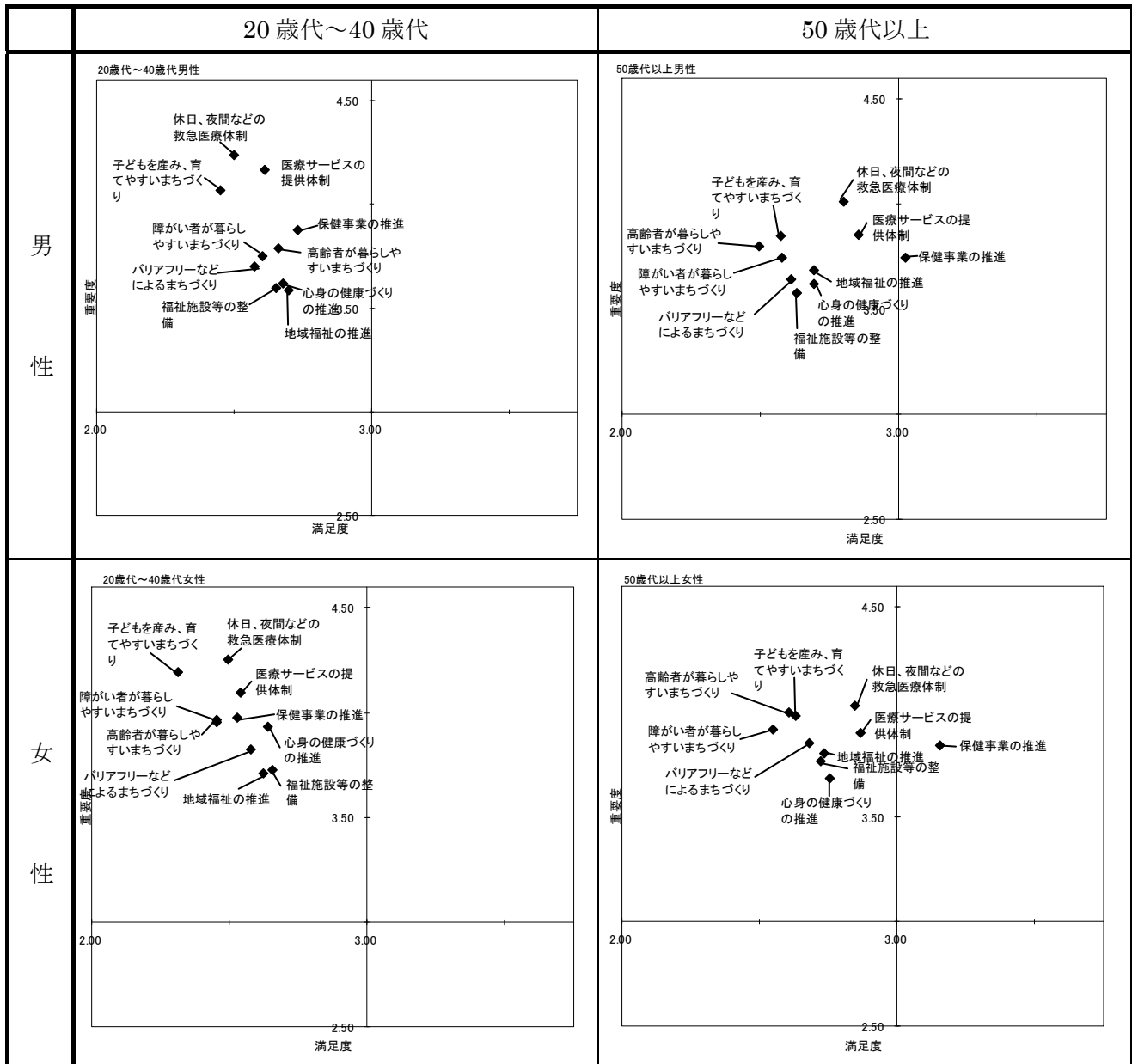


図4-13 男女世代別にみた保健・医療・福祉等に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図





#### 4-5. 市民生活に関すること

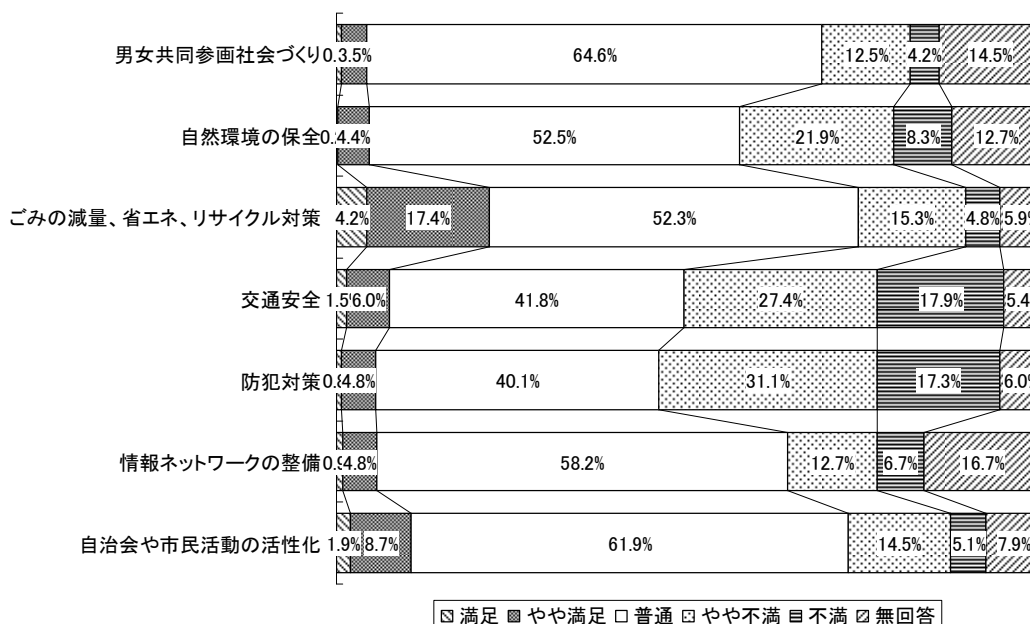
市民生活において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が高い施策は、「ごみの減量、省エネ、リサイクル対策」で「満足」及び「やや満足」をあわせて21.6%となっており、続いて「自治会や市民活動の活性化」が10.6%となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「防犯対策」で「やや不満」及び「不満」をあわせて48.4%となっており、続いて「交通安全」が45.3%となっている。

また、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目は、「ごみの減量、省エネ、リサイクル対策」で1.5ポイント上回っている。

他は、「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っているが、25ポイント以上上回っている項目をみると、「防犯対策」が42.8ポイント、「交通安全」が37.8ポイント、「自然環境の保全」が25.6ポイント上回っている。

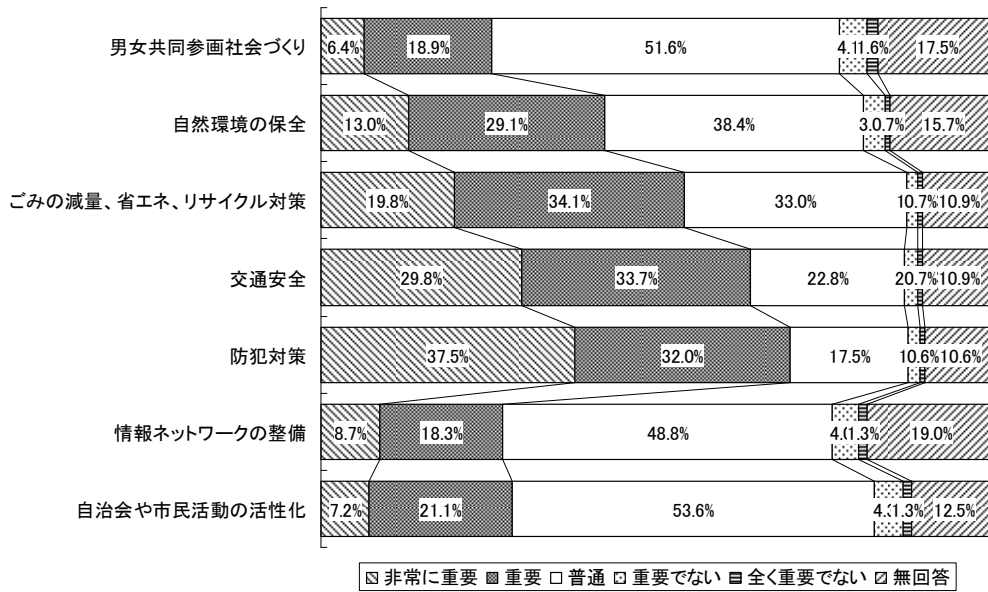
図4-14 市民生活に関する各種施策の満足度



また、市民生活における各種施策の重要度については、「防犯対策」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて69.5%と最も高く、次いで「交通安全」が63.5%、「ごみの減量、省エネ、リサイクル対策」が53.9%となっている。

特に、「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を40ポイント以上上回っている項目をみると、上記の重要度が高い「防犯対策」、「交通安全」、「ごみの減量、省エネ、リサイクル対策」となっている。

図 4-15 市民生活に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「防犯対策」と「交通安全」が重点強化対応検討課題として、「自然環境の保全」が検討課題としてあげられる。

なお、これらの課題については、若い世代ほど満足度は低く、重要度が高い結果となっている。

図 4-16 市民生活に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図

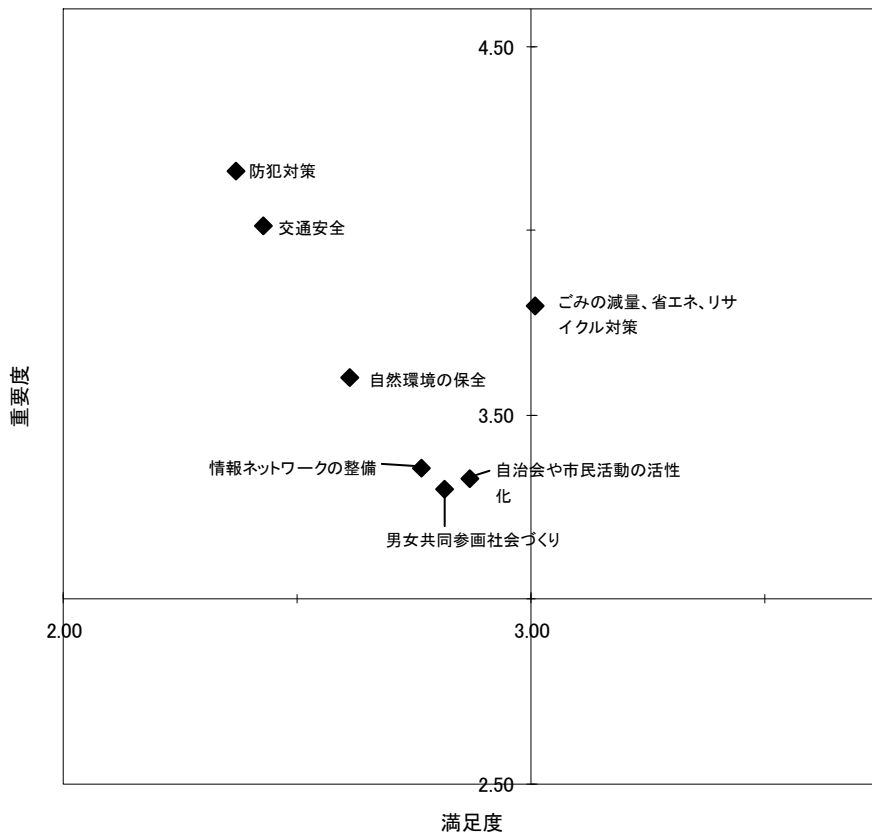
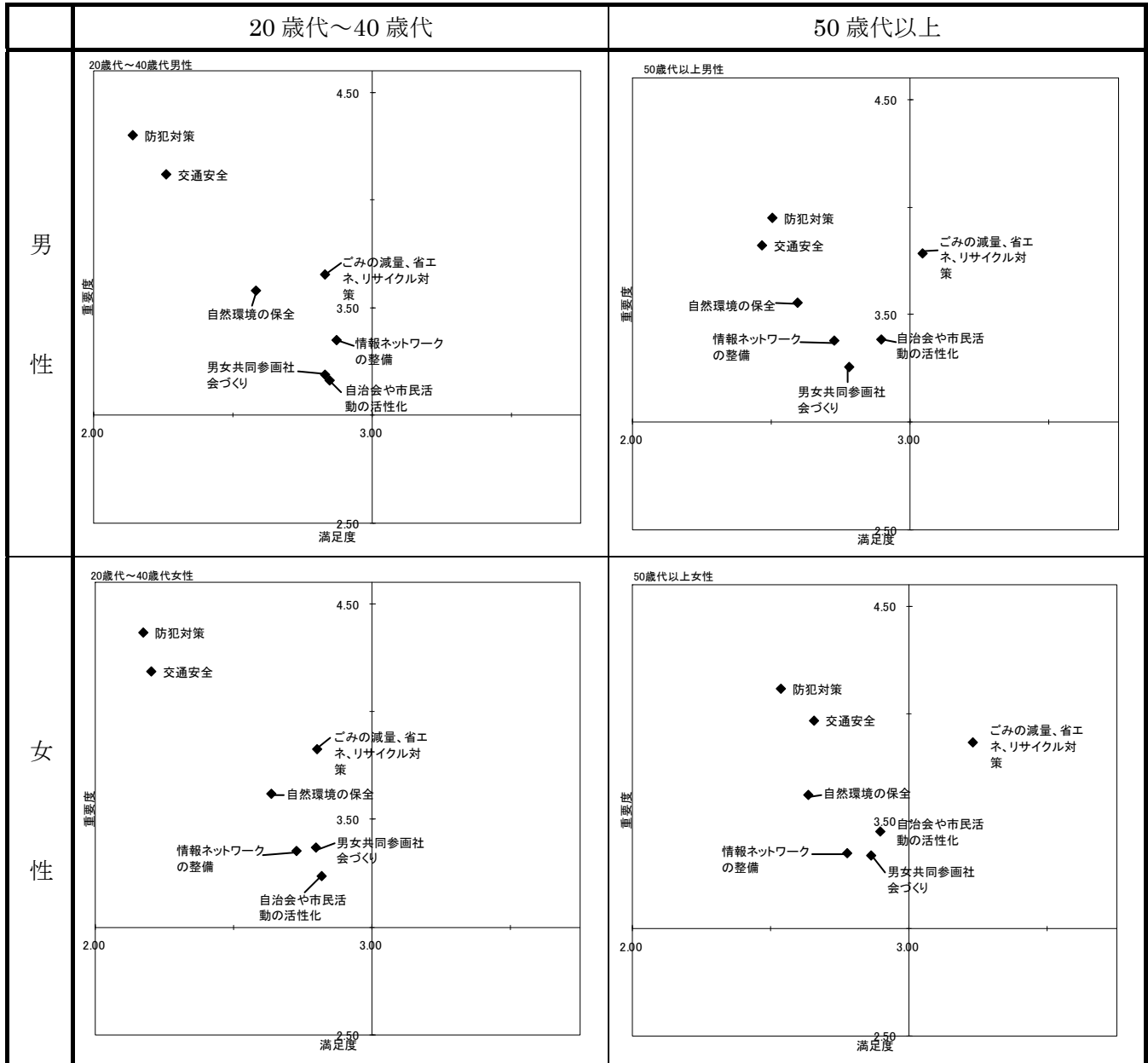


図 4-17 男女世代別にみた市民生活に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図



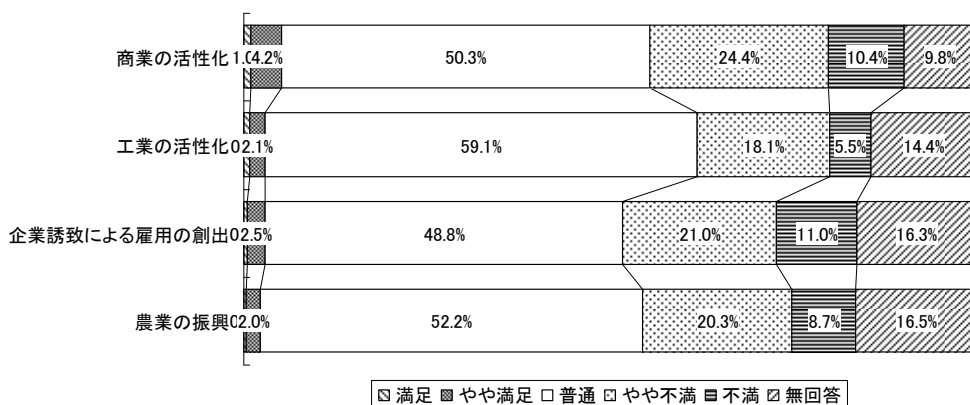
#### 4-6. 産業に関すること

産業において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合はいずれも10%未満と満足度が低い結果となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「商業の活性化」で「やや不満」及び「不満」をあわせて34.8%となっており、続いて「企業誘致による雇用の創出」が32.0%となっている。

また、全て「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目はなく、「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っている。25ポイント以上上回っている項目をみると、「商業の活性化」が29.6ポイント、「企業誘致による雇用の創出」が29.1ポイント、「農業の振興」が26.6ポイント上回っている。

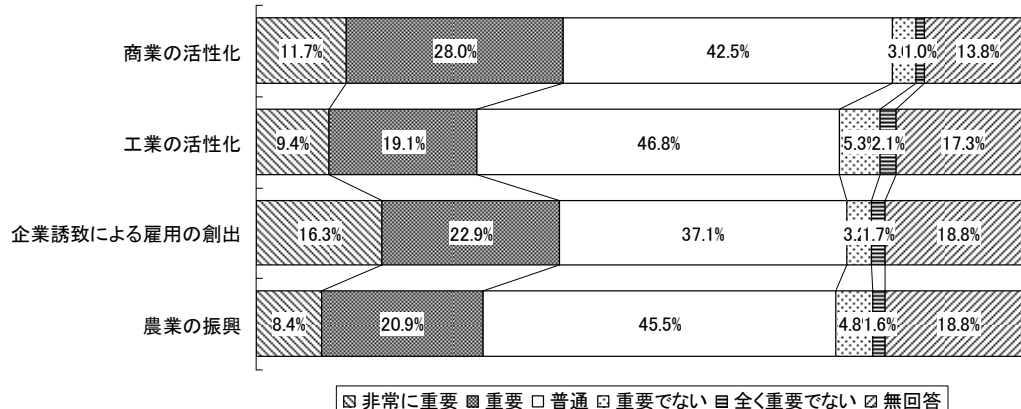
図4-18 産業に関する各種施策の満足度



また、産業における各種施策の重要度については、「商業の活性化」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて39.7%と最も高く、次いで「企業誘致による雇用の創出」が39.2%となっている。

特に、「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を40ポイント以上上回っている項目はない。

図4-19 産業に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「企業誘致による雇用の創出」と「商業の活性化」が検討課題としてあげられる。

図4-20 産業に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図

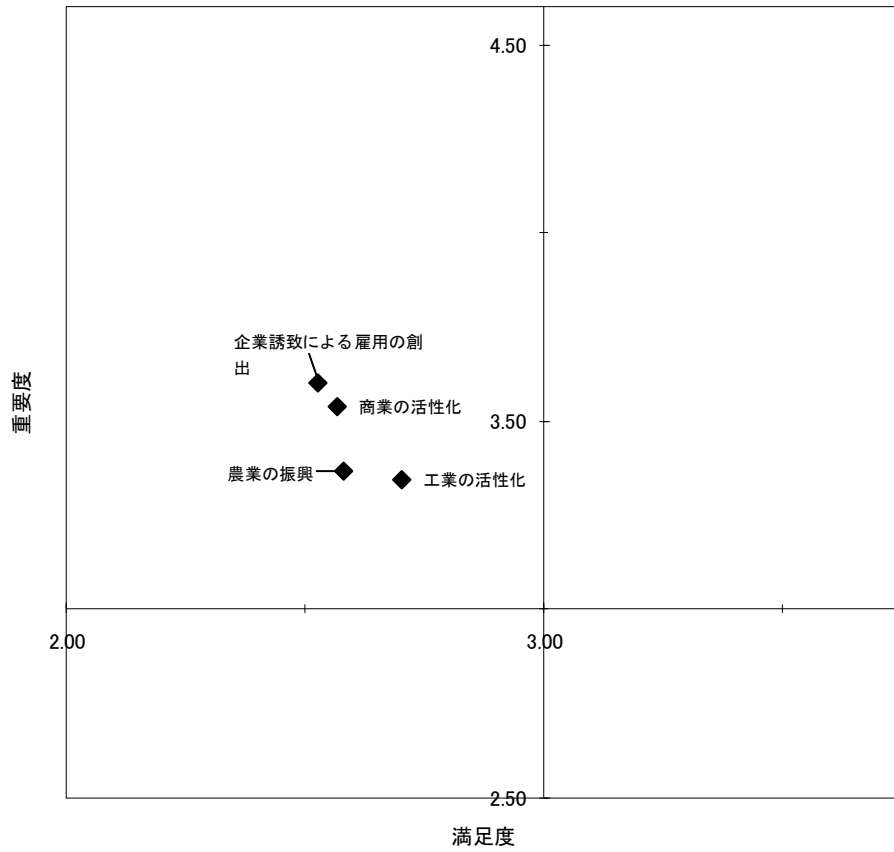
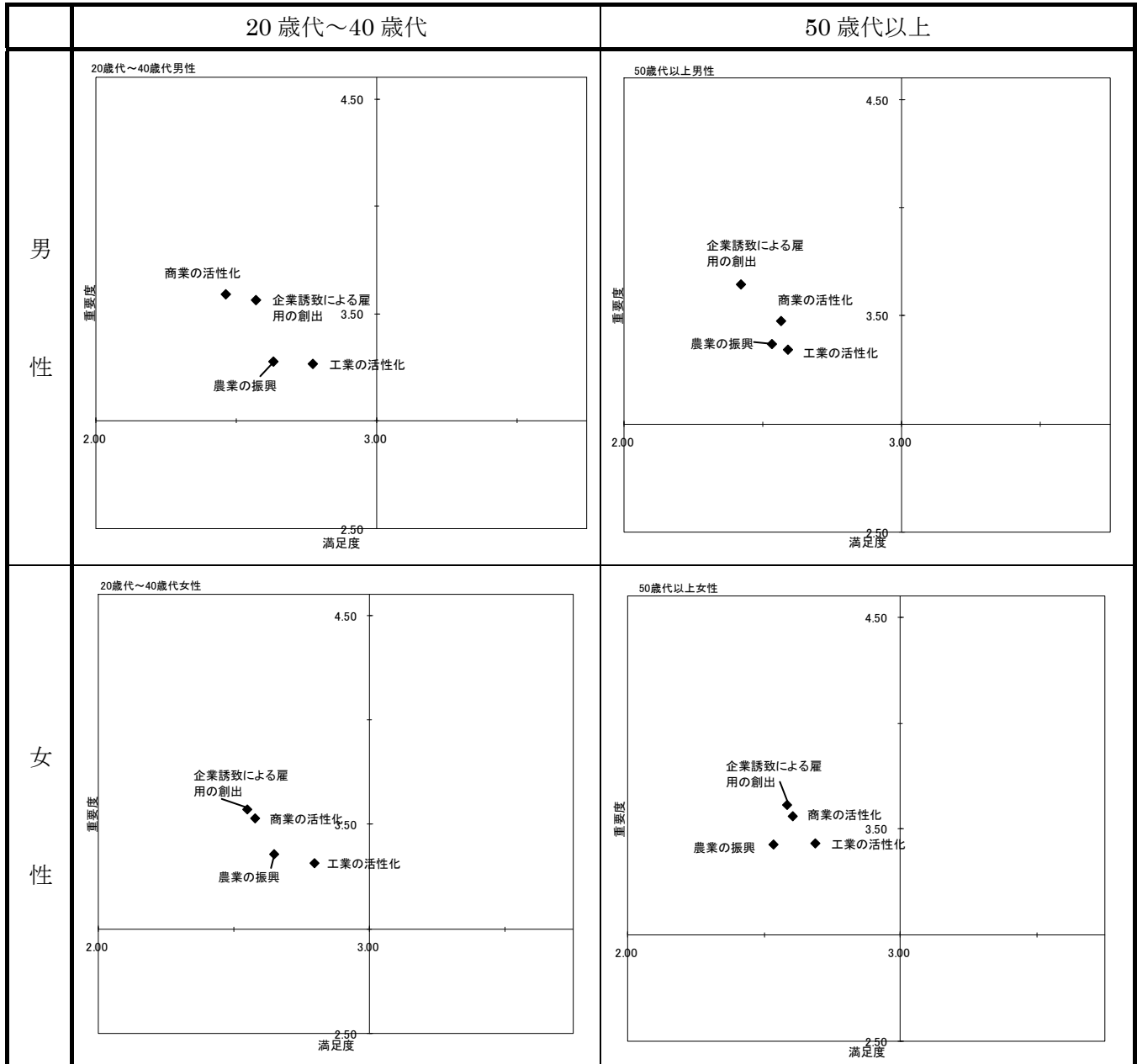


図 4-21 男女世代別にみた産業に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図



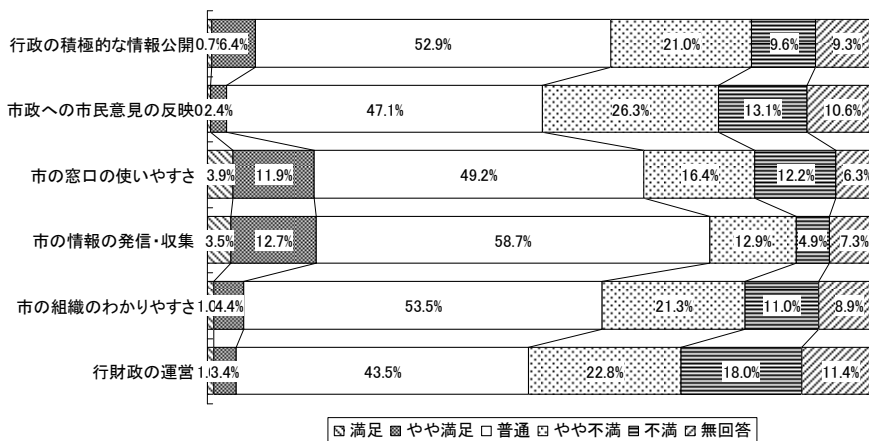
## 4-7. 行政に関すること

行政において、「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が高い施策は、「市の情報の発信・収集」で「満足」及び「やや満足」をあわせて16.2%となっており、続いて「市の窓口の使いやすさ」が15.8%となっている。

一方、「不満」及び「やや不満」の割合が高い施策は、「行財政の運営」で「やや不満」及び「不満」をあわせて40.8%となっており、続いて「市政への市民意見の反映」が39.4%となっている。

また、全て「満足」及び「やや満足」をあわせた割合が「不満」及び「やや不満」をあわせた割合を上回っている項目はなく「不満」及び「やや不満」をあわせた割合が「満足」及び「やや満足」をあわせた割合を上回っている。25ポイント以上上回っている項目をみると、「市政への市民意見の反映」が36.6ポイント、「行財政の運営」が36.4ポイント、「市の組織のわかりやすさ」が26.9ポイント上回っている。

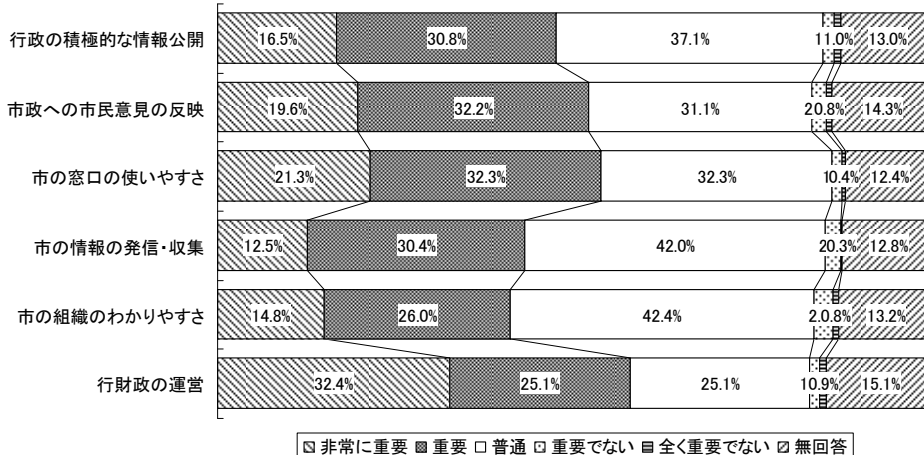
図4-22 行政に関する各種施策の満足度



また、行政における各種施策の重要度については、「行財政の運営」が「非常に重要」及び「重要」をあわせて57.5%と最も高く、次いで「市の窓口の使いやすさ」が53.5%となっている。

特に、「市の組織のわかりやすさ」を除き全ての項目について「非常に重要」及び「重要」をあわせた割合が「重要でない」及び「全く重要でない」をあわせた割合を40ポイント以上上回っている。

図4-23 行政に関する各種施策の重要度



満足度と重要度から今後の対応を強化すべき項目は、「行財政の運営」が重点強化対応検討課題として、「市政への市民意見の反映」が強化対応検討課題として、「行政の積極的な情報公開」や「市の組織のわかりやすさ」、「市の窓口の使いやすさ」、「市の情報の発信・収集」が検討課題としてあげられる。

図 4-24 行政に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図

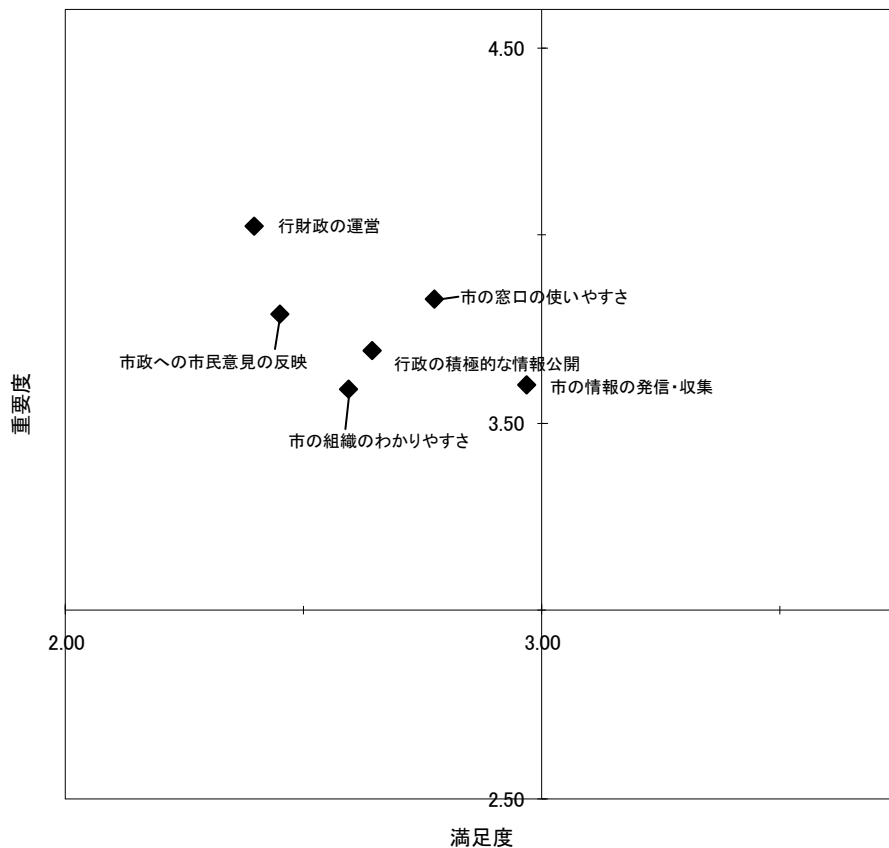
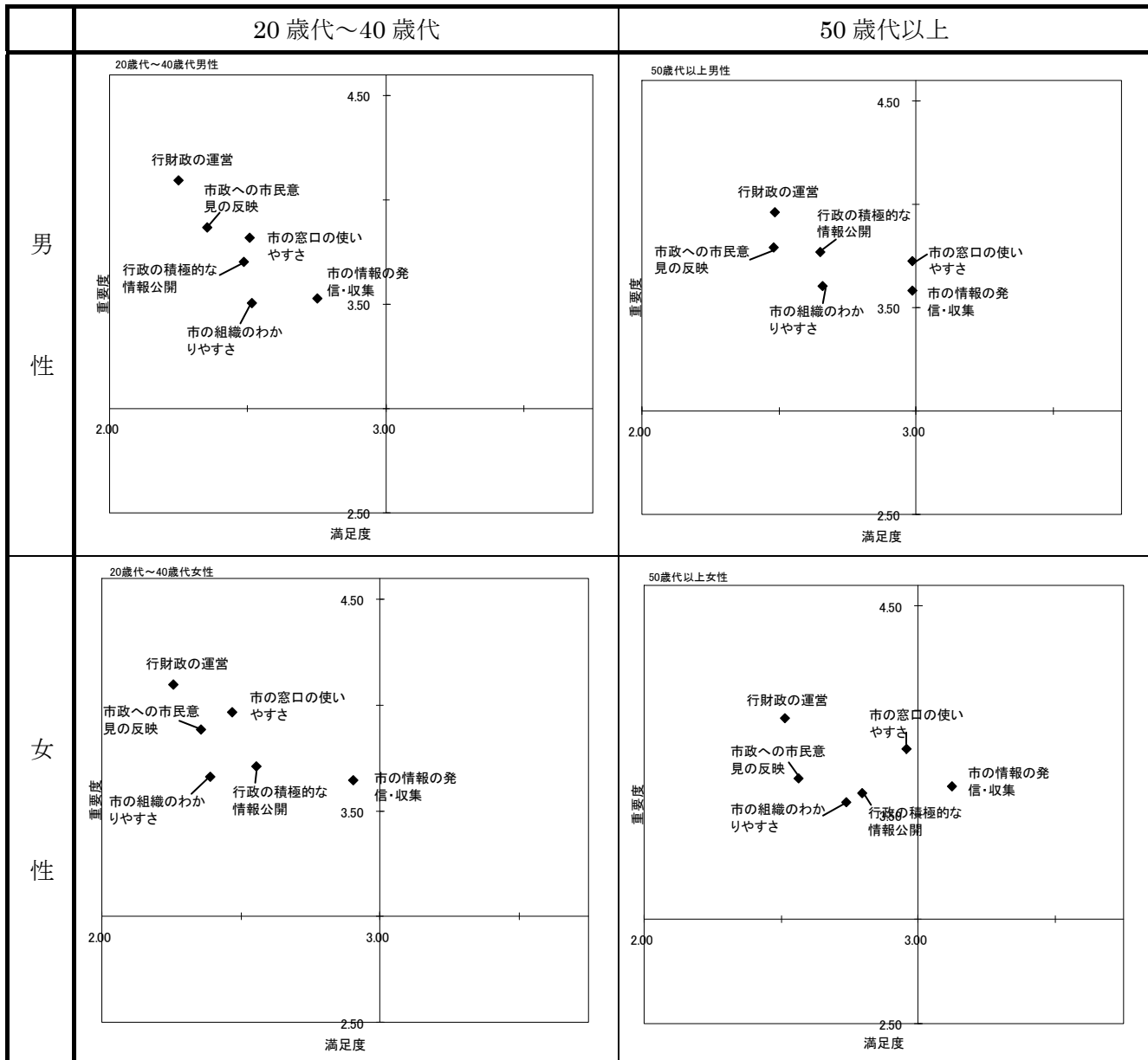




図4-25 男女世代別にみた行政に関する各種施策の満足度及び重要度の課題領域図



## 第5章 魅力ある門真市を創るための主要な分野別施策

### 5-1. 市街地整備

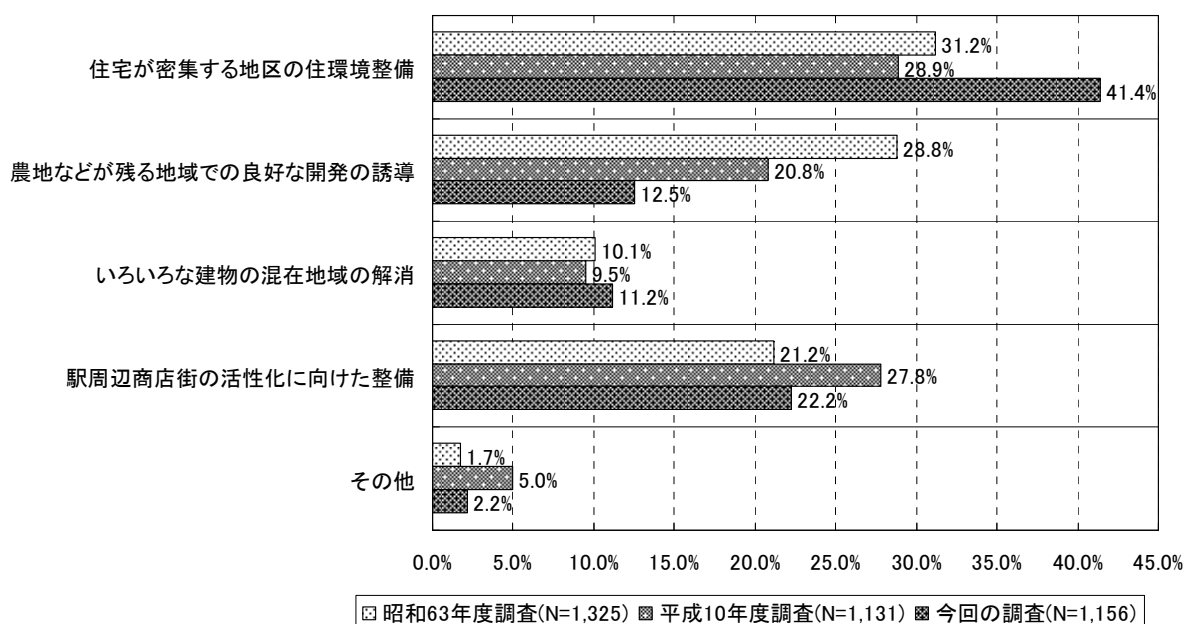
今後、本市のまちづくりを進めていく上で重要な課題である市街地整備について、最も望まれている項目は、“住宅が密集する地区の住環境整備”で41.4%となっており、次いで“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”が22.2%、“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”が12.5%、“いろいろな建物の混在地域の解消”が11.2%と続いている。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“住宅が密集する地区の住環境整備”は、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の28.9%から12.5ポイント増加し、大幅に割合が増加している。

“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”は前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の27.8%から5.6ポイント減少し、“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”は、前々回（第3次総合計画策定時＜昭和63年度調査＞）から16.3ポイント、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）から8.3ポイント減少し、大幅に減少していく傾向にある。

“いろいろな建物の混在地域の解消”は、いずれの調査時も概ね10%前後となっている。

図5-1 市街地整備に関する意向（過年度調査結果との比較）

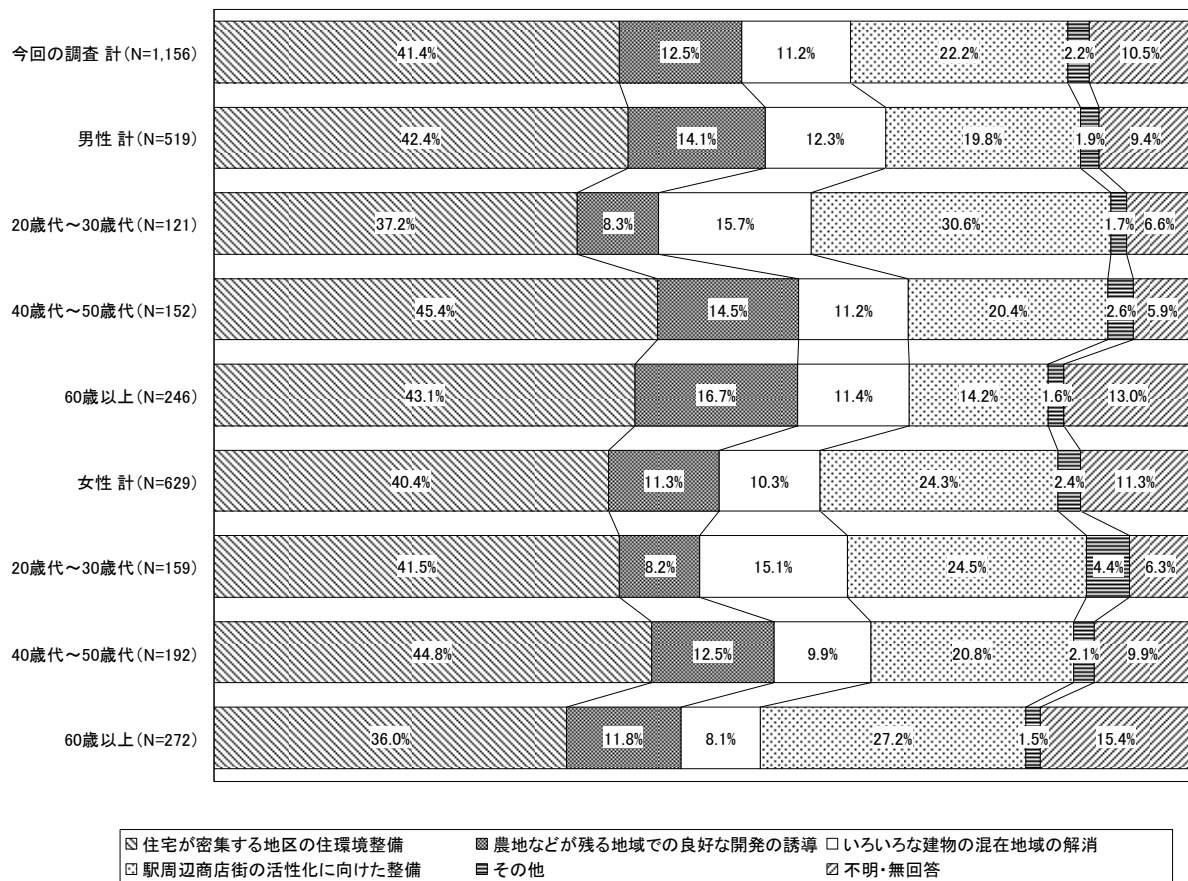


男女年代別に市街地整備に関する意向をみると、全体で最も割合が高い“住宅が密集する地区の住環境整備”については、男女ともに40歳代～50歳の年代で割合が最も高くなっており、男性では45.4%、女性では44.8%となっている。

今回の調査で全体では2番目に割合が高い“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”については、男性の20歳代～30歳代が30.6%と最も割合が高く、次いで女性の60歳以上が27.2%となっている。これら男性の20歳代～30歳代、女性の60歳以上では、“住宅が密集する地区の住環境整備”については、他の性別・年代層と比較して少し割合が低くなっている。

今回の調査で全体では3番目に割合が高い“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”については、男性の60歳以上が16.7%と最も割合が高く、次いで男性の40歳代～50歳代が14.5%となっている。男女ともに20歳代～30歳代ではそれぞれ8.3%、8.2%と10%以下となっており、他の性別・年代層と比較して少し低くなっている。

図5-2 性別年代別にみた市街地整備に関する意向



地域別に市街地整備に関する意向をみると、北部地域では、“住宅が密集する地区の住環境整備”が43.6%と最も割合が高く、次いで“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”が27.0%と2番目に割合が高くなっている。

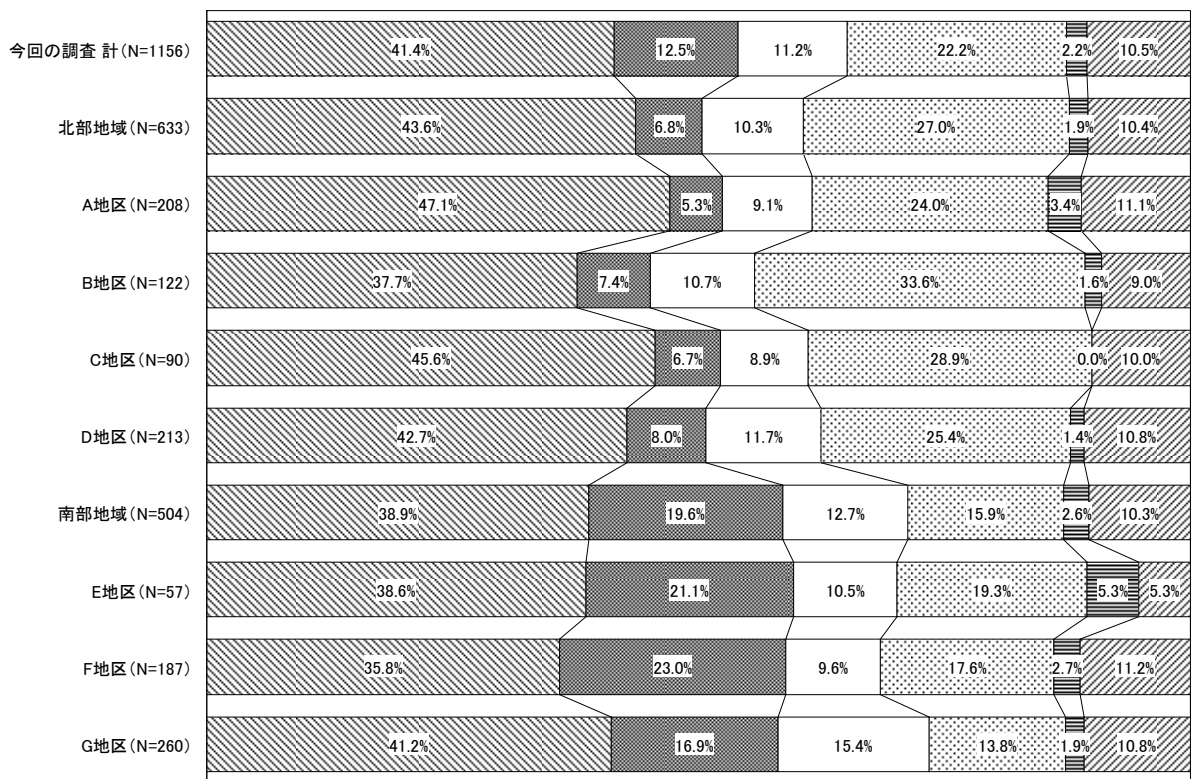
一方、南部地域では、“住宅が密集する地区の住環境整備”が38.9%と最も割合が高くなっているが、北部地域より4.7ポイント低く、“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”が19.6%と2番目に高くなっている。北部地域の6.8%と比較すると12.8ポイント高くなっている。また、北部地域で2番目に高い割合となっていた“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”は15.9%と北部地域と比較すると11.1ポイント低くなっている。

さらに、地区別に市街地整備に関する意向をみると、いずれの地区も“住宅が密集する地区の住環境整備”の割合が最も高く、A地区、C地区、D地区、G地区で40%を超えている。

北部地域に位置するA地区、B地区、C地区、D地区のいずれの地区も、“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”が2番目に割合が高く、特に、B地区では33.6%とかなり高い割合となっている。

南部地域に位置するE地区、F地区、G地区のいずれの地区も、“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”が2番目に割合が高く、E地区やF地区では、21.1%、23.0%と20%を超えている。

図5-3 地域や地区別にみた市街地整備に関する意向



住宅が密集する地区の住環境整備
  農地などが残る地域での良好な開発の誘導
  いろいろな建物の混在地域の解消
  駅周辺商店街の活性化に向けた整備
  その他
  不明・無回答

## 5-2. 道路整備

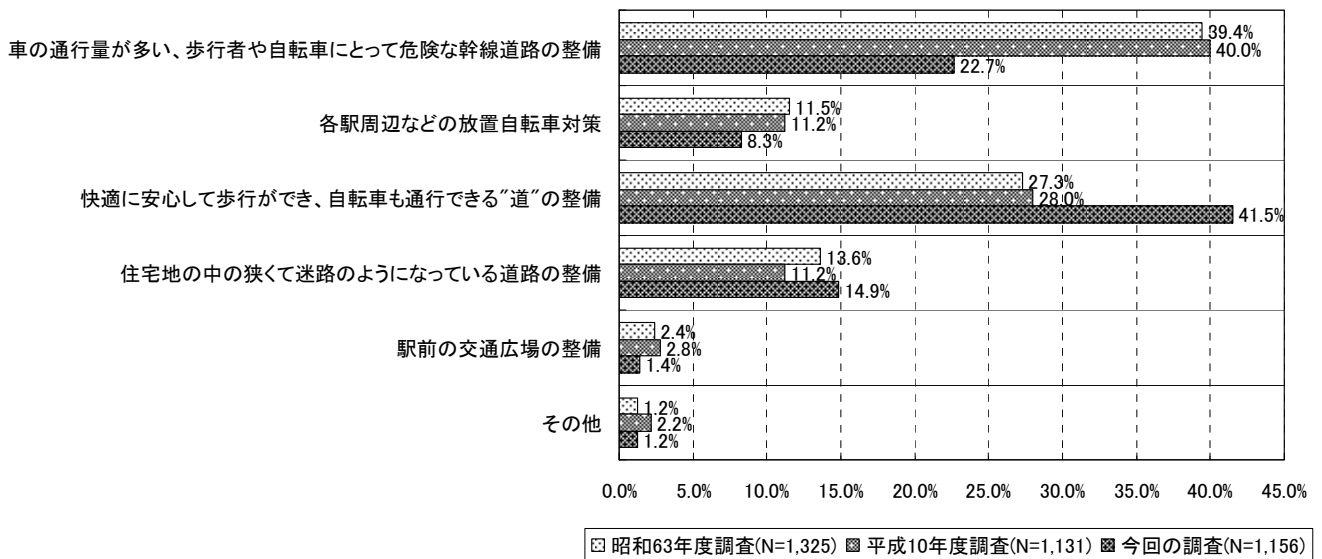
今後、本市のまちの骨格となる道路整備について、最も望まれている項目は“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”で41.5%となっている。次いで、“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”が22.7%、“住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備”が14.9%と続き、歩行者や自転車の安全で快適な通行や生活道路の整備が望まれている。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”は、前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）の28.0%から13.5ポイント増加し、大幅に割合が増加している。

一方、“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”は、前々回（第3次総合計画策定時<昭和63年度調査>）及び前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）では約40%であったが、今回の調査では22.7%と約17ポイント減少している。

この結果からは、単に幹線道路の歩道整備だけではなく、歩行者と自転車それぞれが安全に通行できる環境を確保することが求められていると考えられる。

図5-4 道路整備に関する意向（過年度調査結果との比較）



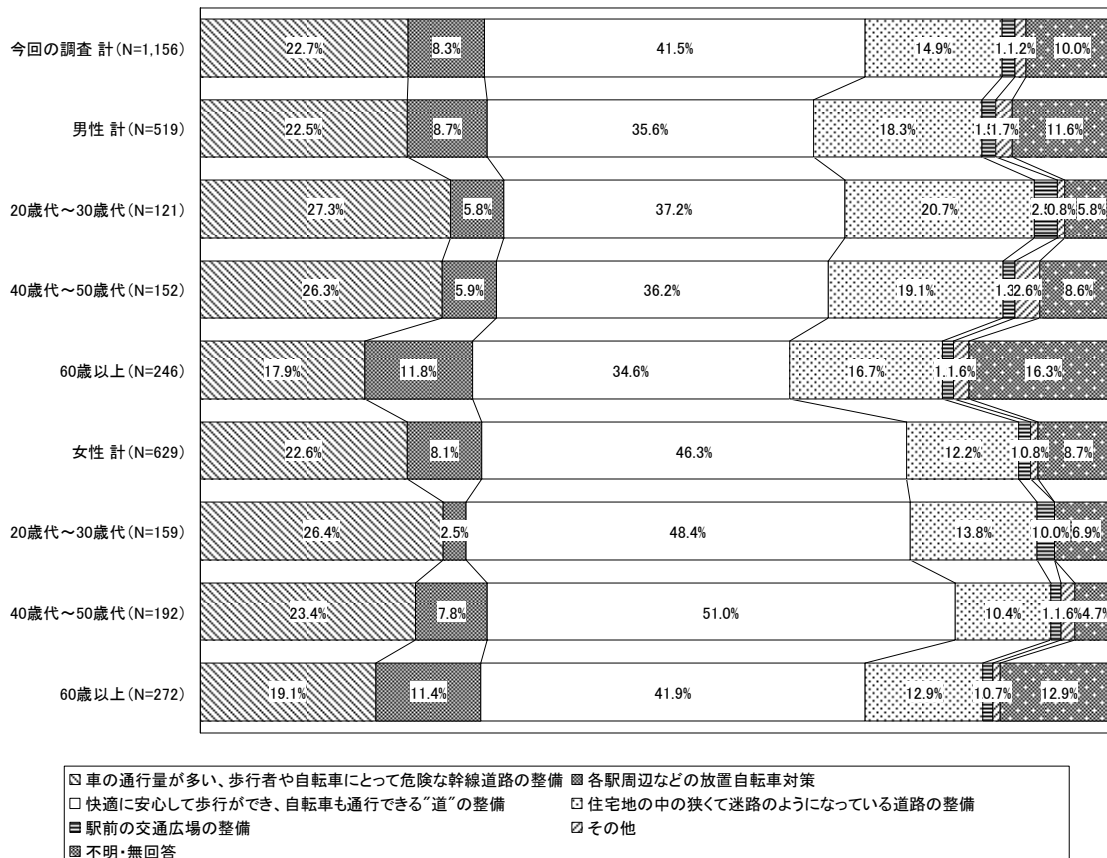
男女年代別に道路整備に関する意向をみると、全体で最も割合が高い“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”については、女性全体では46.3%と男性全体の35.6%を10.7ポイント上回っており、女性の意向が強いことがうかがえる。特に、女性においても40歳代～50歳代で51.0%と最も高くなっている。

今回の調査で全体では2番目に割合が高い“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”については、男女の差異は少ないが、男女とも60歳代以上でそれぞれ17.9%、19.1%と他の性別・年代層から比較して少し低くなっている。

今回の調査で全体では3番目に割合が高い“住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備”については、男性全体では18.3%と女性全体の12.2%を6.1ポイント上回っており、男性の意向が強いことがうかがえる。

また、“各駅周辺などの放置自転車対策”では、男女ともに60歳代以上において、他の性別・年代層と比較して少し割合が高くなっている。

図5-5 男女年代別にみた道路整備に関する意向



地域別に道路整備に関する意向をみると、順位に差異はないが、南部地域では、“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”や“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”がそれぞれ45.4%、25.8%と北部地域の38.4%、19.9%を7.0ポイント、5.9ポイント上回っている一方、“住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備”や“各駅周辺などの放置自転車対策”がそれぞれ13.3%、4.4%と北部地域の16.3%、11.7%より、3.0ポイント、7.3ポイント下回っている。北部地域では、駅周辺などの放置自転車対策や駅前広場整備など、駅周辺における交通対策が南部地域に比較し意向が強いことに対し、南部地域では歩行者や自転車の安全で快適な通行が、北部地域に比較し意向が強いことがうかがえる。

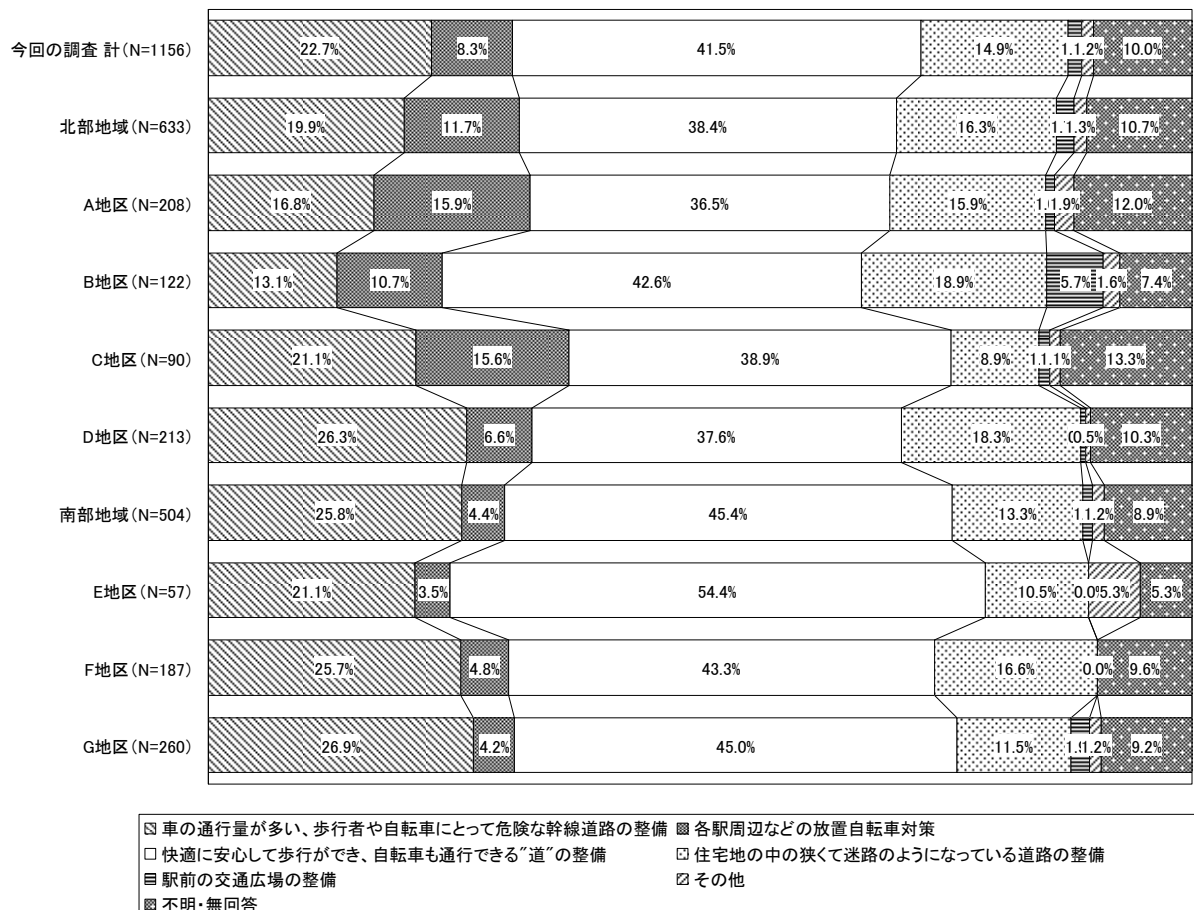
さらに、地区別に道路整備に関する意向をみると、各地区とも“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”が最も高く、E地区では54.4%と50%を超えている。その他の地区でも40%前後を占めており、各地区ともに、安心、快適に通行できる歩行者道、自転車道の整備が求められている。

B地区を除き、他の地区では“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”が2番目に高い割合となっている。

B地区では、“住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備”が2番目に高い割合となっている。

また、A地区やB地区、C地区では、“各駅周辺などの放置自転車対策”が10%を超え、他の地区より高い割合となっている。

図5-6 地域や地区別にみた道路整備に関する意向



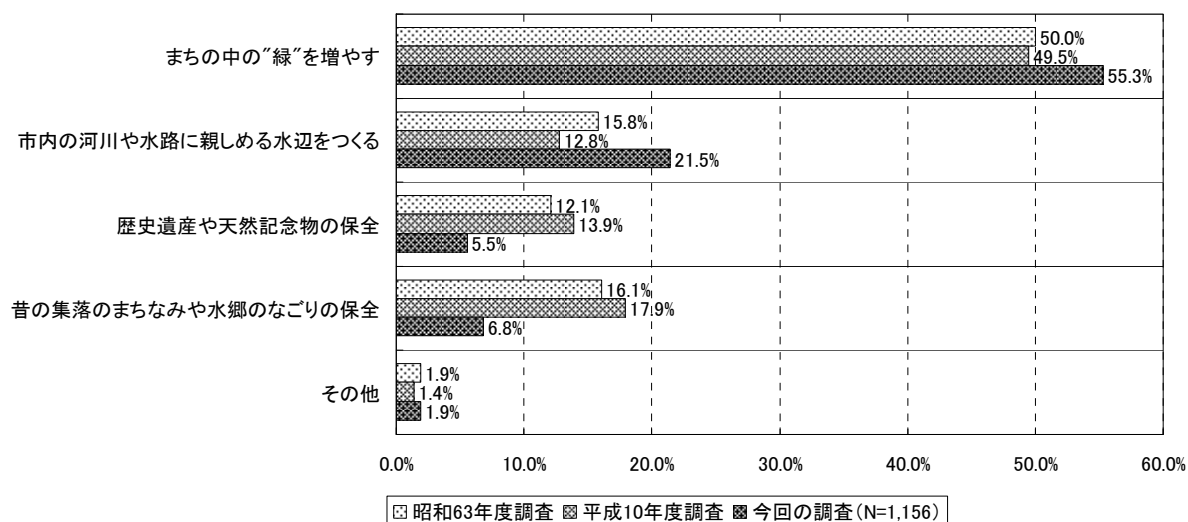
### 5-3. うるおいの創出

今後、本市のまちづくりにおけるうるおいの創出について、最も望まれている項目は“まちの中の緑を増やす”で55.3%となっている。次いで、“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”が21.5%、となっている。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“まちの中の緑を増やす”は、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の49.5%から.5ポイント増加し、“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”は、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の12.8%から8.7ポイント増加している。

一方、“昔の集落のまちなみや水郷のなごりの保全”や“歴史遺産や天然記念物の保全”は、それぞれ前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の17.9%から11.1ポイント、13.9%から8.4ポイント減少し、歴史的な遺産の保全への意向が少なくなってきた。

図5-7 うるおいの創出に関する意向（過年度調査結果との比較）



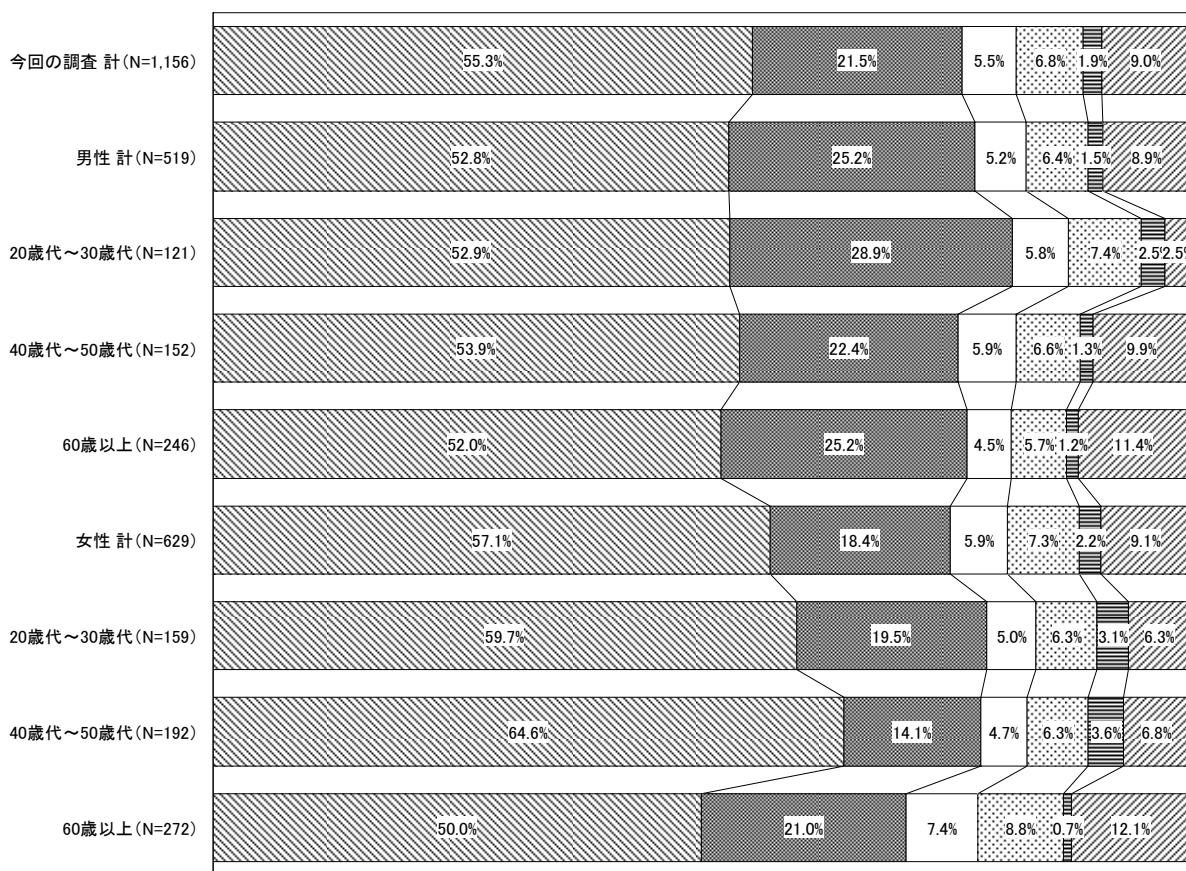


男女年代別にうるおい創出に関する意向をみると、全体で最も割合が高い“まちの中の緑を増やす”については、女性全体では 57.1%と男性全体の 52.8%を 4.2 ポイント上回っており、女性の意向が少し強いことがうかがえる。特に、女性においても 40 歳代～50 歳代で 64.6%と最も高くなっている。

今回の調査で全体では 2 番目に割合が高い“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”については、男性全体では 25.2%と女性全体の 18.4%を 6.8 ポイント上回っており、男性の意向が少し強いことがうかがえる。特に、男性においても 20 歳代～30 歳代で 28.9%と最も高くなっている。

“昔の集落のまちなみや水郷のなごりの保全”や“歴史遺産や天然記念物の保全”は、女性の 60 歳代以上が他の性別年代層よりも少し割合が高くなっている。

図 5-8 男女年代別にみたうるおいの創出に関する意向



□ まちの中の“緑”を増やす      □ 市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる      □ 歴史遺産や天然記念物の保全  
 □ 昔の集落のまちなみや水郷のなごりの保全      □ その他      □ 不明・無回答

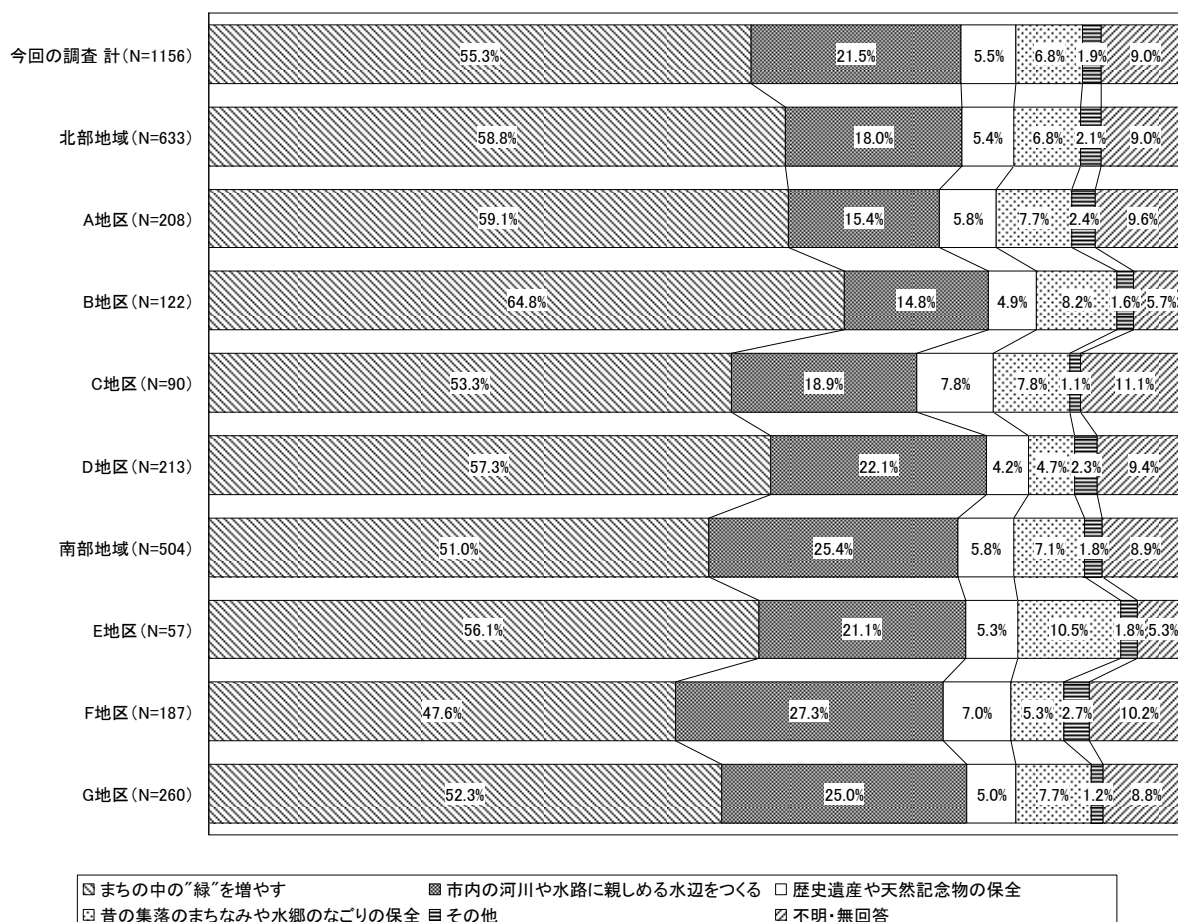
地域別にうるおい創出に関する意向をみると、順位に差異はないが、北部地域では、“まちの中の緑を増やす”が58.8%と南部地域の51.0%、7.8ポイント上回っている一方、“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”が18.0%と南部地域の25.4%より7.4ポイント下回っている。いずれの地域もより豊かな緑の環境が求められているが、南部地域では、地域の河川や水路を活かしたうるおいのあるまちづくりを進めていくことを望んでいる様子が見えてくる。

さらに、地区別にうるおいの創出に関する意向をみると、各地区とも“まちの中の緑を増やす”が最も高く、B地区では64.8%と最も高くなっている。その他の地区でも4割以上を占めており、各地区ともに、豊かな緑の環境が求められている

また、“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”は、F地区が27.3%と最も高く、南部地域のいずれの地区も2割を超えている。

“昔の集落のまちなみや水郷のなごりの保全”については、E地区で10.5%と最も高く、“歴史遺産や天然記念物の保全”は、C地区やF地区でそれぞれ7.8%、7.0%と他の地区より少し高い割合となっている。

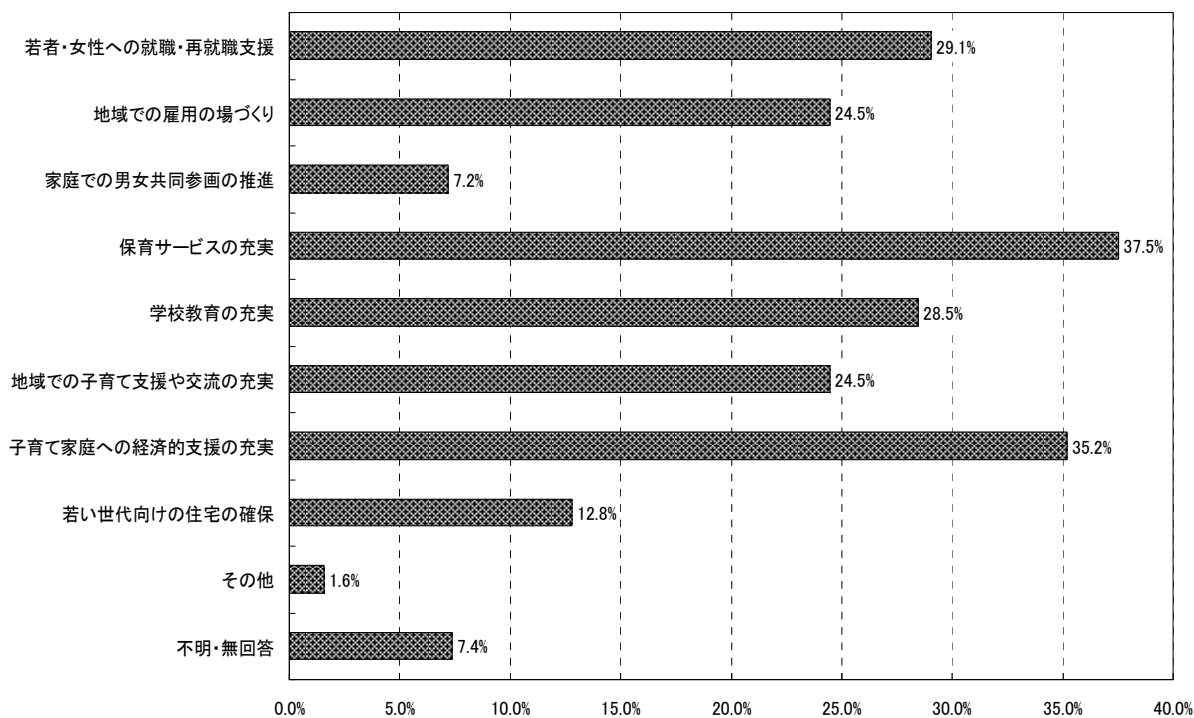
図5-9 地域や地区別にみたうるおいの創出に関する意向



#### 5-4. 子育て支援

子育て支援について、最も力を入れるべき項目は“保育サービスの充実”で回答者の37.5%が、次いで、“子育て家庭への経済的支援の充実”が35.2%、“若者・女性への就職・再就職支援”が29.1%、“学校教育の充実”が28.5%、“地域での若者などの雇用の場づくり”及び“地域での子育て支援や交流の充実”が24.5%となっている。

図5-10 子育て支援に関する意向

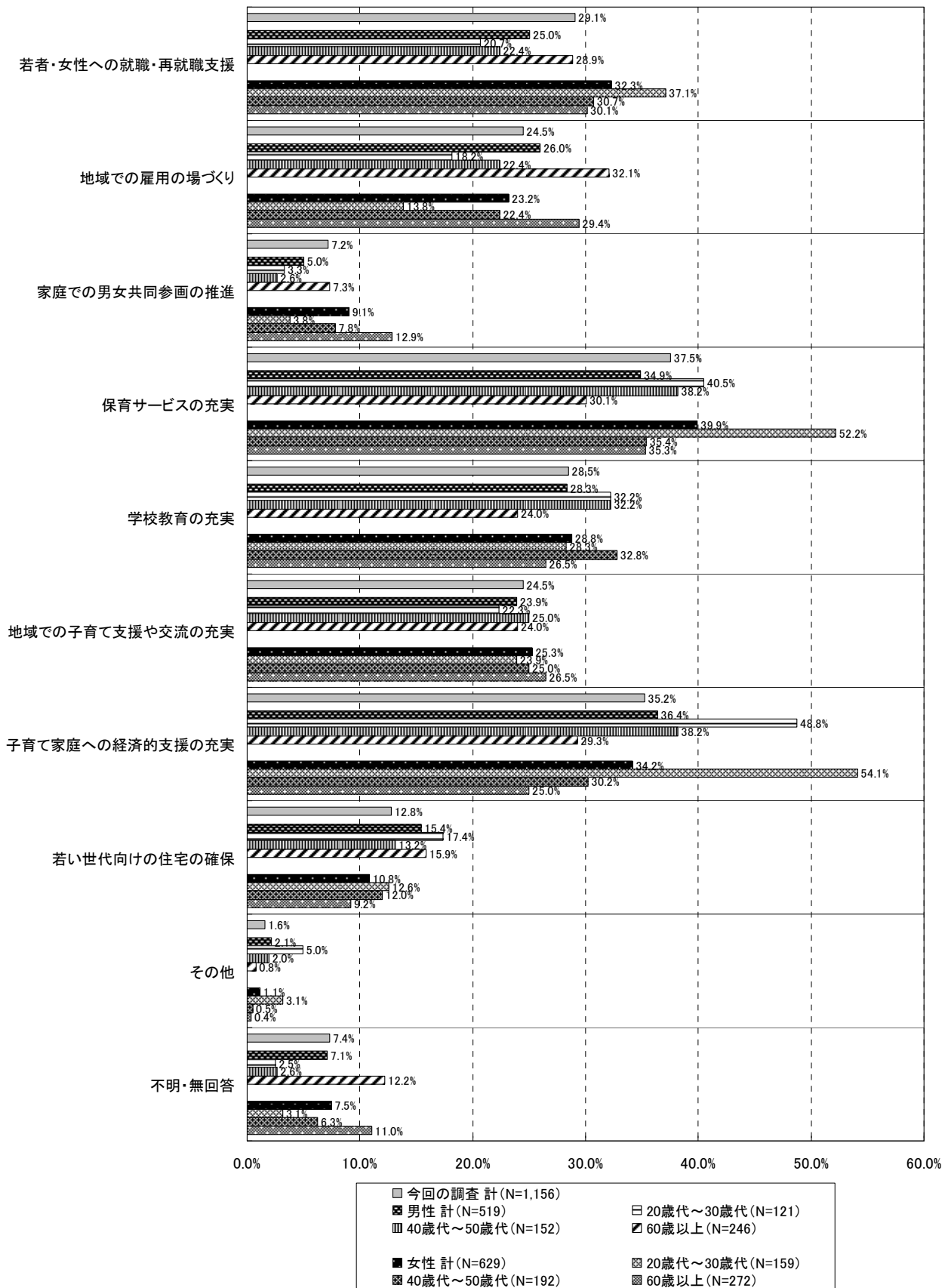


男女年代別に子育て支援に関する意向をみると、図5-11に示すように、全体で最も割合が高い“保育サービスの充実”については、女性の20歳代～30歳代が他の性別年代層よりかなり割合が高く、52.2%となっており、子育てをする世代の女性の意向が強いことがうかがえる。

今回の調査で全体では2番目に割合が高い“子育て家庭への経済的支援の充実”については、女性の20歳代～30歳代が54.1%、男性の20歳代～30歳代が48.8%と他の性別年代層よりかなり割合が高く、子育て世代の意向が強いことがうかがえる。

特に、女性の20歳代～30歳代では全体で最も割合が高かった“保育サービスの充実”よりも1.9ポイントも高く、最も高い割合となっている。

図5-11 男女年代別にみた子育て支援に関する意向



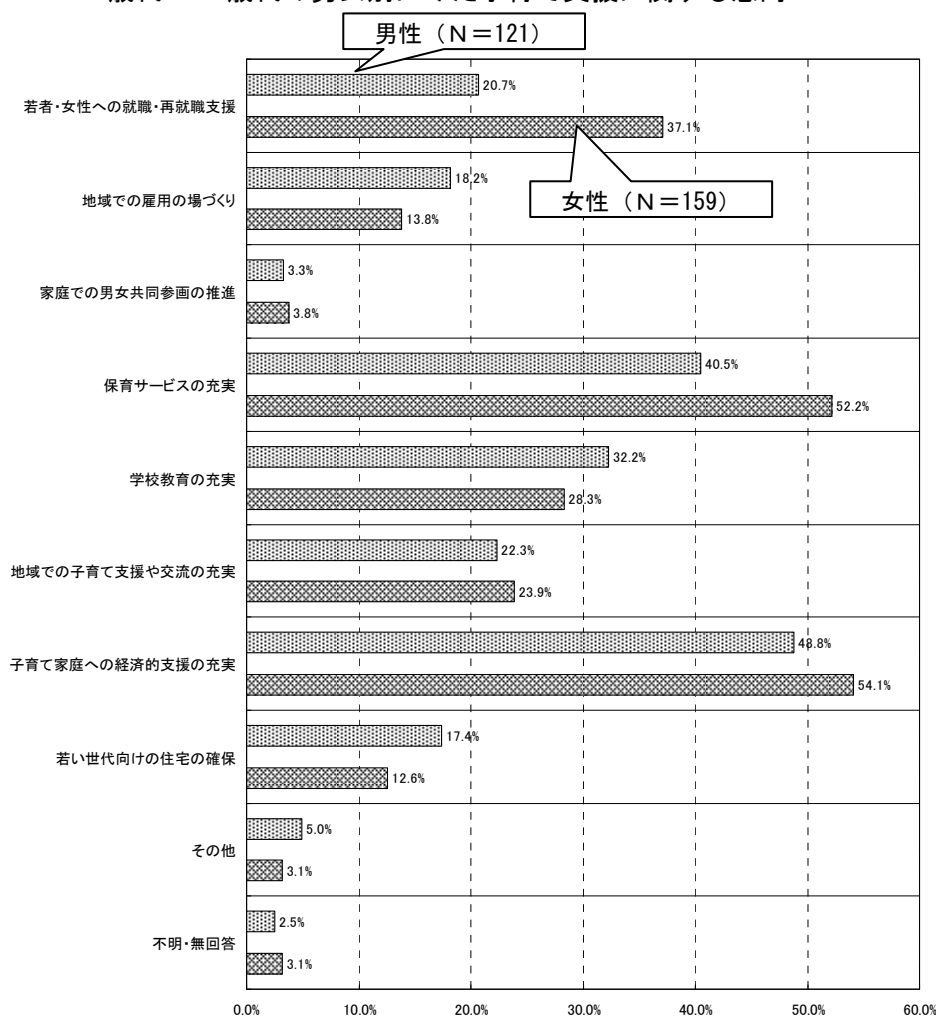
また、子育ての中心世代である 20 歳代～30 歳代の男女別の子育て支援に関する意向をみると、女性では、“子育て家庭への経済的支援の充実”が回答者の 54.1%を占め、最も割合が高く、次いで、“保育サービスの充実”が 52.2%、“若者・女性への就職・再就職支援”が 37.1%、“学校教育の充実”が 28.3%、“地域での子育て支援や交流の充実”が 23.9%となっている。

男性では、“子育て家庭への経済的支援の充実”が回答者の 48.8%を占め、最も割合が高く、次いで、“保育サービスの充実”が 40.5%、“学校教育の充実”が 32.2%、“地域での子育て支援や交流の充実”が 22.3%、“若者・女性への就職・再就職支援”が 20.7%となっている。

以上のように、“子育て家庭への経済的支援の充実”や“保育サービスの充実”については、男女ともに同じ順位であるが、次に女性では“若者・女性への就職・再就職支援”、男性では“学校教育の充実”など男性と女性の意向の差異がみられる。

また、“子育て家庭への経済的支援の充実”や“保育サービスの充実”については、女性がそれぞれ 54.1%、52.2%であるのに対し、男性では 48.8%、40.5%とそれぞれ 5.3 ポイント、11.7 ポイント男性と比較して高い割合になっており、女性の意向が強い。

図 5-12 20 歳代～30 歳代の男女別にみた子育て支援に関する意向



## 第6章 市民と行政の協働のまちづくりに向けて

### 6-1. 市民活動への参加状況

アンケート対象者の地域や市民活動（自治会の活動やボランティア活動など）への参加状況については、“今、参加している”が22.6%、“今は参加していないが、今後参加したい”が27.7%、“今も参加しておらず、今後も参加したいと思わない”が17.2%、“わからない”が27.2%となっている。

“今、参加している”と“今は参加していないが、今後参加したい”を合わせ、地域や市民活動へ参加の経験や意向を有する回答者は全体の50.3%と約半数を占めている。

男女別に地域や市民活動への参加状況を見ると、“今、参加している”は男性が23.3%、女性が21.8%、“今は参加していないが、今後参加したい”は、男性が26.8%、女性が28.6%となっており、両者を合わせると男性が50.1%、女性が50.4%となり、いずれも“今も参加しておらず、今後も参加したいと思わない”の20.4%、14.6%を大きく上回っている。

男女年代別にみると、男性も女性も“今、参加している”は20歳代～30歳代では10%前後、40歳代～50歳代では20%前後、60歳代以上では30%前後となり、年齢が高齢化するほど地域や市民活動への参加状況が高まる傾向にある。

また、“今は参加していないが、今後参加したい”は、女性の20歳代～30歳代、男性の40歳代～50歳代、60歳代以上の男性及び女性で30%前後を占める一方、男性の20歳代～30歳代では19.8%と少なくなっている。また、男性の20歳代～30歳代では、“今も参加しておらず、今後も参加したいと思わない”が32.2%を占め、他の性別年代層よりも約10ポイント高くなっている。

図6-1 地域や市民活動への参加状況

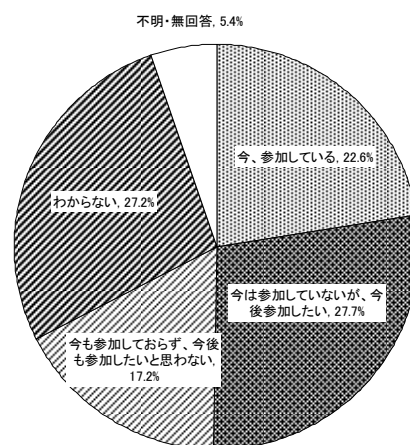
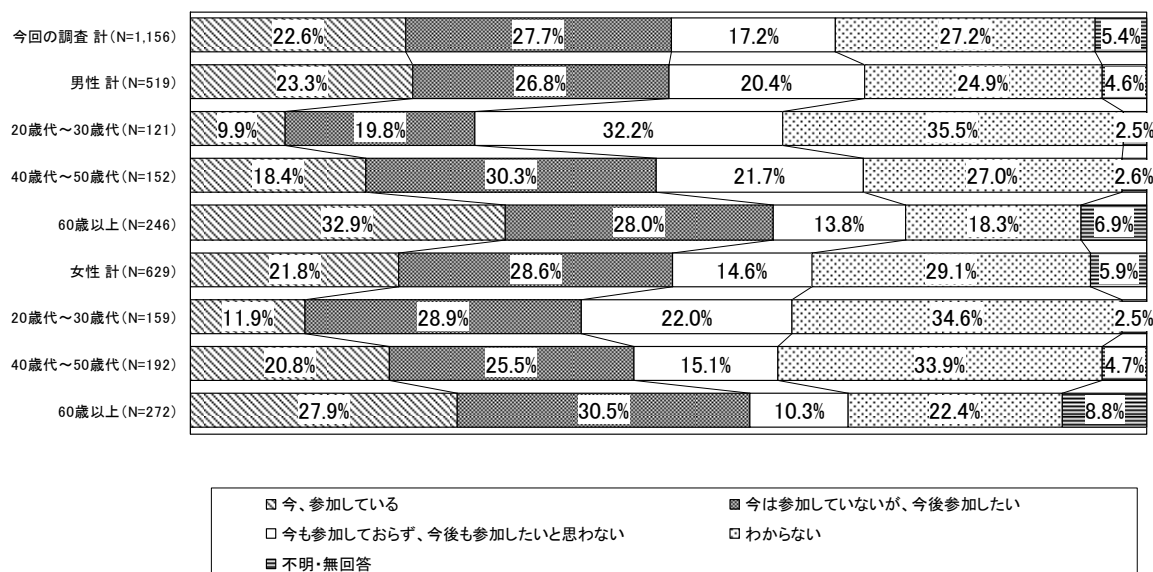


図6-2 男女年代別にみた地域や市民活動への参加状況



地域別に地域や市民活動への参加状況をみると、“今、参加している”は、北部地域が21.0%、南部地域が24.4%となっており、南部地域で少し割合が高くなっている。

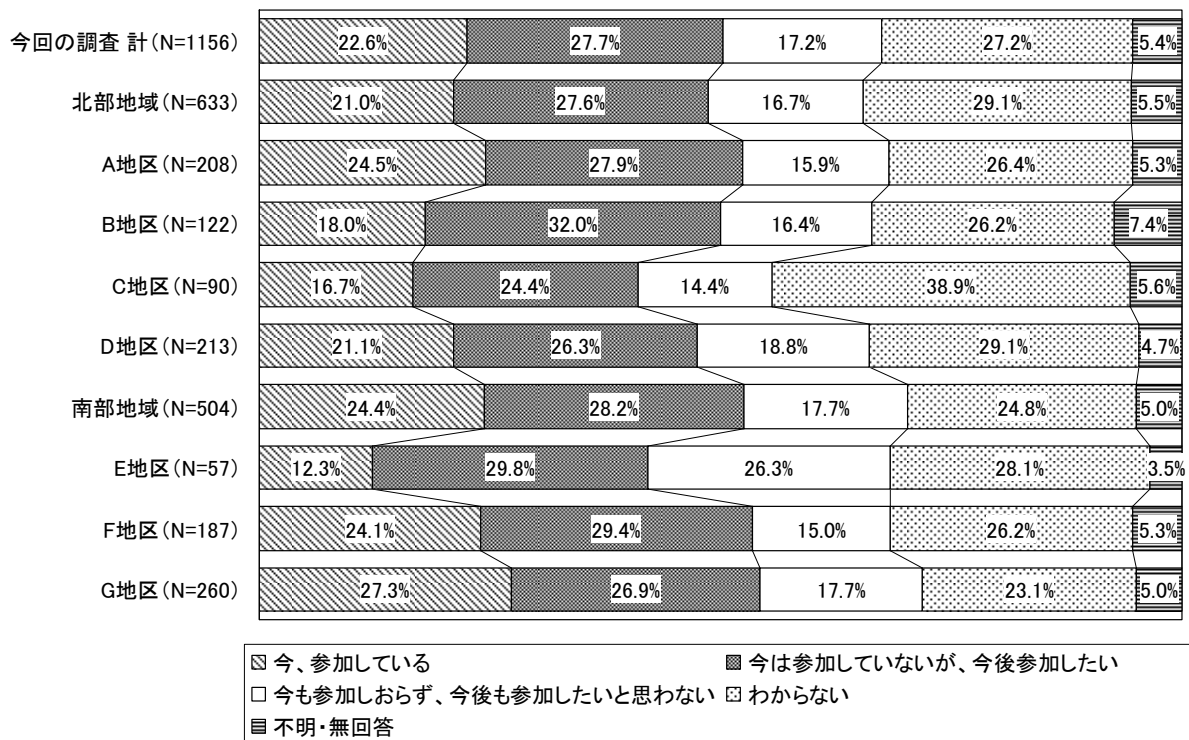
“今は参加していないが、今後参加したい”は、北部地域が27.6%、南部地域が28.2%となっており、南部地域の方で少し割合が高くなっている。

“今、参加している”及び“今は参加していないが、今後参加したい”を合わせると、北部地域が48.6%、南部地域が52.6%となっており、南部地域では北部地域に比較して4.0ポイント高くなっている。

地区別にみると、“今、参加している”は、G地区が27.3%と最も割合が高く、次いでA地区の24.5%、F地区の24.1%となっている。

“今、参加している”及び“今は参加していないが、今後参加したい”を合わせて割合の高い順にみると、G地区の54.2%、F地区の53.5%、A地区の52.4%となり、一方、これら両者を合わせた割合が低い地区は、C地区の41.1%、E地区の42.1%となっており、地域や市民活動への参加意欲が高い地区と比較して10ポイント以上低くなっている。

図6-3 地域や地区別にみた地域や市民活動への参加状況



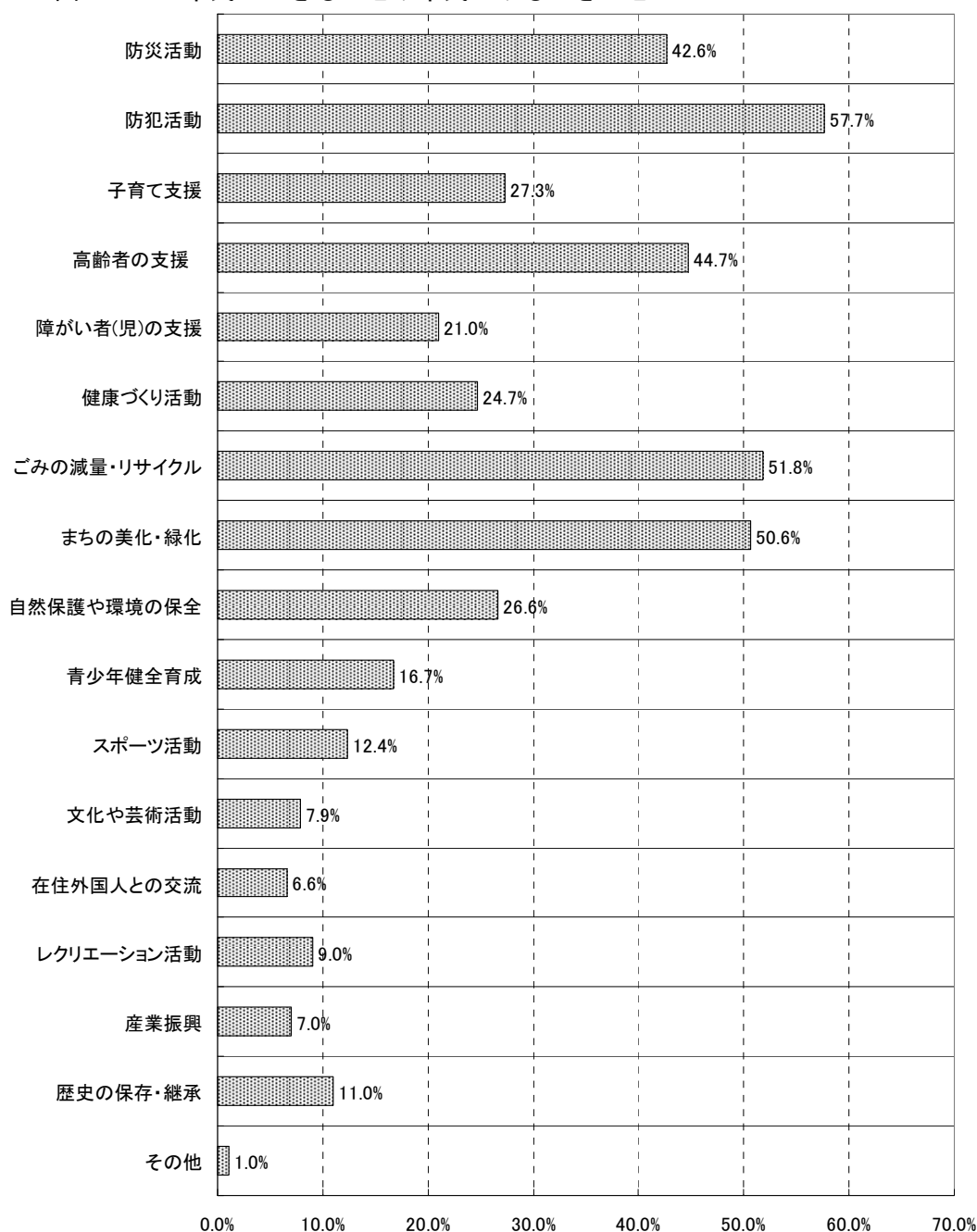
## 6-2. 市民ができること、市民が行うべきこと

市民ができることや市民がやるべきことについては、“防犯活動”が57.7%と最も高く、次いで“ごみの減量・リサイクル”が51.8%、“まちの美化・緑化”が50.6%となっており、これらは半数以上の回答者が“市民ができること”や“市民がやるべきこと”としている。

次いで、“高齢者の支援”が44.7%、“防災活動”が42.6%、“子育て支援”が27.3%と続いている。

一方、市民ができることや市民がやるべきことについて回答者の割合が10%以下の項目をみると、“在住外国人との交流”(6.6%)、“産業振興”(7.0%)、“文化や芸術活動”(7.9%)、“レクリエーション活動”(9.0%)となっている。

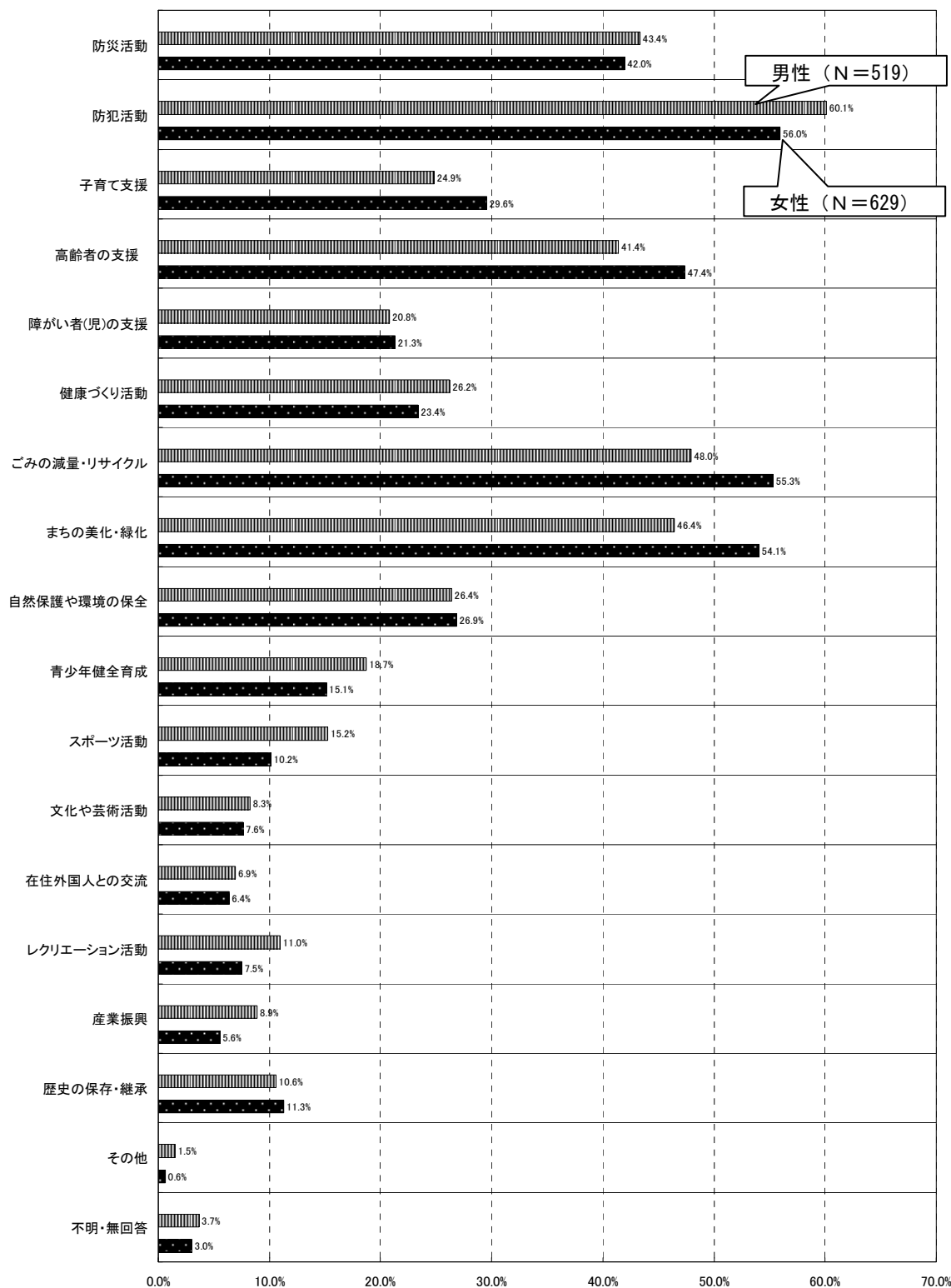
図6-4 市民ができることや市民がやるべきこと





なお、男女別に市民ができることや市民がやるべきことについてみると、“防犯活動”や“防災活動”については女性より男性の方の割合が高く、一方、“ごみの減量・リサイクル”、“まちの美化・緑化”、“高齢者の支援”、“子育て支援”については、男性より女性の方の割合が高くなっている。

図 6-4 男女別にみた市民ができることや市民がやるべきこと



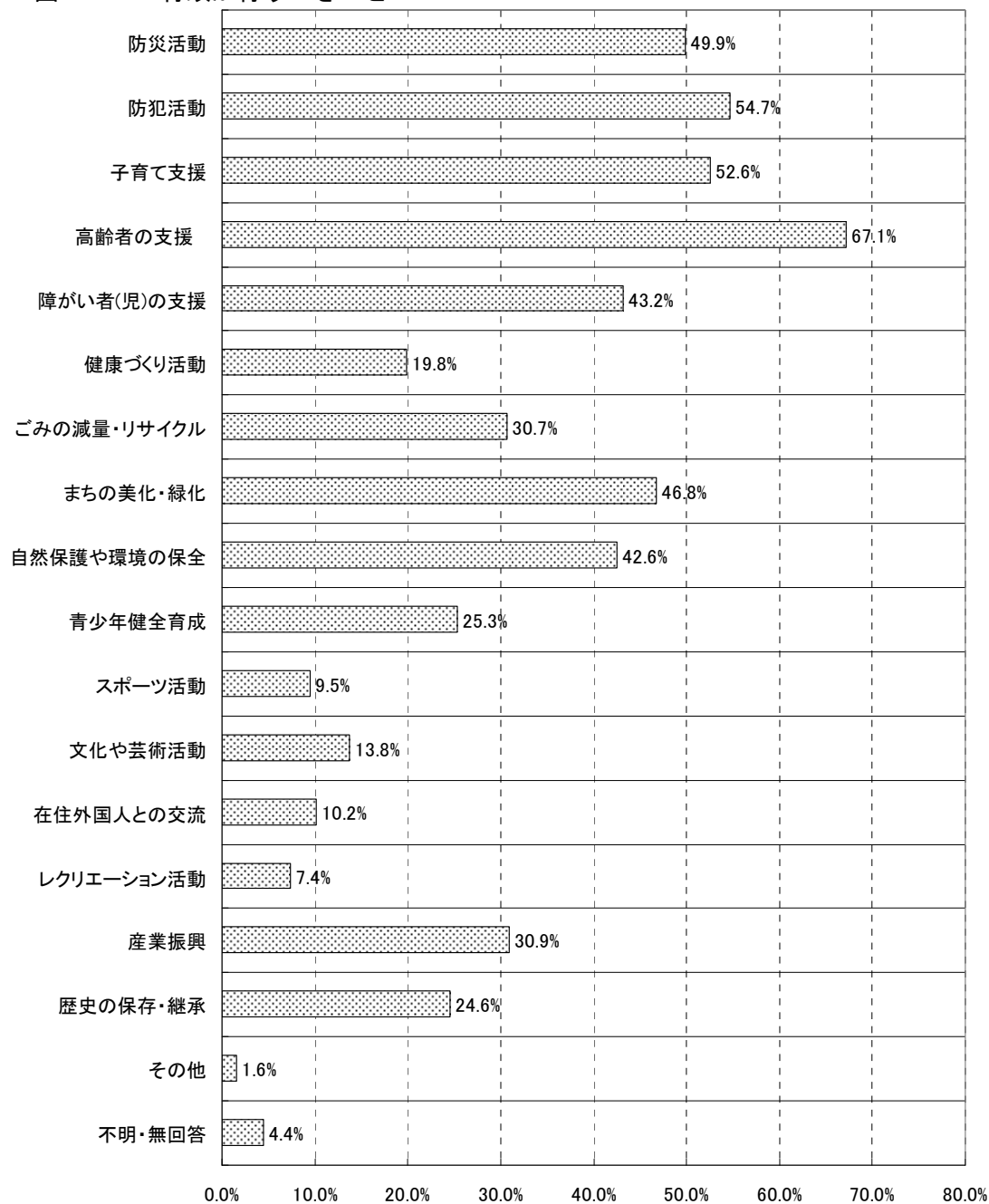
### 6-3. 行政が行うべきこと

行政が行うべきことについては、“高齢者の支援”が67.1%と最も高く、次いで“防犯活動”が54.7%、“子育て支援”が52.6%となっており、これらは半数以上の回答者が“行政が行うべきこと”としている。

次いで、“防災活動”が49.9%、“まちの美化・緑化”が46.8%、“障がい者(児)の支援”が43.2%と続いている。

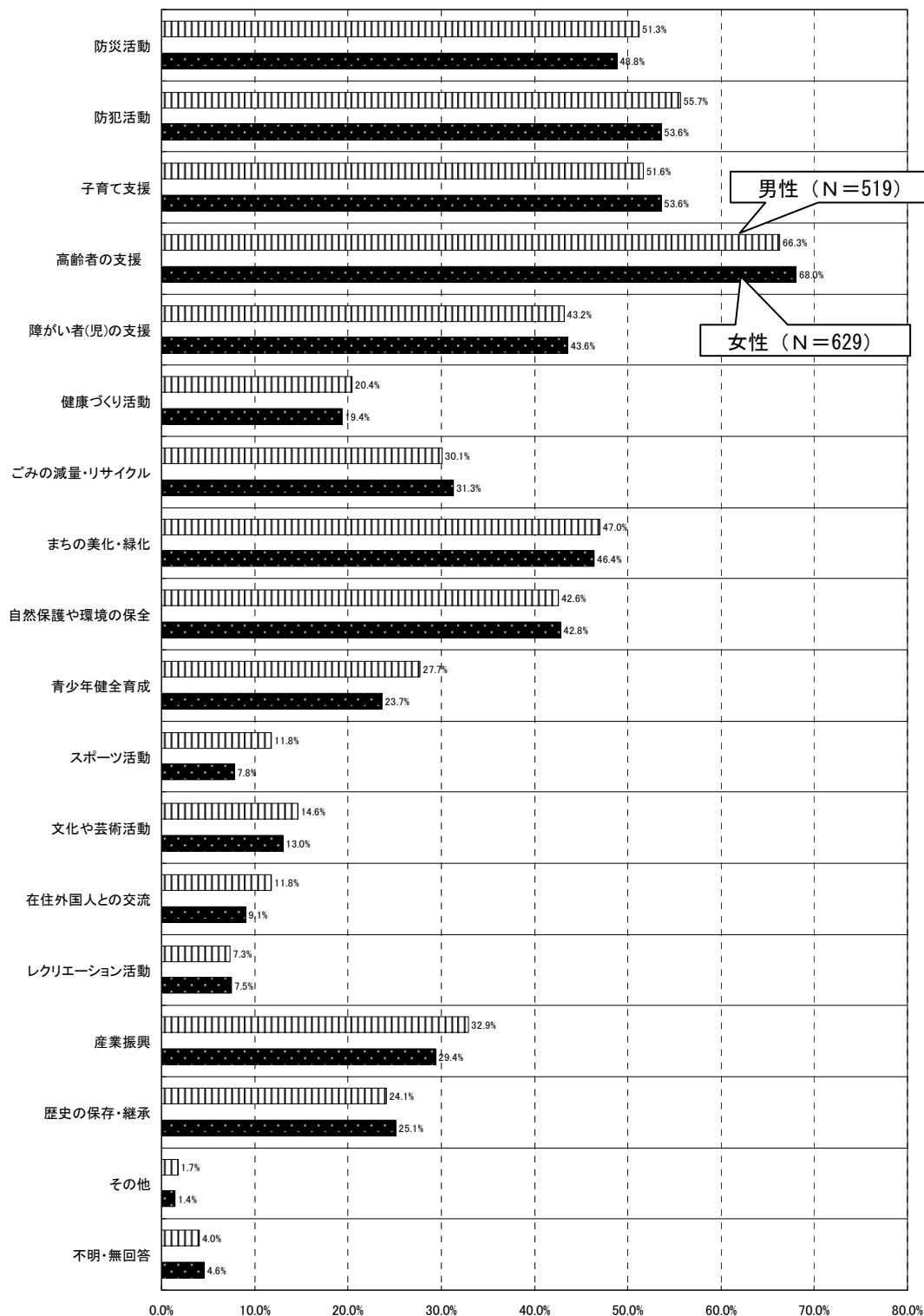
一方、行政が行うべきことについて回答者の割合が10%以下の項目をみると、“レクリエーション活動”(7.4%)、“スポーツ活動”(9.5%)となっている。

図6-5 行政が行うべきこと



なお、男女別に行政が行うべきことについてみると、概ね同じような傾向にあり、“防犯活動”や“防災活動”については女性より男性の方の割合が高く、一方、“高齢者の支援”、“子育て支援”“ごみの減量・リサイクル”などは、男性より女性の方の割合が高くなっている。

図6-6 男女別にみた行政が行うべきこと



### 6-4. 門真市における協働の取り組みの状況

市民と行政が協力してまちづくりに取り組んでいるか、協働の取り組み状況については、“取り組んでいる”とする回答者は1.1%と僅かであり、“まあまあ取り組んでいる”が12.3%となっている。

これら“取り組んでいる”及び“まあまあ取り組んでいる”を合わせると13.4%となっている。

一方、これに対し“あまり取り組めていない”が20.5%、“全く取り組めていない”が6.4%となっており、“あまり取り組めていない”及び“全く取り組めていない”を合わせると26.9%となり、取り組んでいるとする回答者の倍となっている。

また、“わからない”とする回答者も24.3%を占め、本市において市民と行政の協働の取り組みについての認知状況や評価は低い状況である。

男女別にみると、男性及び女性の全体では、男性が女性よりも“全く取り組めていない”や“あまり取り組めていない”の割合が高くなっている以外は、同じような傾向にある。

男女年代別では、男性も女性も年代層が高くなるにしたがい“取り組んでいる”及び“まあまあ取り組んでいる”とする割合が高くなり、“全く取り組めていない”や“あまり取り組めていない”の割合が低くなる傾向にある。高齢者ほど市民と行政の協働の取り組みについて評価が高くなっている。

図6-6 市民と行政の協働の取り組みの状況

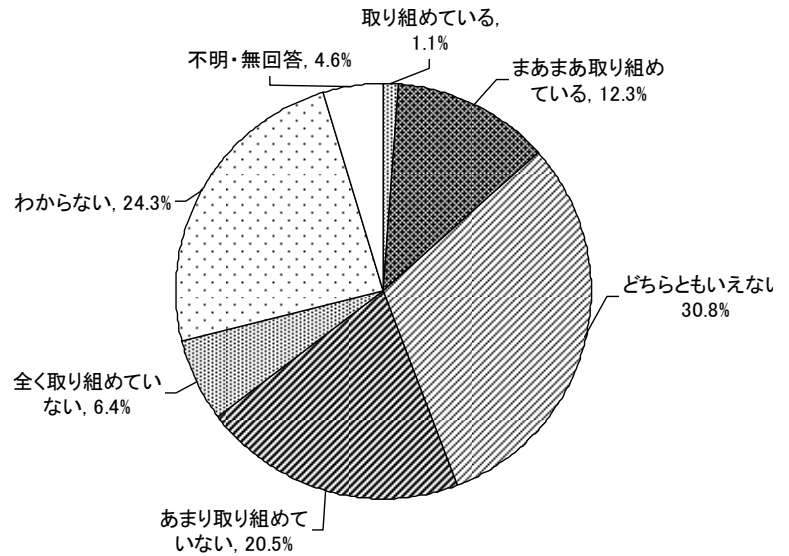
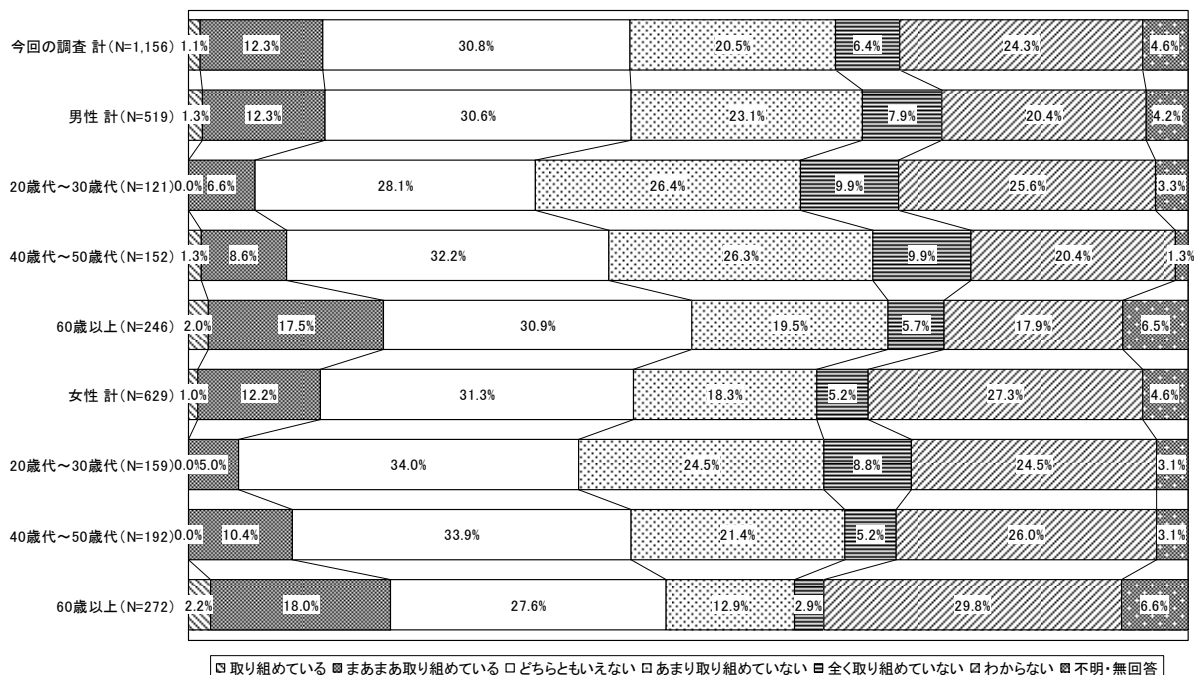


図6-7 男女年代別にみた市民と行政の協働の取り組みの状況

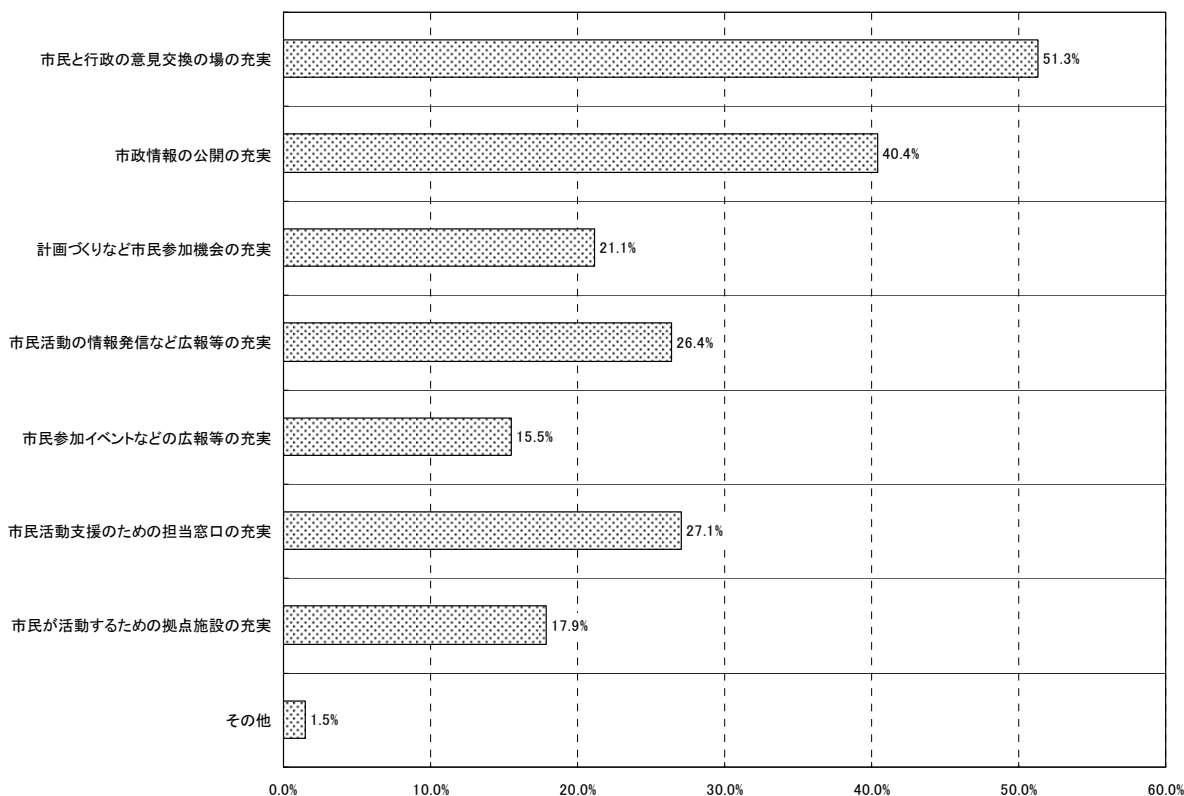


## 6-5. 市民と行政の協働の取り組みに向けて必要なこと

市民と行政が協力してまちづくりを行ううえで必要と思われることについては、“市民と行政の意見交換の場の充実”が回答者の51.3%を占め、最も必要であるとしている。

次いで、“市政情報の公開の充実”が40.4%、“市民活動支援のための担当窓口の充実”が27.1%、“市民活動の情報発信など広報等の充実”が26.4%となっている。

図6-8 市民と行政の協働の取り組みに必要なこと

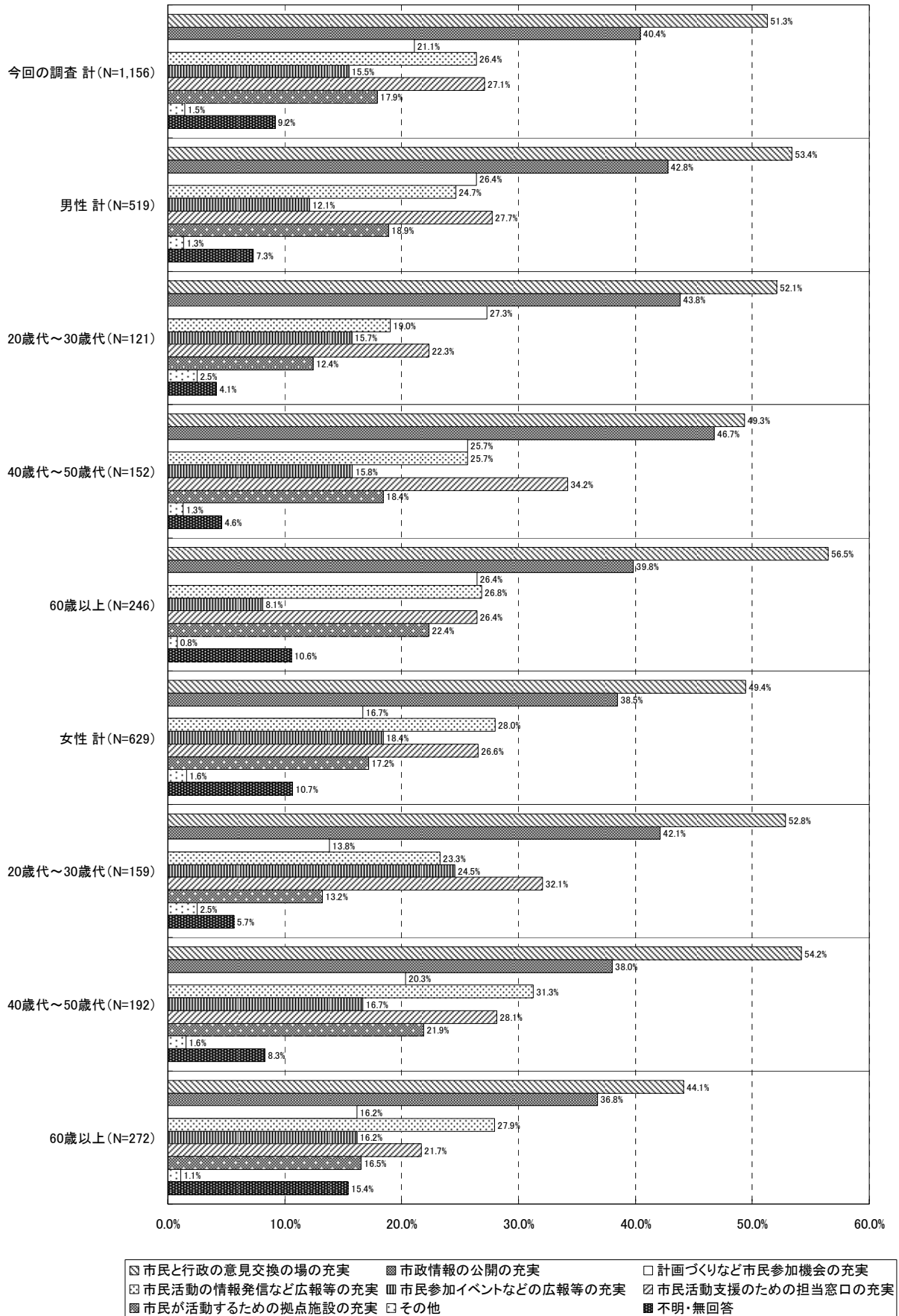


男女別にみると、図6-8に示すように、男性全体では“市民と行政の意見交換の場の充実”が回答者の53.4%を占め、次いで、“市政情報の公開の充実”が42.8%、“市民活動支援のための担当窓口の充実”が27.7%、“計画づくりなど市民参加機会の充実”が26.4%となっている。

女性全体では、“市民と行政の意見交換の場の充実”が回答者の49.4%を占め、次いで、“市政情報の公開の充実”が38.5%、“市民活動の情報発信など広報等の充実”が28.0%、“市民活動支援のための担当窓口の充実”が26.6%となっている。

男女年代別では、割合に差はあるものの一番目に“市民と行政の意見交換の場の充実”、二番目に“市政情報の公開の充実”となっている。三番目については、それぞれの性別年代層で異なり、男性の20歳代～30歳代では“計画づくりなど市民参加機会の充実”、男性の40歳代～50歳代では“市民活動支援のための担当窓口の充実”、男性の60歳代以上では“市民活動の情報発信など広報等の充実”、女性の20歳代～30歳代では“市民活動支援のための担当窓口の充実”、女性の40歳代～50歳代では“市民活動の情報発信など広報等の充実”、女性の60歳代以上では“市民活動の情報発信など広報等の充実”となっている。

図 6-8 男女年代別にみた市民と行政の協働の取り組みに必要なこと



## 第7章 門真市のイメージについて

### 7-1. 門真市の現在のイメージ

本市がどのようなことで他地域の人に知られているかについて、“家電メーカーを中心とした産業のまち”が32.4%と最も割合が高く、次いで“大阪府自動車試験場があるまち”が30.3%、“木造アパートや文化住宅が密集したまち”が16.2%となっている。

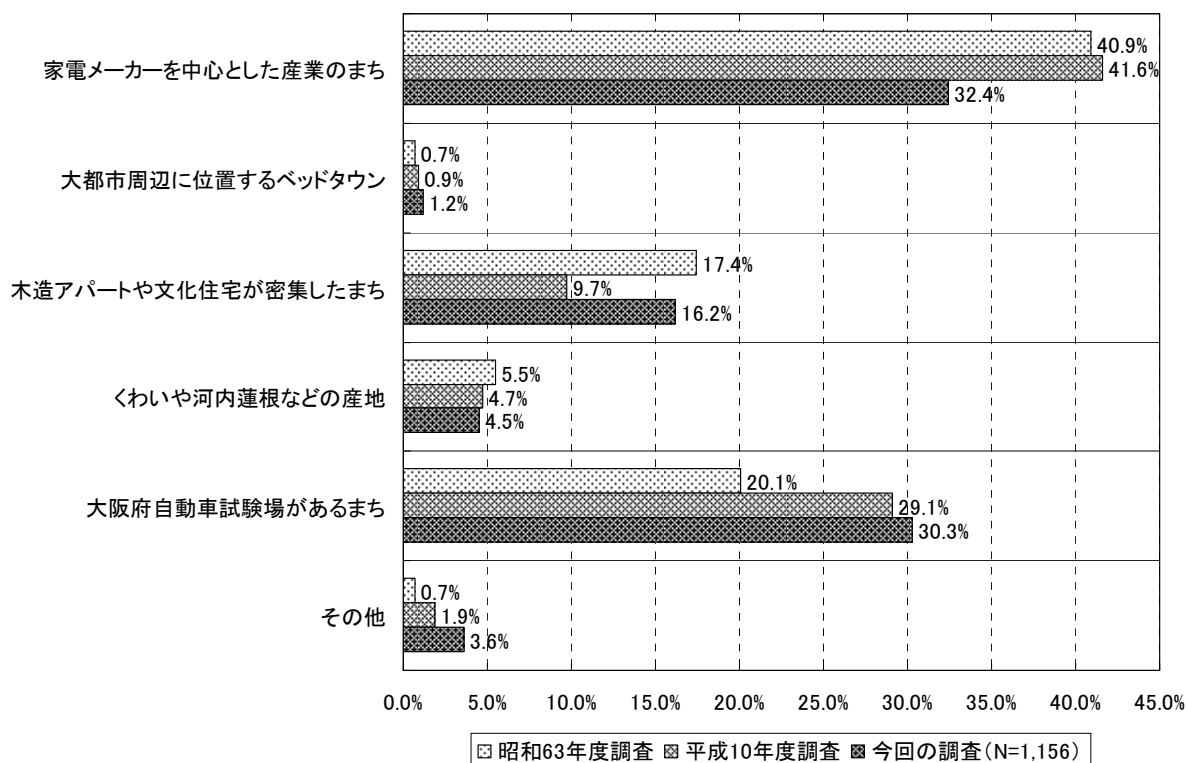
“くわいや河内蓮根などの産地”や“大都市周辺に位置するベッドタウン”は、それぞれ4.5%、1.2%と僅かの割合となっている。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“家電メーカーを中心とした産業のまち”は、これまでの調査と同様に最も高い割合にはなっているが、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）の41.6%から9.2ポイント減少し、大幅に割合が減少している。

“大阪府自動車試験場があるまち”は、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）から1.2ポイント増加している。

“木造アパートや文化住宅が密集したまち”は、前々回（第3次総合計画策定時＜昭和63年度調査＞）から前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）で7.7ポイント減少したが、今回の調査では、前回（第4次総合計画策定時＜平成10年度調査＞）から6.5ポイント増加し、前々回（第3次総合計画策定時＜昭和63年度調査＞）と同じような割合となっている。

図7-1 門真市の他地域からの認知イメージ（過年度調査結果との比較）

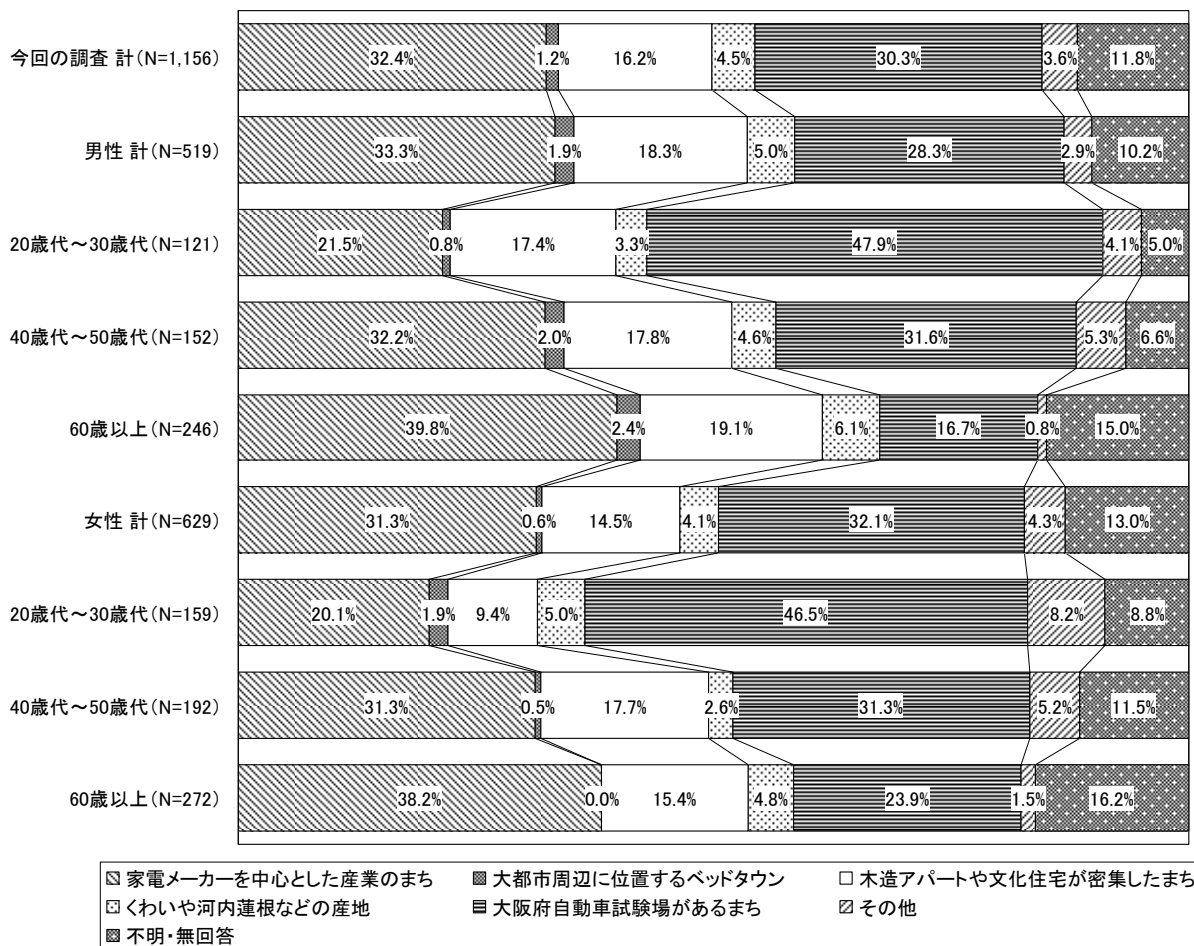


男女年代別にみると、“家電メーカーを中心とした産業のまち”は、男性も女性も年代層が高くなるにしたがい割合が高くなり、20歳代～30歳代では20%強、40歳代～50歳代では30%強、60歳代以上では40%弱となっている。

一方、“大阪府自動車試験場があるまち”は、男性も女性も年代層が低くなるにしたがい割合が高くなり、20歳代～30歳代では50%弱、40歳代～50歳代では30%強、60歳代以上では20%前後となっている。20歳代～30歳代では“家電メーカーを中心とした産業のまち”よりも高い割合となっており、他地域からの認知イメージの最も高い割合が“大阪府自動車試験場があるまち”となっている。

この結果から、若い世代では、“大阪府自動車試験場があるまち”が、高年齢層では“家電メーカーを中心とした産業のまち”が本市の認知イメージ要因として捉えられている。

図7-2 男女年代別にみた門真市の他地域からの認知イメージ





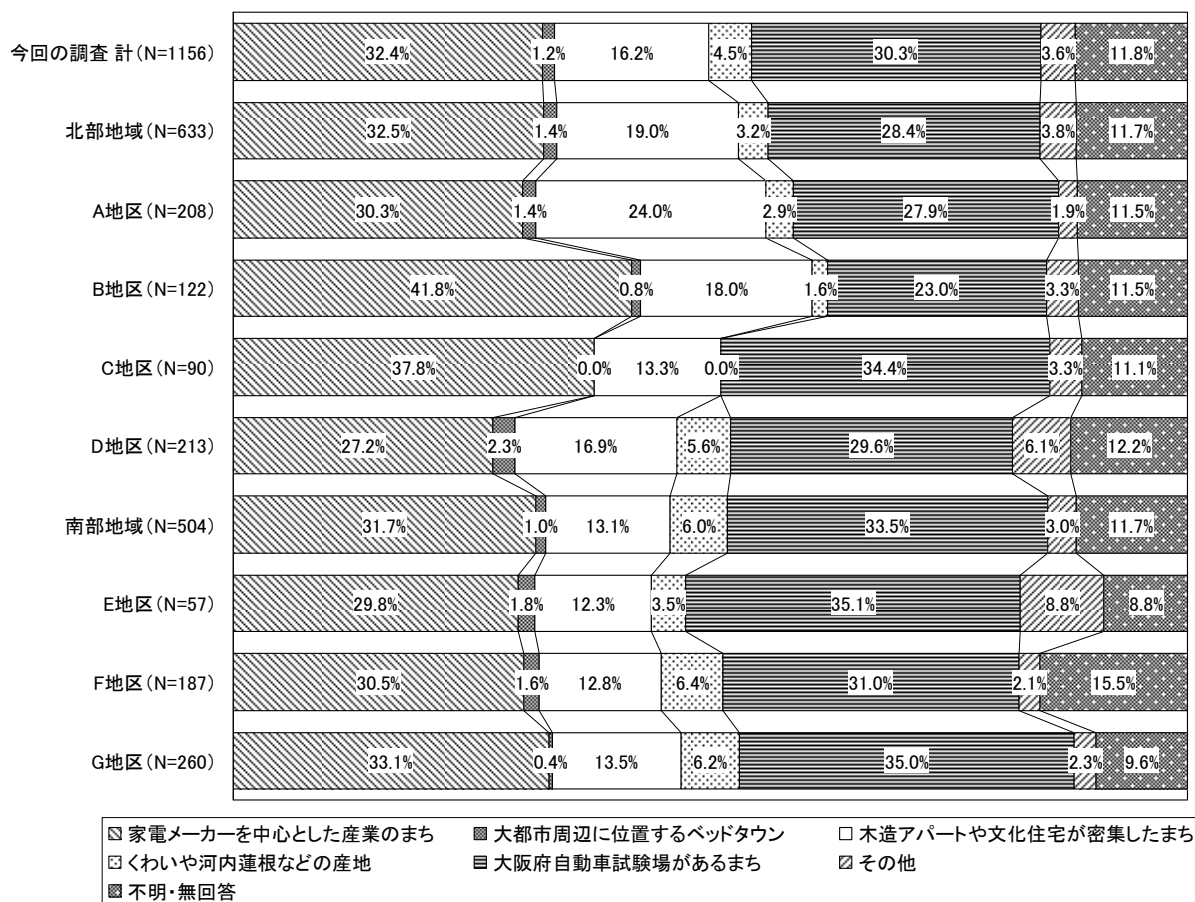
また、地域別にみると、北部地域では、“家電メーカーを中心とした産業のまち”が32.5%と最も高い割合になっており、次いで“大阪府自動車試験場があるまち”が28.4%となっている。

一方、南部地域では、“大阪府自動車試験場があるまち”が33.5%と最も高い割合になっており、次いで“家電メーカーを中心とした産業のまち”が31.7%となっている。

“家電メーカーを中心とした産業のまち”が最も高い割合の地区はB地区で41.8%を占めている。

“大阪府自動車試験場があるまち”が高い割合の地区はE地区及びG地区でそれぞれ35.1%、35.0%を占めている。

図7-3 回答者の居住地域や地区別にみた門真市の他地域からの認知イメージ

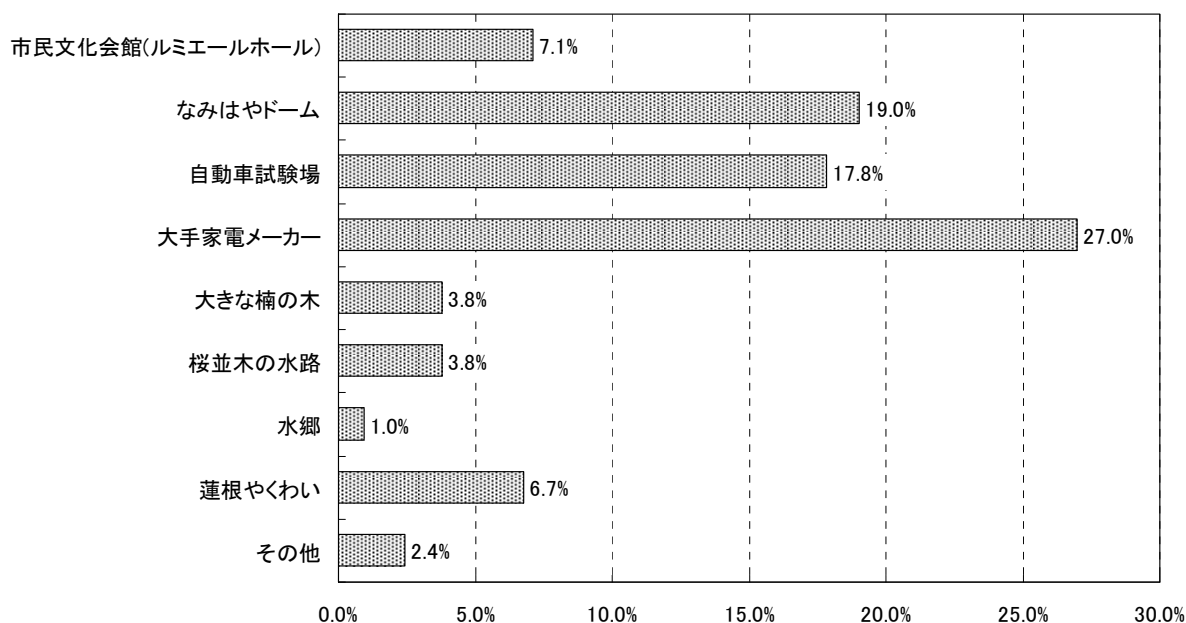


## 7-2. 門真市のシンボルや誇り

本市のシンボルや誇りに思えるものについては、“大手家電メーカー”が27.0%と最も高い割合になっており、次いで“なみはやドーム”が19.0%、“自動車試験場”が17.8%、“市民文化会館（ルミエールホール）”が7.1%、“蓮根やくわい”が6.7%、“大きな楠の木”及び“桜並木の水路”が3.8%、“水郷”が1.0%となっている。

以上のように市民がシンボルや誇りに思っているものは、主に大手家電メーカー”や“なみはやドーム”、“自動車試験場”であるといえる。

図7-4 門真市のシンボルや誇りに思えるもの



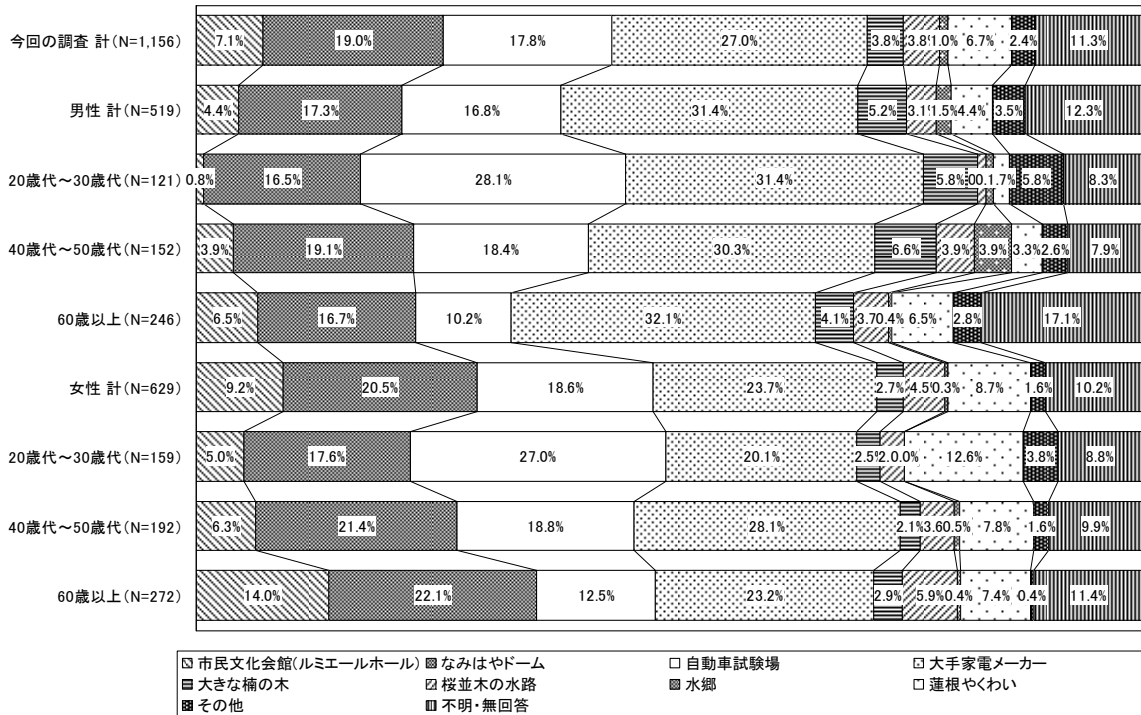
男女年代別にみると、図7-5に示すように、“大手家電メーカー”については、いずれの年代も男性の方が割合が高く、相対的に男性の方がシンボルや誇りに思っている割合が高い。

“なみはやドーム”については、いずれの年代も女性の方が割合が高く、相対的に女性の方がシンボルや誇りに思っている割合が高い。

“自動車試験場”については、男女ともに年代が低くなるにしたがいシンボルや誇りに思う割合が高くなっている。

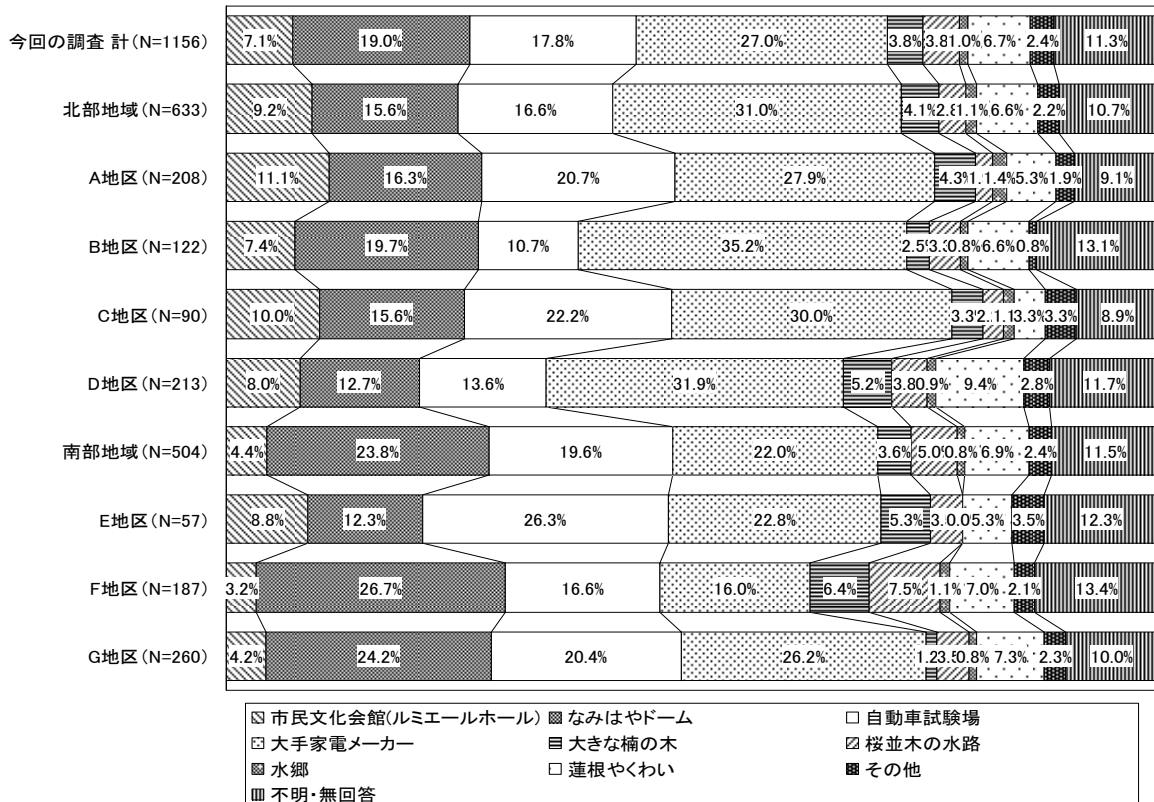
逆に“市民文化会館（ルミエールホール）”については、男女ともに年代が高くなるにしたがいシンボルや誇りに思う割合が高くなっている。

図7-5 男女年代別にみた門真市のシンボルや誇りに思えるもの



地域や地区別にみると、“大手家電メーカー”や“市民文化会館（ルミエールホール）”については北部地域が、“なみはやドーム”や“自動車試験場”については南部地域が、相対的に割合が高くなっている。

図7-6 回答者の居住地や地区別にみた門真市のシンボルや誇りに思えるもの



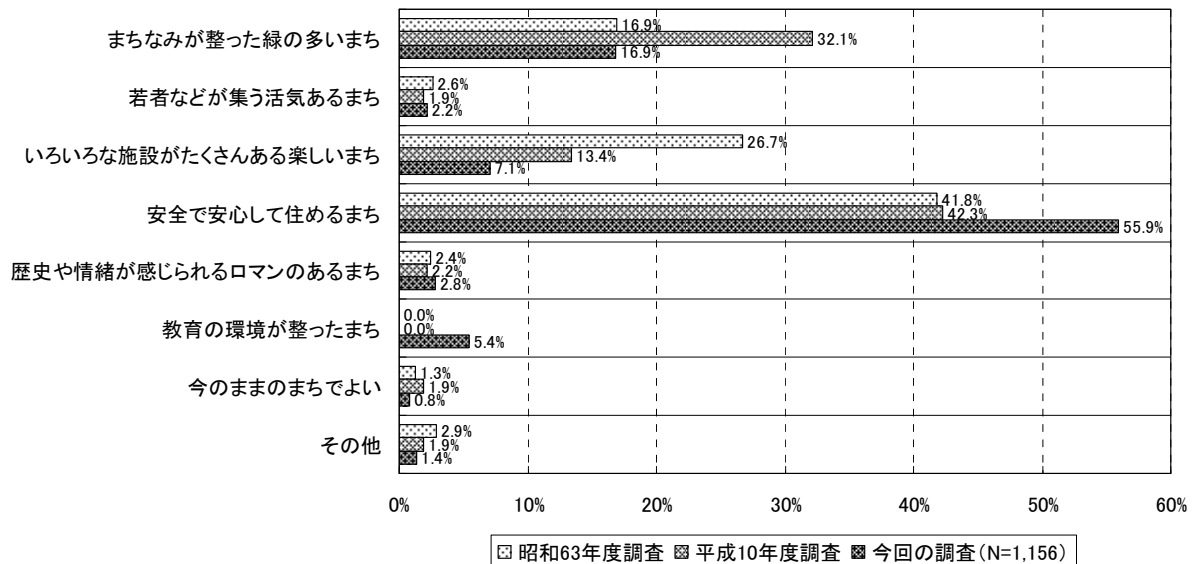
### 7-3. 将来に望む門真市のイメージ

市民が将来に望む門真市のイメージについては、“安全で安心して住めるまち”が55.9%と最も高い割合となっており、次いで“まちなみが整った緑の多いまち”が16.9%、“いろいろな施設がたくさんある楽しいまち”が7.1%、“教育の環境が整ったまち”が5.4%、“歴史や情緒が感じられるロマンのあるまち”が2.8%、“若者などが集う活気あるまち”が2.2%となっており、“今のままのまちでよい”は0.8%である。

また、総合計画の策定に際して以前に行った同様の市民意識調査の結果と比較すると、“安全で安心して住めるまち”は、これまでの調査と同様に最も高い割合にはなっているが、前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）の42.3%から13.6ポイント増加している。

一方、“まちなみが整った緑の多いまち”は、前回（第4次総合計画策定時<平成10年度調査>）から15.2ポイント、“いろいろな施設がたくさんある楽しいまち”が6.3ポイント減少しており、安全や安心を求める市民の切実な思いがより一層強くなってきていることがうかがえる。

図7-7 市民が将来に望む門真市のイメージ

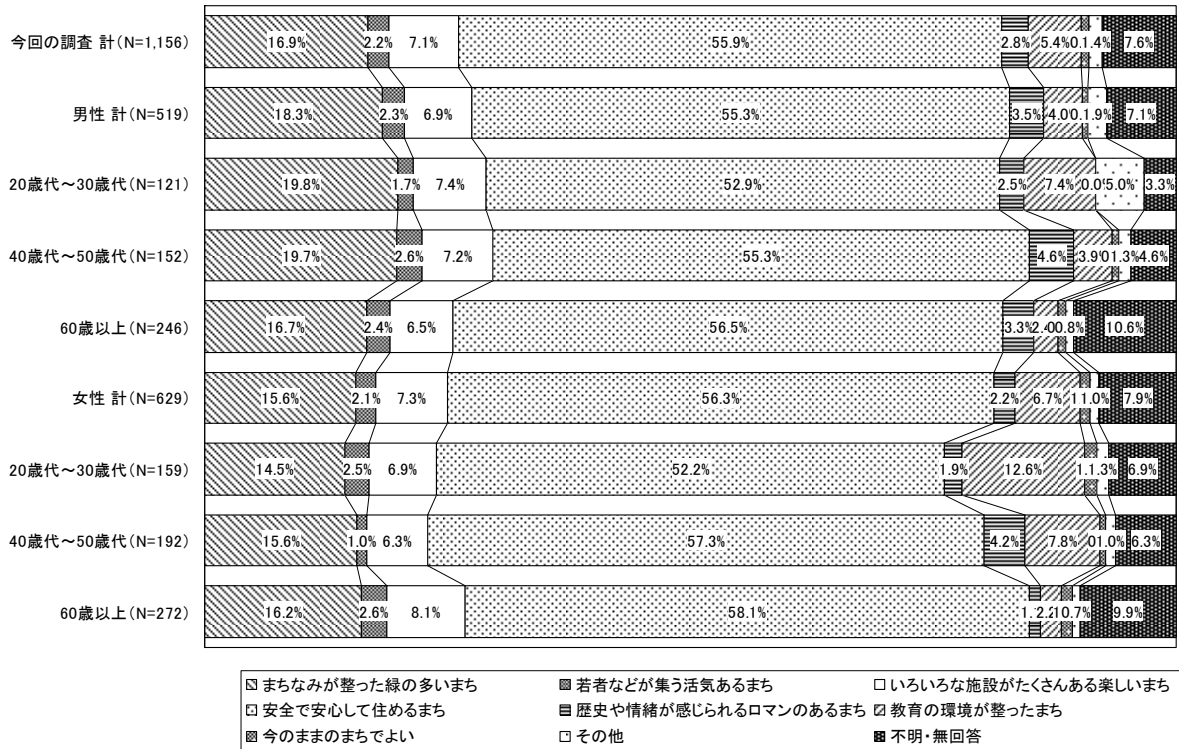


男女年代別に特徴的な傾向をみると、図7-8に示すように、“安全で安心して住めるまち”については、男女ともに年代が高くなるにしたがい僅かであるが割合が高くなる傾向にある。

“まちなみが整った緑の多いまち”については、男性では年代が低くなるにしたがい僅かであるが割合が高くなり、女性では年代が高くなるにしたがい僅かであるが割合が高くなる傾向にある。

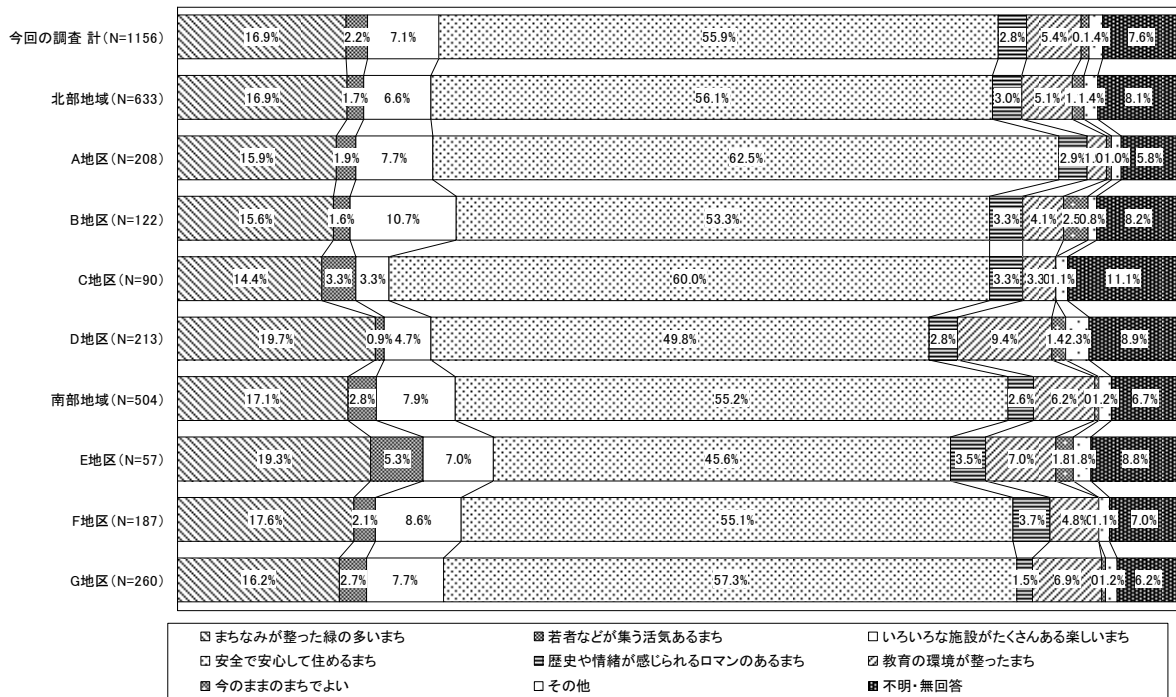
“教育の環境が整ったまち”については、男女ともに年代が低くなるにしたがい割合が高くなる傾向にある。

図 7-8 男女年代別にみた市民が将来に望む門真市のイメージ



北部地域、南部地域とほぼ同じような傾向であるが、地区別には若干差異があり、A地区やC地区では“安全で安心して住めるまち”については60.0%以上となっており、他の地区に比較して安全や安心を求める思いが強いことがうかがえる。

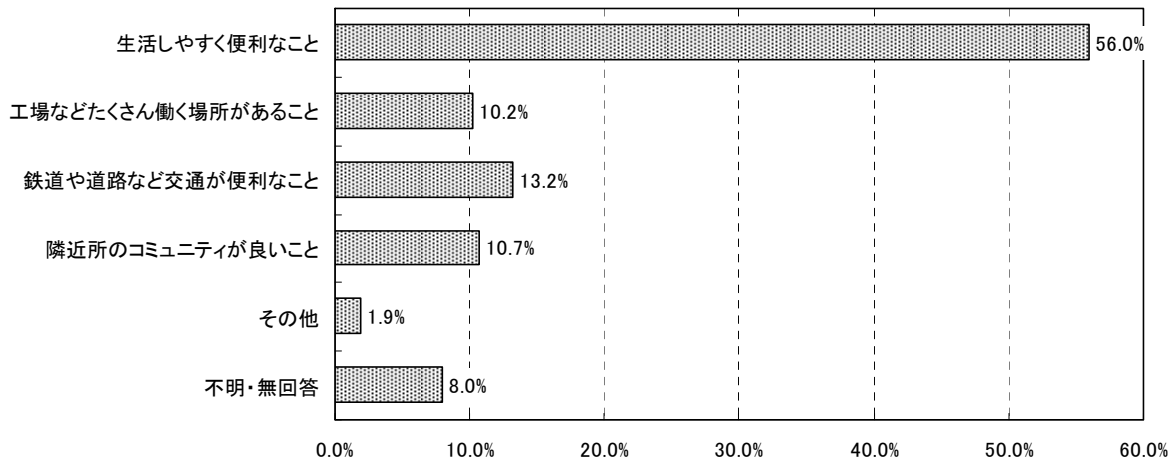
図 7-9 回答者の居住地域や地区別にみた市民が将来に望む門真市のイメージ



## 7-4. まちづくりに活用すべき資源

まちづくりに活用すべき資源については、“生活しやすく便利なこと”が56.0%と最も高い割合となっており、“鉄道や道路など交通が便利なこと”が13.2%、“隣近所のコミュニティが良いこと”が10.7%、“工場などたくさん働く場所があること”が10.2%となっており、圧倒的に“生活しやすく便利なこと”がまちづくりに活用すべき資源として集中している。

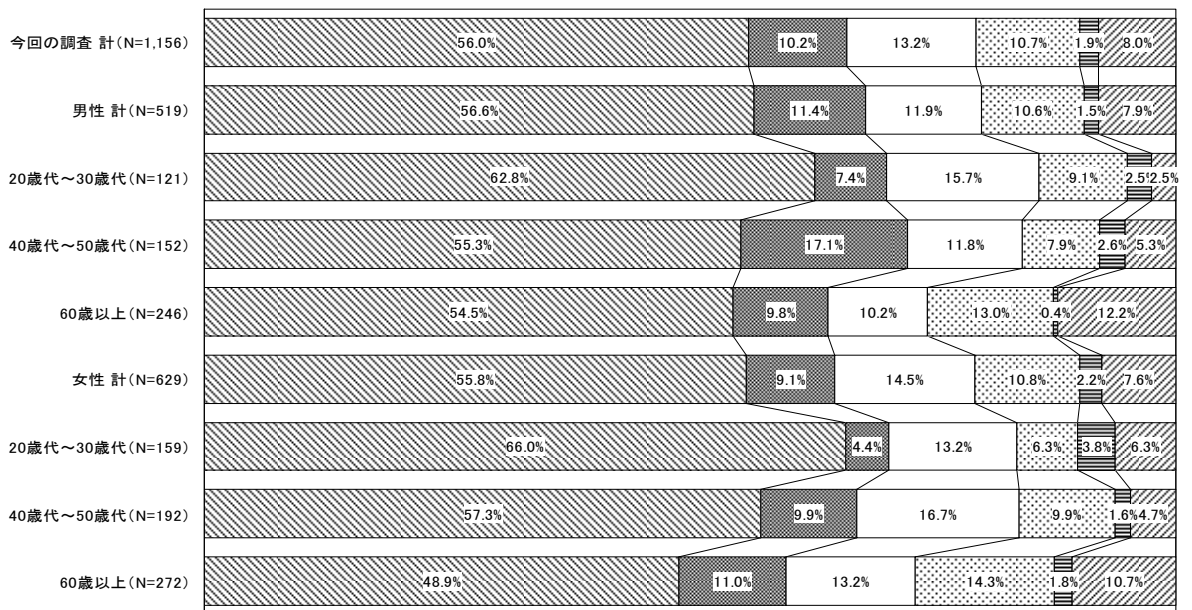
図7-10 まちづくりに活用すべき資源



男女年代別に特徴的な傾向をみると、“生活しやすく便利なこと”については、男女ともに年代が低くなるにしたがい割合が高くなる傾向にある。

男性の40歳代～50歳代では、“工場などたくさん働く場所があること”が17.1%と他の性別年代層と比較して高い割合となっている。また、“隣近所のコミュニティが良いこと”については男女ともに60歳代以上で他の性別年代層と比較して高い割合となっている。

図7-11 男女年代別にみたまちづくりに活用すべき資源



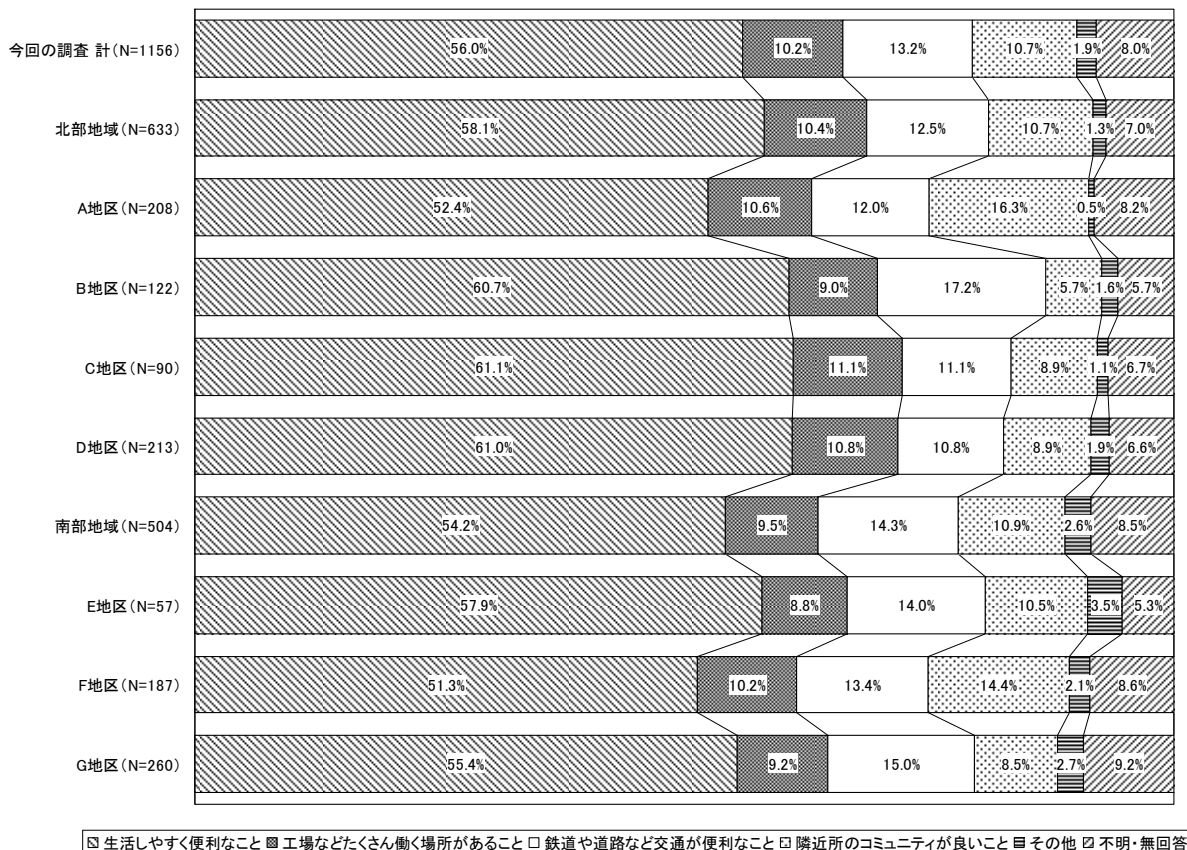
□ 生活しやすく便利なこと ■ 工場などたくさん働く場所があること □ 鉄道や道路など交通が便利なこと □ 隣近所のコミュニティが良いこと □ その他 □ 不明・無回答

地域や地区別に特徴的な傾向をみると、“生活しやすく便利なこと”については、北部地域の方が高い割合になっており、特に、C地区やB地区ではそれぞれ61.1%、60.7%と高い割合になっている。

また、“鉄道や道路など交通が便利なこと”については、B地区を除き南部地域の各地区の方が高い割合となっている。

“隣近所のコミュニティが良いこと”については、A地区が16.3%、F地区が14.4%と他の地区と比較して高い割合となっている。

図7-12 回答者の居住地域や地区別にみたまちづくりに活用すべき資源

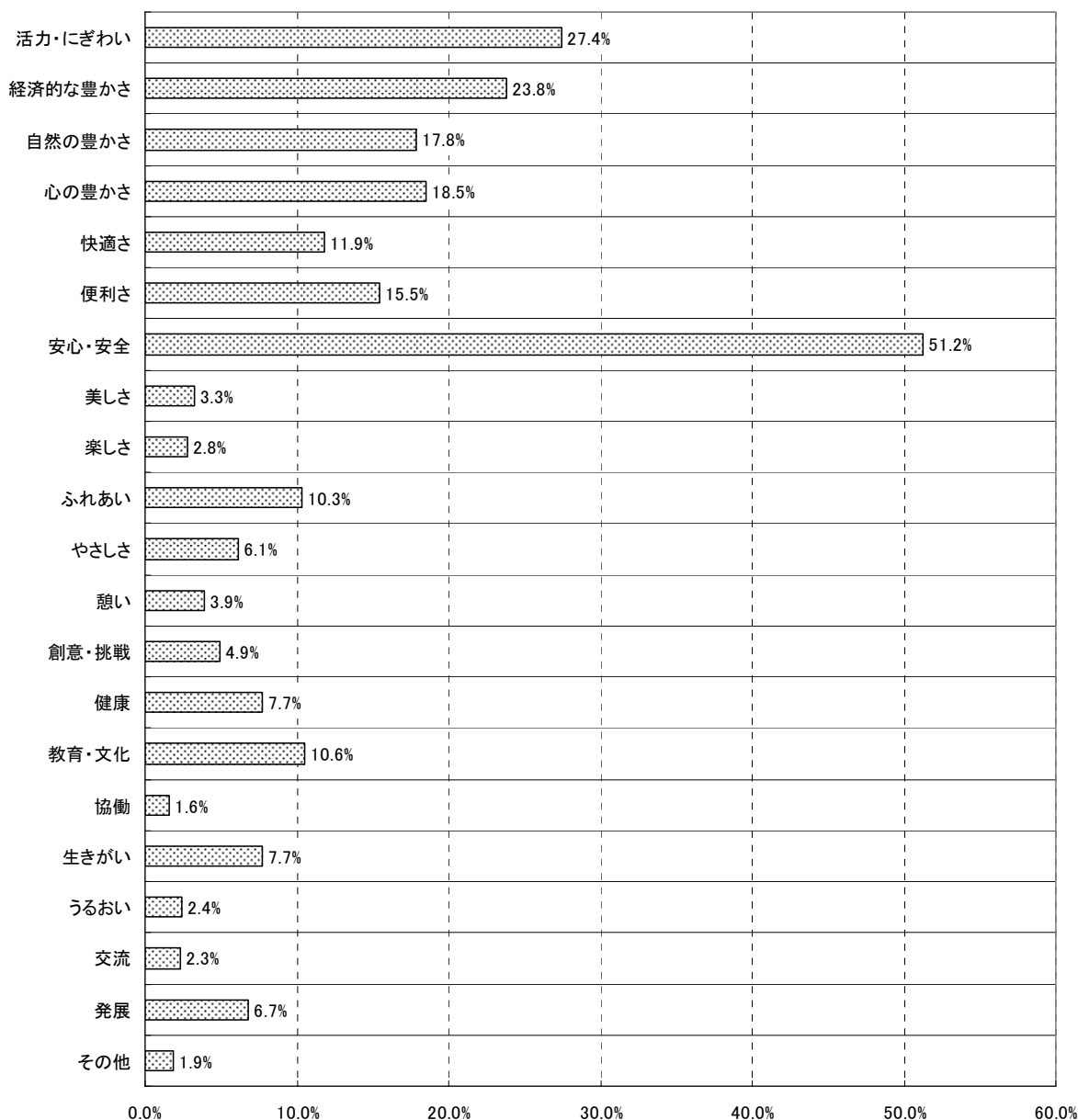


## 7-5. 今後の門真市を表す言葉(キーワード)

今後の本市を表す言葉（キーワード）についてみると、“安心・安全”が51.2%と他の言葉と比較して圧倒的に高い割合となっている。次いで“活力・にぎわい”が27.4%、“経済的な豊かさ”が23.8%と続いている。

この結果にも示されるように、市民が何よりも安心や安全を求めていることがうかがえる。

図7-13 今後の門真市を表す言葉（キーワード）

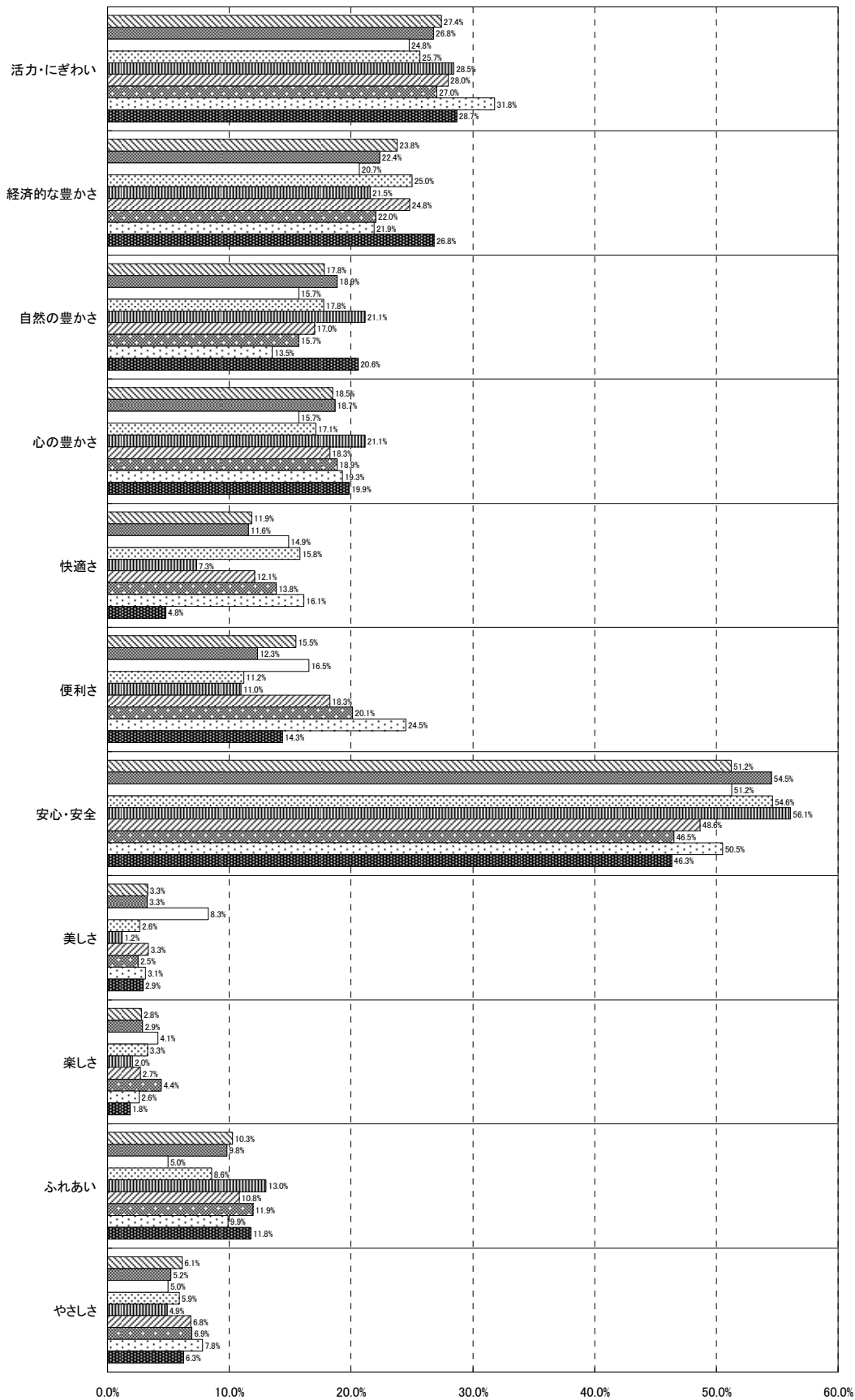


圧倒的に高い割合となっている“安心・安全”について、男女年代別に特徴的な傾向をみると、図7-14（その1）に示すように、男性の方が女性に比較して高い割合となっており、また、男性では年代が高くなるにしたがって割合が高くなる傾向にある。女性では40歳代～50歳代で他の年代層より高い割合となっている。

また、特徴的なこととして、図7-14（その2）に示すように、“教育・文化”で20歳代～30歳代の男性が他の男女年代層よりも高くなっている。



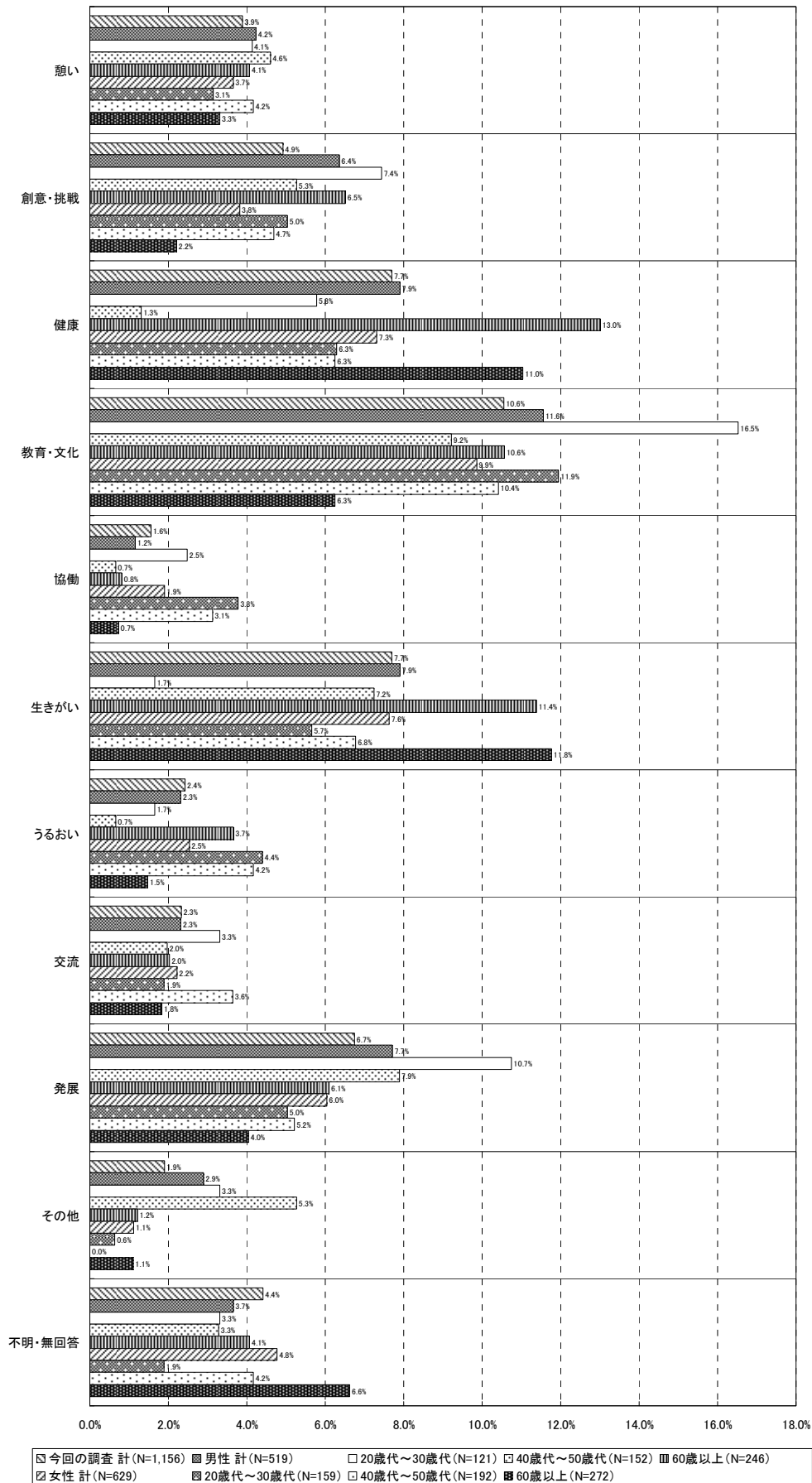
図7-14 男女年代別にみた今後の門真市を表す言葉（キーワード）～その1～



□ 今回の調査計 (N=1,156)  
 ■ 男性計 (N=519)  
 □ 20歳代～30歳代 (N=121)  
 □ 40歳代～50歳代 (N=152)  
 ■ 60歳以上 (N=246)

□ 女性計 (N=629)  
 ■ 20歳代～30歳代 (N=159)  
 □ 40歳代～50歳代 (N=192)  
 ■ 60歳以上 (N=272)

図7-14 男女年代別にみた今後の門真市を表す言葉（キーワード）～その2～



## 第8章 自由意見のまとめ

自由意見については、全回答者 30.4%にあたる 351 人の記載があった。記載内容を下記分類により整理すると、次のような件数となる。なお、一回答者が複数の意見を記載している場合は、それぞれの分類項目について1件として件数をあげている。

表 8 - 1 分野別課題別自由意見記載件数表

分野	意見項目	件数
都市イメージ	市民が誇りに思う新たな都市イメージ・ブランドの形成	21
	高齢者が安心して生きがいを持って暮らせ、まちに活気を生み出す若いファミリー層が「住みたい」「住み続けたい」と思うまちづくりの推進	16
教育・文化	生きる力と豊かな心を育む教育の推進	11
	学力の向上をめざした教育の推進	18
	食育の推進	1
	地域ぐるみの教育推進	36
	生涯学習環境・機会の充実	2
	歴史遺産や伝統文化の保存・継承	2
	文化芸術を楽しめ、自らも参加できる社会の形成	1
産業振興	企業誘致による雇用の創出	4
	ものづくりを中心とした既存産業の強化、人材育成の推進	4
	駅周辺の商店街などの活性化	6
	農業(レンコン栽培など)の保全と振興	6
健康・福祉・医療	子どもを安心して産み育てることができる環境整備	21
	高齢者の生きがいづくりの推進	6
	障がいのある人など誰もが社会参加できる環境づくり	5
	高齢者の健康づくりの推進	2
	市民相互に支え合う地域福祉の推進	6
	社会保障(生活保護の適正化等)の充実	48
	うち適正化を望む意見	33
	医療サービス体制の充実	15
人づくり・市民との協働	生活習慣病予防や健康づくり推進	3
	NPO・ボランティアなどとの連携による協働社会の形成	5
	自治会・地域コミュニティの活性化	21
	家族や地域の絆の強化	11
	元気な高齢者の活用促進	4
	男女共同参画社会の形成	0
	国際交流を促す環境づくり	3
安全・安心	地域における防犯対策の推進	43
	災害対策(防災体制の確立、自主防災の推進等)の推進	15
	義務教育施設の耐震改修の促進	1
	消防力の強化、救急・救助体制の充実	5
	市民の消費生活の支援対策の充実	3
都市構造や交通、市街地環境	バリアフリーやユニバーサルデザインによるまちづくりの推進	9
	安全で便利に通ることができる道路整備	60
	子どもが安心して遊べる公園や広場の充実	22
	密集市街地再生の推進	23
	駅前シンボルゾーンにおけるまちづくりの推進	12
	自転車安全に利用できるまちづくりの推進	8
	誰もが便利で生活しやすい公共交通サービスの充実	14
環境	下水道整備の推進	19
	美しいまちづくりの推進	29
	循環型社会形成に向けた取り組みの推進	1
財政・行政運営	緑化推進対策の充実	24
	持続可能な都市経営への取り組みの推進	12
	市民意見の行政反映システムの構築	19
	目的や目標、結果がみえる施策の設定と推進	11
	市民が市政に親しむことができる環境づくり	9
	市民にもわかりやすい市の組織づくり	5
その他	行政の積極的な情報公開の推進	15
	お礼	12
	その他(上記に分類されない意見)	75

## 第9章 まとめ

### (1) 回答者の約9割が引っ越しにより本市に住んでいる。住むことになった動機は、土地や住宅が手頃であることや結婚のため、通勤・通学の利便性が良いことなどが主な理由となっている。

◇独立一戸建て住宅が5割強、持ち家が7割弱を占め過去の調査から増加している。

◇現居住地への居住起因は、約9割が“引っ越して来てから”、1割が“生まれたときから”となっている。また、回答者本人あるいは本人の家族などが現居住地に住むことになった年代については、平成10年以降が26.1%と最も多く、次いで昭和50年代の19.3%、昭和40年代の17.7%、平成元年～9年の14.9%と続いている。

◇現居住地に居住することとなった理由としては“手頃な土地や住宅があったから”が約3割と最も多く、次いで“結婚のため”が2割強、“通勤・通学に便利だから”が2割弱となっている。

### (2) 過去の調査から徐々に定住意向者が増加し、今回の調査では5割を超えている。利便性や地域への愛着などが主な定住意向の理由となっている一方、生活環境や住宅・住宅問題などが主な移住意向の理由となっている。

◇定住意向者が約5割と過去の調査から増加し、一方、移住意向者は約3割を占め、定住意向者の割合が上回っている。

◇定住意向者の定住理由は、“日常生活に便利だから”が5割強、“今住んでいるところに愛着があるから”が約4割、“近所づきあいがうまくいっているから”が2割強となっている。

◇移住意向者の移住理由をみると、“その他まわりの生活環境が悪いなど”が43.2%と最も高く、次いで“住宅が古く、老朽したから”が30.6%、“住宅が狭いから”が25.6%と続いている。

◇移住意向者の移住希望先は、“門真市内”や“京阪沿線”以外の地域が4割強、“京阪沿線”が2割強、“門真市内”が約2割となっている。

### (3) 防犯や交通安全対策など、安心・安全な生活やうるおいを求める施策の充実が求められている。一方、下水道、公共交通機関、幹線道路などの都市基盤施設とゴミの減量対策が比較的満足度の高い施策となっている。

◇重点強化対応検討課題

① 防犯対策 ② 行財政の運営 ③ 交通安全 ④ 子どもを産み、育てやすいまちづくり

◇強化対応検討課題

⑤ 災害の対策や防災体制の整備 ⑥ 街並み・景観への配慮 ⑦ 市政への市民意見の反映  
⑧ 休日、夜間などの救急医療体制 ⑨ 公園・緑地の整備

◇満足度が3以上となっているものは、「下水道の整備」、「公共交通機関の充実」、「幹線道路の整備」、「ごみの減量・省エネ、リサイクル対策」となっている。

### (4) 市街地の整備では、住宅が密集する地区における住環境整備が最も望まれている。

◇市街地整備については、“住宅が密集する地区の住環境整備”で4割強と最も多く、次いで“駅周辺商店街の活性化に向けた整備”が2割強、“農地などが残る地域での良好な開発の誘導”

や“いろいろな建物の混在地域の解消”が1割強と続いている。

**(5) 道路整備では、快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備が最も望まれている。**

◇道路整備については、“快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる道の整備”で4割強と最も多く、“車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備”が2割強  
“住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備”が1割強と続き、歩行者や自転車の安全で快適な通行や生活道路の整備が望まれている。

**(6) うるおいの創出面では、まちの中の緑を増やすことが最も望まれている。**

◇うるおいの創出については、“まちの中の緑を増やす”が6割強と最も多く、次いで、“市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる”が2割強となっている。

**(7) 子育て支援では、子育て中の世代は、子育て家庭への経済的支援や保育サービスの充実を強く望んでいる。**

◇子育て支援については、“保育サービスの充実”が約4割と最も多く、次いで、“子育て家庭への経済的支援の充実”が4割弱、“若者・女性への就職・再就職支援”が約3割、“学校教育の充実”が3割弱、“地域での若者などの雇用の場づくり”及び“地域での子育て支援や交流の充実”が2割強となっている。

◇子育ての中心世代である20歳代～30歳の男女別の子育て支援に関する意向をみると、女性では、“子育て家庭への経済的支援の充実”、“保育サービスの充実”が5割を超えている。男性では、“子育て家庭への経済的支援の充実”が5割弱、“保育サービスの充実”が約4割、“学校教育の充実”が3割強となっている。

**(8) 地域や市民活動への参加の経験や意向のある人が約5割を占め、防犯活動、ごみの減量・リサイクル、まちの美化・緑化などについて市民ができることとしている。**

◇地域や市民活動へ参加の経験や意向を有する回答者は全体の約5割を占めている。

◇市民ができることや市民がやるべきことについては、“防犯活動”、“ごみの減量・リサイクル”、“まちの美化・緑化”が5割を超えている。

◇行政が行うべきことについては、“高齢者の支援”、“防犯活動”“子育て支援”が5割を超えている。

**(9) 協働の取り組みについての認知状況や評価はまだ低く、協働を進めていくためには、市民と行政の意見交換の場の充実などが求められている。**

◇協働の取り組み状況については、“取り組んでいる”とする回答者は僅か1.1%であり、“まあまあ取り組んでいる”が12.3%となっており、本市において市民と行政の協働の取り組みについての認知状況や評価は低い状況である。

◇市民と行政が協力してまちづくりを行ううえで必要と思われることについては、“市民と行政の意見交換の場の充実”が5割強を占め、“市政情報の公開の充実”“市民活動支援のための担当窓口の充実”、“市民活動の情報発信など広報等の充実”と続いている。

**(10) 家電メーカーや大阪府自動車試験場があるまちとしての認知が高く、家電メーカーやなみはやドーム、自動車試験場が市民の誇れるシンボルであるとしている。**

◇本市の他地域の認知要因については、“家電メーカーを中心とした産業のまち”が3割強と最も多く、次いで“大阪府自動車試験場があるまち”が約3割、“木造アパートや文化住宅が密集したまち”が2割弱となっている。

◇本市のシンボルや誇りに思えるものは、“大手家電メーカー”が3割弱と最も多く、次いで“なみはやドーム”や“自動車試験場”が2割弱となっている。

**(11) 市民が将来に望む門真市のイメージは、安全で安心して住めるまちが強く望まれ、これからのまちづくりでは、生活しやすく便利なことを強みの資源として活用していくことが望まれている。**

◇市民が将来に望む門真市のイメージについては、“安全で安心して住めるまち”が6割弱と最も多く、次いで“まちなみが整った緑の多いまち”が2割弱となっている。

◇まちづくりに活用すべき資源については、“生活しやすく便利なこと”が6割弱と最も多く、“鉄道や道路など交通が便利なこと”が1割強となっており、圧倒的に“生活しやすく便利なこと”がまちづくりに活用すべき資源として集中している。

◇今後の本市を表す言葉（キーワード）についてみると、“安心・安全”が5割強と他の言葉と比較して圧倒的に高い割合となっている。次いで“活力・にぎわい”が3割弱、“経済的な豊かさ”が2割強と続いている。この結果にも示されるように、市民が何よりも安心や安全を求めていることがうかがえる。

## **付 表**

**門真市第5次総合計画策定にかかる市民意識調査**

# **調査票**

門真市第5次総合計画策定にかかる

## 市民意識調査

### ～ みなさんのお考えが門真市のまちづくりに活かされます！～

市民のみなさまには、日頃より門真市市政にご協力いただきまして、厚くお礼を申し上げます。

現在、門真市では新たなまちづくりの指針となる「門真市第5次総合計画」を策定しております。つきましては、市が進むべき方向について市民のみなさまのお考えをお聞きするため、アンケート調査を実施します。

調査の結果は、市の施策の優先順位づけや市民と行政の役割分担などの参考といたします。みなさまのご意見をまちづくりに活かしたいと考えておりますので、ご協力をおねがいいたします。

平成21年1月 門真市

- この調査の対象者は、門真市在住の20歳以上の方の中から無作為に抽出させていただきました。回答は、**封筒の宛て名のご本人の方のご意見**をご記入下さい。
- この調査では、個人が特定されるなど個人的に迷惑がかかることは一切ありません。
- ご回答いただいた調査票は、お手数ですが同封しました返信用封筒に入れて、**平成21年2月10日（火）まで**に投函して下さい。**調査票、返信用封筒ともに無記名**で結構です。また、**切手は不要**です。

(お問い合わせ先)

門真市役所 総合政策部 企画課 企画グループ

電話 06-6902-1231 (内線 2121)

FAX 06-6905-3264



**I. まず、あなたご自身やお宅のことについておたずねします。**

I-1. あなたのお住まいは、……門真市（大字）  町

I-2. あなたの性別は、……  1. 男 2. 女

I-3. あなたの年齢は、……  1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳  
4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70～79歳  
7. 80歳以上

I-4. あなたの従業地や通学地は…  市町村  区

注) 通勤や通学をされておられない場合は、空欄で結構です。

I-5. 現在、あなたといっしょにお住まいの方全てに○を付けて下さい。

1. 祖父 2. 祖母 3. 父 4. 母 5. 配偶者 6. 子供 < > 人  
7. 兄弟 < > 人 8. 友達 < > 人 9. 単身 10. その他 < > 人

**II. 次に、あなたの現在のお住まいについておたずねします。**

II-1. あなたは現在のところに生まれたときからお住まいですか。

1. 生まれた時から 2. 引っ越して来てから

II-2. 前問II-1で“1. 生まれた時から”と回答された方におたずねします。  
あなたのご両親や祖父母、先祖が現在のところにお住まいになったのは、いつ頃か  
らと聞いておられますか。 (○は一つ)

1. 明治時代以前 2. 大正時代 3. 昭和20年頃まで 4. 昭和20年代  
5. 昭和30年代 6. 昭和40年代 7. 昭和50年代 8. 平成になってから

II-3. 前問II-1で“2. 引っ越して来てから”と回答された方におたずねします。  
あなたが引っ越して来られた時期は、いつ頃ですか。 (○は一つ)

1. 昭和20年以前 2. 昭和20年代 3. 昭和30年代 4. 昭和40年代  
5. 昭和50年代 6. 昭和60年代 7. 平成元年～9年 8. 平成10年～

II-4. 現在のところにお住まいになったのは、どのような理由からですか。

\*あなたのご両親・祖父母あるいは先祖が現在のところにお住まいになった理由も分かれば、  
ご記入ください) (○はいくつでも)

1. 就職のため 2. 転勤・転職のため 3. 結婚のため 4. 転学のため  
5. 子供の教育のため 6. 親が住んでいたから 7. 家賃が安いから 8. 物価が安いから  
9. 通勤・通学に便利だから 10. 日常生活に便利だから  
11. 手頃な土地や住宅があったから 12. まわりの生活環境が良いから  
13. まわりの自然環境が良いから 14. 親戚や知人が近くにいるから  
15. 家を代わりたくなったから 16. その他 (具体的に )

Ⅱ－５．あなたがお住まいの住宅の所有や形式はどれに該当しますか。（○は一つ）

- ①．所有形態
- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1. あなたあるいはあなたのご家族の持家 | 2. 社宅、官舎    |
| 3. 市営、府営、公団等の借家      | 4. 間借り      |
| 5. 民営の借家             | 6. その他（具体的に |

- ②．住宅形式
- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 1. 独立一戸建て住宅 | 2. 木造アパート・共同住宅（2階建以下） |
| 3. 長屋建住宅    | 4. 中高層共同住宅（3階建以上）     |
| 5. その他（具体的に |                       |

Ⅱ－６．これからも現在のところに住みつづけたいと考えていますか。（○は一つ）

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 住みつづけたい（Ⅱ－７へ）      | 2. できればよそに移りたい（Ⅱ－８へ） |
| 3. すぐにでもよそに移りたい（Ⅱ－８へ） | 4. なにも考えていない         |

Ⅱ－７．前問Ⅱ－６で“1. 住みつづけたい”と考えておられるのはどのような理由からですか。（○はいくつでも）

- |                           |                       |               |
|---------------------------|-----------------------|---------------|
| 1. 事業や仕事の関係から             | 2. 日常生活に便利だから         | 3. 子供の教育の関係から |
| 4. 通勤・通学に便利だから            | 5. 家賃が安いから            | 6. 物価が安いから    |
| 7. まわりの自然環境が良いから          | 8. 先祖代々住んでいるから        |               |
| 9. 近所づきあいがうまくいっているから      | 10. 今住んでいるところに愛着があるから |               |
| 11. その他まわりの生活環境が良いなど（具体的に |                       |               |

Ⅱ－８．設問Ⅱ－６で“2. できればよそに移りたい”あるいは“3. すぐにでもよそに移りたい”と考えておられるのはどのような理由からですか。（○はいくつでも）

- |                           |                          |               |
|---------------------------|--------------------------|---------------|
| 1. 住宅が狭いから                | 2. 住宅が古く、老朽したから          | 3. 子供の教育の関係から |
| 4. 交通の便が悪いから              | 5. 日常生活に不便だから            | 6. 故郷に帰りたいから  |
| 7. 通勤や通学に不便だから            | 8. 家が密集しているから（日当たりが悪いなど） |               |
| 9. 就職や転勤・転職などのため          | 10. 近所づきあいがうまくいっていないから   |               |
| 11. その他まわりの生活環境が悪いなど（具体的に |                          |               |

Ⅱ－９．設問Ⅱ－６で“2. できればよそに移りたい”あるいは“3. すぐにでもよそに移りたい”と回答された方におたずねします。“よそに移りたい”と思われる場所はどのようなところでしょうか。（○は一つ）

- |                          |           |       |
|--------------------------|-----------|-------|
| 1. 門真市内の他の場所（例えば具体的な場所では | 町（大字）あたり） |       |
| 2. 京阪沿線（例えば具体的な場所では      | 市の        | 駅あたり） |
| 3. その他の地域（例えば具体的な場所では    | 市町村の      | 駅あたり） |

Ⅲ. 次に、各分野の施策の満足度や重要度についておたずねします。

次の各項目について、「満足度」「重要度」それぞれについて5点満点で評価し、該当する数字を一つずつ○印で囲んで下さい。(特に市政やまちづくりに活かしたいこと、市や市民に伝えたいことがありましたら、自由記述欄にご記入ください。)

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
都市基盤に関する事	<b>1 市街地の魅力とにぎわい</b> 市街地が整備され、にぎわいがあること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>2 住宅地の整備</b> 住宅地が整備され、生活しやすい環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>3 公園・緑地の整備</b> 身近に公園や緑地が整備されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
<b>4 街並み・景観への配慮</b> 美しいまちなみであること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>5 下水道の整備</b> 下水道が整備されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>6 災害の対策や防災体制の整備</b> 地震や浸水害など災害への対策や災害時の体制などが整備されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
都市基盤に関すること	<b>7 幹線道路の整備</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	まちの骨格を形成する幹線道路が整備され、他地域への行くのが便利であること	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
	<b>8 生活道路の整備</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	安全で便利な道路の整備がなされていること	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
都市基盤に関すること	<b>9 公共交通機関の充実</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	バスや鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
	<b>10 ライフスタイルに応じた生涯学習の充実</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	学びたい時に学べる環境が整っていること	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
教育・文化等に関すること	<b>11 家庭や地域の教育力の向上</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	家庭や地域で子どもを育む環境となっていること	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
	<b>12 公民館、図書館、体育館などの整備</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	公民館、図書館、体育館などが使いやすいこと	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											
教育・文化等に関すること	<b>13 スポーツに親しめる環境づくり</b>	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	身近にスポーツ等に取り組める環境ができていること	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。											

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
教育・文化等に関すること	<b>14 芸術や文化にふれることができる環境づくり</b> 身近に芸術や文化にふれることができる環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>15 国際交流の推進</b> 国外の都市との交流が行われていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>16 外国人との共生に向けた取り組み</b> 在住外国人と活発に交流できていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>17 子どもの個性と可能性を伸ばす教育の推進</b> 幼稚園、保育園や学校において個性を尊重した教育が進められていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>18 保護者、地域、学校の連携による教育の推進</b> 保護者、地域、学校が連携して子どもの教育に取り組んでいること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>19 学校施設等の充実</b> 学校施設の耐震補強や地域に開かれた施設の活用がなされていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
保健・医療・福祉 に関すること	<b>20 心身の健康づくりの推進</b> 市民が健康づくりに取り組める環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
保健・医療・福祉に関すること	<b>21 保健事業の推進</b> 健康診査・各種検診などが充実し、利用しやすいこと	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>22 医療サービスの提供体制</b> 医療施設が整備され、医療サービスがいつでも利用しやすい環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>23 休日、夜間などの救急医療体制</b> 救急医療体制ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>24 地域福祉の推進</b> 互いに助け合い、支え合う地域のつながりができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>25 高齢者が暮らしやすいまちづくり</b> 高齢者が生きがいを持ち、いきいきと暮らせる環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>26 障がい者が暮らしやすいまちづくり</b> 障がい者が自立しながら安心して暮らせる環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>27 子どもを産み、育てやすいまちづくり</b> 保育サービスや子育て家庭への支援が充実し、子育てしやすい環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
保健・医療・福祉に関すること	<b>28 バリアフリー*1やユニバーサルデザイン*2によるまちづくり</b> 公共施設などが誰もが使いやすく整備されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
市民生活に関すること	<b>29 福祉施設等の整備</b> 各種福祉施設が使いやすく整備されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
市民生活に関すること	<b>30 男女共同参画社会づくり</b> 男女がともに様々な活動に平等に関わることができる社会となっていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
市民生活に関すること	<b>31 自然環境の保全</b> 自然環境の保全や、環境教育などが行われていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
市民生活に関すること	<b>32 ごみの減量、省エネ、リサイクル対策</b> ごみの減量や省エネルギー対策、リサイクルの取組みが行われていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
市民生活に関すること	<b>33 交通安全</b> 安全に外出できる道路などの環境ができていないこと	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												

- \* 1 高齢者や障がい者の生活に不便な障害を取り除こうという考え。主に、道や床の段差を無くしたり、階段のかわりにゆるやかな坂道を作ったりすること。
- \* 2 高齢であることや障がいの有無などにかかわらず、全ての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間をデザインすること。

区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
市民生活に関する事	<b>34 防犯対策</b> 犯罪などに巻き込まれない安心できる環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>35 情報ネットワークの整備</b> インターネットやCATVなどを活用した行政情報を提供できるしくみができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
市民生活に関する事	<b>36 自治会や市民活動の活性化</b> 自治会活動や市民活動が活性化するような環境ができていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>37 商業の活性化</b> 商店街の活性化や商業地域の整備がなされていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
産業に関する事	<b>38 工業の活性化</b> 活発な工業活動が行われるような環境になっていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>39 企業誘致による雇用の創出</b> 企業誘致などにより雇用が確保されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
産業に関する事	<b>40 農業の振興</b> 生産者と消費者にとって魅力的な農業が行われていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												



区分	項目	満足度					重要度						
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない		
行政に関する事	<b>41 行政の積極的な情報公開</b> 行政の情報が適切に市民へ提供されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>42 市政への市民意見の反映</b> 市政に市民意見が十分に反映されていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
	<b>43 市の窓口の使いやすさ</b> 迅速で明るく、わかりやすい窓口サービスがなされていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1
	上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。												
<b>44 市の情報の発信・収集</b> 広報紙などで広報・公聴活動が十分なされていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>45 市の組織のわかりやすさ</b> 組織がわかりやすく、市民にとって利用しやすいものとなっていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													
<b>46 行財政の運営</b> 無駄を省いた、健全で効率的な財政運営がなされていること	満足度	5	4	3	2	1	重要度	5	4	3	2	1	
上のような採点をした理由など、ご意見があればお書きください。													

#### IV. 次に、魅力ある門真市を創るためのあなたのお考えをお聞きます。

IV-1. 市街地の整備について最も必要と思われること1つに○を付けて下さい。

1. 住宅が密集する地区の住環境整備
2. 農地などが残る地域での良好な開発の誘導
3. いろいろな建物の混在地域の解消
4. 駅周辺商店街の活性化に向けた整備
5. その他（具体的に )

IV-2. 道路などの整備について最も必要と思われること1つに○を付けて下さい。

1. 車の通行量が多い、歩行者や自転車にとって危険な幹線道路の整備
2. 各駅周辺などの放置自転車対策
3. 快適に安心して歩行ができ、自転車も通行できる“道”の整備
4. 住宅地の中の狭くて迷路のようになっている道路の整備
5. 駅前の交通広場の整備
6. その他（具体的に )

IV-3. “水”や“緑”“歴史遺産”など、まちのうるおいづくりのために最も望まれること1つに○を付けて下さい。

1. まちの中の“緑”を増やす
2. 市内の河川や水路に親しめる水辺をつくる
3. 歴史遺産や天然記念物の保全
4. 昔の集落のまちなみや水郷のなごりの保全
5. その他（具体的に )

IV-4. 子育てをしやすいまちにするために、力を入れるべきと思われるもの3つまで○を付けてください。

1. 若者・女性への就職・再就職支援
2. 地域での雇用の場づくり
3. 家庭での男女共同参画の推進
4. 保育サービスの充実
5. 学校教育の充実
6. 地域での子育て支援や交流の充実
7. 子育て家庭への経済的支援の充実
8. 若い世代向けの住宅の確保
9. その他 ( )

#### V. 市民と行政の協働のまちづくりについておたずねします。

V-1. あなたは地域や市民活動（自治会の活動やボランティア活動など）に参加したことがありますか。（○はひとつ）

1. 今、参加している
2. 今は参加していないが、今後参加したい
3. 今も参加しおらず、今後も参加したいと思わない
4. わからない

V-2. 次の中で市民ができることや市民がやるべきことは何だと思えますか。

（○はいくつでも）

1. 防災活動
2. 防犯活動
3. 子育て支援
4. 高齢者の支援
5. 障がい者（児）の支援
6. 健康づくり活動
7. ごみの減量・リサイクル
8. まちの美化・緑化
9. 自然保護や環境の保全
10. 青少年健全育成
11. スポーツ活動
12. 文化や芸術活動
13. 在住外国人との交流
14. レクリエーション活動
15. 産業振興
16. 歴史の保存・継承
17. その他 ( )

V-3. 次の中で、行政がやるべきことは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- |                |               |                |           |
|----------------|---------------|----------------|-----------|
| 1. 防災活動        | 2. 防犯活動       | 3. 子育て支援       | 4. 高齢者の支援 |
| 5. 障がい者(児)の支援  | 6. 健康づくり活動    | 7. ごみの減量・リサイクル |           |
| 8. まちの美化・緑化    | 9. 自然保護や環境の保全 | 10. 青少年健全育成    |           |
| 11. スポーツ活動     | 12. 文化や芸術活動   | 13. 在住外国人との交流  |           |
| 14. レクリエーション活動 | 15. 産業振興      | 16. 歴史の保存・継承   |           |
| 17. その他( )     |               |                |           |

V-4. 現在、門真市では市民と行政が協力してまちづくりに取り組んでいると思いますか。(○はひとつ)

- |                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
| 1. 取り組んでいる     | 2. まあまあ取り組んでいる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり取り組んでいない | 5. 全く取り組んでいない  | 6. わからない     |

V-5. 市民と行政が協力してまちづくりを行ううえで、あなたが必要だと思うのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 市民と行政の意見交換の場の充実   | 2. 市政情報の公開の充実        |
| 3. 計画づくりなど市民参加機会の充実  | 4. 市民活動の情報発信など広報等の充実 |
| 5. 市民参加イベントなどの広報等の充実 | 6. 市民活動支援のための担当窓口の充実 |
| 7. 市民が活動するための拠点施設の充実 | 8. その他( )            |

## VI. これからの門真市のイメージなどについておたずねします。

VI-1. 門真市は、どのようなことで他の地域の人に知られていると思いますか。(○は一つ)

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 家電メーカーを中心とした産業のまち  | 2. 大都市周辺に位置するベッドタウン |
| 3. 木造アパートや文化住宅が密集したまち | 4. くわいや河内蓮根などの産地    |
| 5. 大阪府自動車試験場があるまち     | 6. その他(具体的に )       |

VI-2. あなた自身は、門真市のシンボルや誇りはどのようなものと思いますか。(○は一つ)

- |                     |               |           |       |
|---------------------|---------------|-----------|-------|
| 1. 市民文化会館(ルミエールホール) | 2. なみはやドーム    | 3. 自動車試験場 |       |
| 4. 大手家電メーカー         | 5. 大きな楠の木     | 6. 桜並木の水路 | 7. 水郷 |
| 8. 蓮根やくわい           | 9. その他(具体的に ) |           |       |

VI-3. あなたは今後も門真市にお住みになるとすれば、どのようなイメージのまちになればよいと思われますか。(○は一つ)

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1. まちなみが整った緑の多いまち      | 2. 若者などが集う活気あるまち |
| 3. いろいろな施設がたくさんある楽しいまち | 4. 安全で安心して住めるまち  |
| 5. 歴史や情緒が感じられるロマンのあるまち | 6. 教育の環境が整ったまち   |
| 7. 今のままのまちでよい          |                  |
| 8. その他(具体的に )          |                  |

VI-4. 門真市のまちづくりに活用すべきことは何とされますか。(○は一つ)

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1. 生活しやすく便利なこと     | 2. 工場などたくさん働く場所があること |
| 3. 鉄道や道路など交通が便利なこと | 4. 隣近所のコミュニティが良いこと   |
| 5. その他(具体的に        | )                    |

VI-5. 今後の門真市を表すものとして、どのような「言葉(キーワード)」がふさわしいと思いますか。(○は3つまで)

- |            |            |           |           |          |          |
|------------|------------|-----------|-----------|----------|----------|
| 1. 活力・にぎわい | 2. 経済的な豊かさ | 3. 自然の豊かさ | 4. 心の豊かさ  | 5. 快適さ   |          |
| 6. 便利さ     | 7. 安心・安全   | 8. 美しさ    | 9. 楽しさ    | 10. ふれあい | 11. やさしさ |
| 12. 憩い     | 13. 創意・挑戦  | 14. 健康    | 15. 教育・文化 | 16. 協働   | 17. 生きがい |
| 18. うるおい   | 19. 交流     | 20. 発展    | 21. その他(  | )        |          |

**VII. 門真市のまちづくりについて、ご意見等がありましたら、ご自由にご記入下さい。**


質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、封をして、切手を貼らずに、**2月10日(火)まで**にポストに投函して下さい。